

UFO・超能力・宇宙哲学

UFO

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER

UFO・ESP・Cosmic Philosophy
コンタクティー

contactee

AUTUMN
1997

138

火星に出会った男

異星人女性との不思議な出会い
UFOの磁気モーターの謎を解明
宇宙哲学で良き運命をつくる方法

宇宙の法則のもとに生きるスペース・ブラザーズ



CONTENTS <Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness>

<巻頭言>歴史と社会	1
火星に出会った男	久保田八郎 2
コニストン円盤事件の現地を訪ねて	高橋 徹 10
<写真>沖縄のUFO	徳永 スミ 14
<写真>UFO、東京造形大学に出現!	加藤 純一 15
異星人女性との不思議な出会い	ミッシェル・ジルジェ 16
UFOの磁気モーターの謎を解明	遠藤 昭則 18
GAP短信	26
久保田会長、東京造形大学で講演	27
科学—SCIENCE	28
宇宙の使者—日本GAP	加藤 純一 30
1997年度第2回UFO写真展	会田 裕子 33
宇宙哲学で良き運命をつくる方法	久保田八郎 34
大盛況 福山支部大会	37
宇宙の法則のもとに生きるスペース・ブラザーズ(1)	ジョージ・アダムスキー 38
<広告>日本GAP第17回海外研修旅行「イスラエル聖地遺跡の旅」	45
<予告>1997年度日本GAP総会	47
<投稿欄>ユーコン広場	48
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大國政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

日本GAPへ入りませんか

●日本GAPはわが国最大のUFOと宇宙哲学の会員制団体です。会員は約1600名。世界でもトップクラスの研究集団として、国際的なUFO団体や個人研究者と交流を保っています。

●東京本部と地方の16支部は毎月、月例セミナーを開催し、UFO問題や宇宙哲学について研鑽しており、UFO観測会その他の会合を開催して活動しています。

●東京では毎月第1日曜日に港区東京タワー前の機械振興会館で月例セミナーを開催。わが国のUFOと宇宙哲学研究の大先駆者・久保田八郎会長の解説講演、超能力開発練習、UFOビデオ映写、その他を実施。宇宙的な波動のもとに真面目に研究し、品格のある楽しい雰囲気にかけています。

●入会は中学生以上なら誰でもできます。下記へハガキで案内書をお申し込み下されば、お送りいたします。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP ☎03-3651-0958

<表紙写真>

1989年9月27日、米テネシー州のナッシュビルで一人の定年退職者が夜間に多彩な色光を放つ円盤状物体が飛ぶのを見るようになった。そこで本人はカメラを携行して数度の機会に一連の写真を撮ることに成功した。これはその1枚で、本人の妻も目撃しているという。

©日本GAP

<巻頭言>

歴史と社会



最近の新聞報道によれば、太陽系の惑星の中で軌道が最も外側になる冥王星の軌道半径の三倍もある新しい天体が発見されたという。これは米マサチューセッツ州のハーバード・スミソニアン天文物理センターのジェーン・ルー博士の研究チームが、昨年一〇月からハワイ大学の望遠鏡で発見して、数カ月間追跡した結果確認したというのだ。

これはアダムスキーの太陽系一二惑星説に一步接近した新発見であり、これによって従来の太陽系の惑星九個説が揺らぐことになる。「太陽系の惑星は九個しかないのだ、学校でそのように教えているではないか」と古い学説にしがみつき、一二惑星説を嘲笑していた人たちは、この新説発表にどんな顔をするだろうか。

しかもアダムスキーは、太陽系の全惑星に地球と同様の熱と大気が与えられている理由として、火星と木星間に存在するマイナスのアステロイド帯が太陽のプラスの放射線を吸引加速して通過させ、さらに海王星と冥王星間のマイナスの第二アステロイド帯がその

放射線を吸引加速して通過させた上、最終的には冥王星の外側にある未発見の三個の惑星の外側にあるマイナスの第三アステロイド帯がさらに吸引するので、太陽放射線は全惑星に等しく熱を与えているのだと言っている。そのため逆二乗の法則は適用されず、全一二個の惑星に人類が居住して大文明を築いているという。今回の発見は冥王星以遠のアステロイド帯の存在も示唆している。

およそ学説というものが市民権を得るには大体に二〇年かかるといわれている。コペルニクスがその原稿「天体の回転について」で地動説を打ち出したとき、彼は教会の迫害を恐れて発刊を危惧したけれども、友人のギーゼやレティクスらの熱心な勧誘によって刊行を決意した。その初校が届いたときには臨終の床にあつたという。

後にこの地動説に共鳴したブルーノやガリレイたちは教会から猛烈な迫害を受けて、ブルーノはついに火刑に処せられた。この残忍きわまりない仕打ちをしたのは、イエスの愛の哲学を実践して人間を救済する立場にあつた宗教団体であつた。ローマの花の広場に立つブルーノの銅像は、彼が焼き殺された位置に建てられている。

アダムスキーは火刑までには至らなかったけれども、これ以上はないというほどの罵倒にさらされて不遇な生涯を終えている。いまだに彼を山師扱い

する者があとを絶たない。この世界の歴史は残酷な攻撃者と少数の真理発見者との闘いから成っている。

アダムスキーとはそれほどに荒唐無稽な説を唱えた人物だつたのだろうか。実は彼が驚くべき宇宙的な活動を行なっていた人物であることを、アメリカのFBI(連邦捜査局)は彼の生前から探知していたのである。つまり彼が別な惑星から来た「人間」たちとコンタクトし、太陽系の惑星群の実態に関して当時のいかなる天文学者も知らなかつた物凄い事実を把握していたことを確認していたのだ。だからFBIは彼を最重要人物としてマークしていたのである。しかもこの件に関するFBIの驚くべき文書が存在しているのだ。

それが公開されたならば世界の学会に大変動が発生するだろう、と言いたいところだが、急にはそうなるまい。しかしいざずれアダムスキーの凄まじい努力と勇気が報われるときは到来するだろう。コペルニクスのようにだ。

それよりもむしろ惑星探査機による新発見の方がもつと説得力を発揮するかもしれない。なにせ地球人は科学的物証を絶対的に必要とする人種なので(それは当然である。科学的態度が失われてはならない)証拠物件を出さな

いことには話にならないのだ。それは遠からず出てくると確信する。今世紀末に地球世界で発生する大変動は—もし発生するとすればの話だが—

地球の自転軸の傾きによる大破壊や大戦争による破壊ではない。あるとすれば、別な惑星の宇宙船団が大挙して地球に飛来するという説がある。それはインデペンデンス・デイのごとき地球侵略ではなくて、宇宙に対して眠りこけた地球人を覚醒させるためであるという。相手は怪獣やオバケではない。高貴な精神を持つ人間なのである。つまり、この太陽系の各惑星には地球人が逆立ちしても追いつかないほどに進化した人間が居住して天国のような世界を築いているのだ、ということをも「事実」としてアダムスキーは伝えたのである。そしてそれをFBIも「知っていた」のだ!

昔からアダムスキーを支持していた少数の啓蒙家たちは、これで少なくとも火あぶりになることはないだろう。むしろ宇宙開発の巨大な科学技術の波濤に呑み込まれて彼らの存在は消滅するかもしれないが、一時期といえどもこの問題提起に活躍して少数の理解ある人々に真相を伝えたことは、本人や共鳴者たちの来世の良きカルマの形成に役立つかもしれない。

白昼、ローマの開散とした花の広場でブルーノの像を見上げていた編者の胸中に去来したのは、「歴史というもののいい加減さ」ではなくて「歴史は進展する」という声であつた。

常に明るい希望と勇気と信念をもつて前進しよう。(久)

A Man who Encountered a Martian
by Hachiro Kubota

火星に出会った男

★久保田八郎

（日本GAP会長）

第二次大戦後に世界的に発生したいわゆるUFO問題は、今世紀後半に突入してから俄然乗員とのコンタクトや同乗が頻発する時代となった。五〇年七月の米人タニエル・フライによるUFO乗船事件、五三年二月のジョージ・アダムスキーによる金星のスカウトシップと大母船同乗事件、さらに五四年二月一八日のイギリス人、セドリック・アリンガムの火星人との遭遇事件その他である。みな古い出来事のためアダムスキーを除いて文献や資料の絶版等でUFO研究界から忘却の彼方へ追いやられてしまったのは残念である。筆者はここにアリンガムの貴重な体験を発掘して読者に供したい。

愚かな批判で重要な事件が
葬られる

セ

ドリック・アリンガムは五四年当時、三〇歳を少し出たばかりのアマチュア天文家だ。

またバードウォッチャーでもあった。彼の原著「Flying Saucer from Mars（火星から来た空飛ぶ円盤）」によれば、住所、経歴、職業等はすべて伏せてある。これは後難をおそれて明記しなかったと思われるが、イギリス国民であったことは間違いない。

ご多分にもれず、火星人に出会ったという彼の体験記はアダムスキーをまねた捏造記事とされてひどい非難を浴びたけれども、後年アダムスキーが講演中の質疑応答で、アリンガムの体験をどう思うかとたずねられて、あれは真実の事件だったのだと答えた記録を筆者は入手している。

こうした重要な大事件が、信じない批判者によって簡単に葬り去られた例は枚挙にいとまがない。

たとえば一九八六年一月、パリからアメリカのアンカレッジ経由で日航

の貨物ジャンボ機を操縦していた寺内健二機長は、一七日の夕方、アンカレッジ上空で三機の巨大なUFOがジャンボ機と並行して飛ぶのを実に五〇分間も目撃したのである。しかも副操縦士と機関士の二名も目撃しているのだ。これは後に各新聞に大々的に報道されて世界的にニュースが流れた。筆者は英字紙ジャパンタイムズに掲載された当時の記事を今も保存している。

ところがUFOを信じないアメリカのある科学雑誌の編集長が、あれは木星を見間違えたのだと批判して、この問題は葬り去られたのである。なぜか？「科学」というコトバに弱い大衆は、こちらの放言が正しいと思ひ込んだのだ！

わが国の代表的なUFO研究者で筆者の友人である荒井欣一氏は、寺内機長の目撃談録音テープを所持しているというが、氏もアメリカの科学誌編集長の愚かなコメントに憤慨しておられたことがある。卑劣なUFO否定論者に惑わされてはいけない。彼らは無知であるだけのことなのだ。

突如、円盤が出現！

「将来、宇宙旅行の歴史を最初から書き記す時が来るとすれば、ジョージ・アダムスキーは間違いなくその歴史の中で重要な位置を占めることになるだろう。だが私（セドリック・アリンガム）はそうはならないだろう。私が火星の円盤と出会ったのは、アダムスキーやステイヴン・ダービシャーと違って、全く偶然のたまものであったと信じているからだ」

この謙虚な文章で体験記を始めているアリンガムは、一九五四年の始めにスコットランドへ向かって旅行中であった。彼は仕事のためにロンドンに少し滞在してから、旅行用のトレーラーを引っ張りながらスコットランドへの旅に出たのである。

二月一八日の朝、彼はスコットランドの東側に突き出た半島状の北岸に沿った寒村ロシーマウスとバツキーのあいだの海岸を歩いていて、鳥を観察するためである。ここは北緯五八度に近

い所だから、寒気の強い時期だったの
だろう。

数時間ぶらぶらと歩いているうちに、
一人の男に出会った。服装から見れば
土地の漁師らしい。先方もアリンガム
に気づいていたようだ。

その後一〇分ほど経過してから、彼
は突然ヒューツという風を切る音を聞
いた。最初は大きな鳥かと思っただ
が、見上げると鳥とは違う物らしい。
急いで双眼鏡を引っ張り出してのぞく

と、驚いたことに空飛ぶ円盤としか言
いようのない物体が見えるのだ！

写真撮影に成功

それは太陽光を反射して輝いており、
金属製のように見える。少し傾いたの
で上部にあるドームと球型着陸装置が
はつきりと確認できた。大きさはわか
らない。雲の高さを一五〇〇メートル
とみて、それから判断すれば爆撃機と

同じぐらいだという。

たしかに、空中の物体の大きさを判
断する場合、比較する物が他にない場
合は困るのである。雲でも引き合いに
だす以外に方法はないだろう。

アリンガムが放心状態になって見つ
めてみると、少し停止していた物体は
再度動き始めて急速に北の方向へ上昇
して行った。彼はすぐにカメラを取り
出して写真を三枚撮影した。このカメ
ラ名を明記していないが、安物の折り

たたみ式と言っている。たぶんコダッ
クのベストポケットあたりだろう。

写真は見事に写っていた。ただし小
さな点状でだ(右の写真)。

アリンガムは経緯台ながら一〇イン
チ反射望遠鏡を所持するアマチュア天
文家である。したがって天体観測の知
識はあるし、科学的な素養もあった。
そこでノートブックを取り出して、時
刻その他の記録を取り始めた。

彼は体験記の中で天文学関係その他



▲セドリック・アリンガムと愛用の10インチ反射望遠鏡。

▼1954年2月18日、アリンガムが最初に撮影した円盤。
午後12時35分に発見。高度は約1,500メートルと推測。



の科学的な事柄について相当な知識を披露している。ただの素人ではない。本職は伏せているものの、英文の文章はきわめて論理的で、教養の高さをうかがわせるのに十分な雰囲気があったよっている。

彼は三〇分ほどそこにおいて空を眺めまわしたけれども何も出ないので、座って弁当を食べ始めた。もう鳥などはどうでもよい。円盤にとりつかれてしまった彼は、二時一五分に場所を変えることにして、ロシーマウスから海岸沿いに歩き始めた。視界は全く平穩そのもので、つい先程の円盤の出現がウソみたいな気がする。

三時五分すぎ、またも円盤が出た！今度は高空を、さつきよりも速く飛んでいる。すぐ双眼鏡で見ると、氣象観測気球や飛行機ではない。彼は興奮して、またもカメラを構えたが、今度は写真にはならなかった。

この時点で彼はアダムスキーのデザートセンターのコンタクト事件を知っていたが、つい最近の二月一日にイングランド北部のアイリッシュ海岸に近いコニストンで、ステイヴン・ダービシャーがアダムスキー型の円盤を撮影した事件については何も知らなかったのである。旅行中のために新聞を読まなかったからだ。したがって彼はさつき見た円盤は金星のものだと思っていた。

彼はまたもロシーマウスから遠ざか

る方向にむかつて歩き始めた。心は円盤のことで占められている。また出るのではないか？

ついに円盤は着陸！

三時四〇分頃、またロシーマウスの方向へぐるりと向きを変えて歩きだした。

それから数分ほど経過したとき、突然、またも風を切る音が響いた！

あの円盤が飛んできたのだ！今度は着陸するらしい。三、四〇〇メートル前方に来たとき、低いエンジンらしい音が聞こえる。これからみると円盤は靈的な物ではないことがわかるとアリンガムは言う。

物体が低く降下するとき、彼は急いでカメラを取り出して撮影した。円盤は彼の方へやってくる。そしてにぶい音をたてて彼の位置から五〇メートルばかりの所に着陸した。

それは素晴らしい宇宙船であった。直径約一五メートル、高さは六メートルほどあり、胴体のすべては一枚の金属板で出来ているらしい。継ぎ目やボルトはなくて、滑らかな金属の表面の色彩と光沢は磨かれたアルミニウムみたいに見える。

上部のドームの下側の丸い壁には、三個ずつ並んだ窓がある。ドームの頂上には避雷針に似た黒い棒が飛び出ている。一方、機体下部に出ている三個

▼着陸した火星の円盤 撮影/セドリック・アリンガム



の球体着陸装置はゴムに似た少し弾力性の物質で出来ているらしい。何もかもが全く見当のつかない物のように見えた。

異星人の男が現われる！

アリンガムがおそろおそろる円盤に接近すると、機体の下部の滑り戸が開いて、一人の男が身軽に優雅に地上へ飛び降りた。相手は近寄って来る。アリ

ンガムが挨拶の意味で片手をあげると、相手も同じように片手を上げる。少しのあいだ二人は互いに相手を見つめ合った。

異星人の外観は大体に地球人と同じであった。アリンガムの身長は一七四センチあるが、相手はもう少し高い。約一メートル八〇センチだろう。三二歳のアリンガムと、見たところ同年配に見える。頭髮は褐色で短い。だが相手の皮膚は少し黒いタンニン

色に似ている。タンニンというのは五倍子などの植物に含まれる黄色の粉で、インクや染料などの原料に用いられる。だから東南アジア系の浅黒い皮膚に似ていたと思えばよいだろう。しかし相手が地球人の服装をすれば問題なく地球人で通用するだろう。ただ唯一の相違は、相手の額が見たこともないほどに異常に広いことであった。だが服装はまるで地球人のものとは異なっている。それは体の首から足先

までを完全に包んだ一体型で、靴もはいてはいない。服の生地はたぶん絶縁された柔らかい布である。

異様なのは相手の鼻だった。くわしく言えば鼻そのものは地球人と変わらないが、問題は鼻に特殊な器具が取り付けられているのだ。たぶん呼吸に関連のあるものなのか。チューブのような形で各鼻孔に届いており、下部の先端はマツチと同じ大きさの金属製のバンドに接続してある。一種の呼吸装置らしい。

だが、アダムスキーが会った火星人はこんな物を付けていなかったところから察すると、呼吸装置というよりも地球大気の浄化装置ではなかったかと思われる。

男は火星から来た

アリンガムがまぎれなくなったのは、相手の男がどこの惑星から来たかというところである。そこで彼は空を指さして質問する仕種をした。すると相手はこころよい微笑を浮かべてうなずいた。目も微笑していた。その顔つきは地球人にはほとんど見られない素晴らしい雰囲気^{あまな}をただよわせていた。

アリンガムはノートブックを取り出して図を描いた。中央に太陽を描き、そのまわりに放射状の光線を取り付けた。そのまわりに三つの円を描く。それは水星、金星、地球の軌道をあらわ



▲1954年2月18日の朝、セドリック・アリンガムがスコットランドの海岸を徒歩で移動中に、ロシーマウスとバッキーの間で、突如着陸した円盤から出てきた火星人と会見した。この写真は会談が終わって火星人が円盤の方へ歩く後ろ姿をとらえたもの。身長は約180センチ。見かけ上はアリンガムと同年輩に見えた。

したつもりだ。

彼は三番目の円を指さしてから、自分
分を指さした。相手はうなずく。

次に二番目の円を指さして、今度は
彼を指さす。

ところが驚いたことに相手は首を振
った。彼は金星から来たのではないの
だ。

アリンガムは再度図を指さして「ヴ
イナス（金星）」と言った。相手も
それをくりかえして言う。それは初め
て聞く声だが、流れるような澄み切っ
た音声である。これで相手が地球人
でないことは明確になった。

アリンガムはスケッチの中の金星の
軌道をふたたび指さしたが、相手はや
はり首を振る。

そこで彼は考えを変えて、地球の軌
道の外側に四番目の軌道を描いた。そ
れは火星なのだ。そして彼は「マーズ
（火星）」と言った。すると相手は即座
にうなずいた。

そこでアリンガムにわかったのは、
相手がアダムスキーの会った異星人と
似ていないことや、相手の円盤がアダ
ムスキーが見た円盤と似ているもの
全く同じではないということであった。
しかしなおもアリンガムはしつこく
確かめようと思ひ、一つの方法を思ひ
ついた。火星は赤い惑星として知られ
ているので（肉眼でもかなり赤く見え
る）彼は外側が赤色の万年筆を取り出
して、まず火星の軌道を指さし、次に

赤いペンを指して、最後に相手を指さ
した。すると相手はこの意味を即座に
理解して、またも「マーズ」と言った。

地球の戦争を憂慮する火星 人

次にアリンガムはアダムスキーの体
験記を思い出した。アダムスキーの場
合は、デザートセンターで出会った金
星人と話し合ったときに、テレパシー
やイメージ法を応用しながら意思疎通
を図っている。（注：アダムスキーの
デザートセンターにおける体験記は、
中央アート出版社刊・新アダムスキー
全集第一巻「第二惑星からの地球訪問
者」中の第一部に出ている）。

そこでアリンガムはそれをまねて、
円盤が火星から飛んで来る光景のイメ
ージを心中に描きながら、言葉の口
出さないうで「なぜあなたは地球へ来た
のですか」と心中で質問してみた。
だが相手は答えない。二人は無言の
まま見つめ合っているだけだ。どうや
らテレパシーはきかないらしい。

そこでアリンガムは何かの贈り物を
渡すことを思いついて、手にしていた
赤い色の万年筆を差し出した。相手は
それを理解したらしく、微笑して片手
を上げながら感謝の意を表して服の外
ポケットに注意深くしま込んだ。や
はりポケットがついているのだ。人間
が着る服というものは、惑星の差にか
かわらず、みな同じようなものらしい。

アリンガムは相手の円盤の動力につ
いて知りたくなってきた。それでノー
トブックを取り出して、ロケットの図
を描いてみせたけれども、相手はさつ
ぱり理解できないようだ。そこで原子
力かもしれないと思つた彼は、ノート
から紙を裂いて、それを小さく裂いて
いった。原子の観念を与えようと思つ
たのだ。しかしまたも失敗だった。相
手には全く理解できないらしい。

アダムスキーのデザートセンターに
おける最初の金星人との会見時には、
やはり相手もアダムスキーがテレパシ
ーやジェスチャーで語る言葉がよく理
解できないような様子を示した。しか
し後に再会したときには、同一の相手
がアメリカ人と変わらぬほどの流暢な
英語を話してアダムスキーを驚かせた
のである。つまり最初のときにはアダ
ムスキーのテレパシー能力を試すため
に、わざと英語を使用しなかつたのだ。

この火星人も実際には英語が出来る
のにもかかわらず、わざと使用しなかつ
たのかもしれない。彼ら異星人は特
殊な機械を使用して地球の言語を短期
間に習得するのだと「第二惑星からの
地球訪問者」に述べてある。

アリンガムが別な質問をしようとし
たときに、驚いたことに相手から一つ
の質問を出してきた。身振り手真似の
話しぶりから察すると、地球人類はも
う一つの戦争を始めようとしているの
かという質問であることは明白だった。

アリンガムは困つたけれど、戦争が
起らないことを希望しているが、よ
くわからないという意味のことを伝え
た。これは相手にも理解できたらしい。
まじめな困つたような表情を示した。

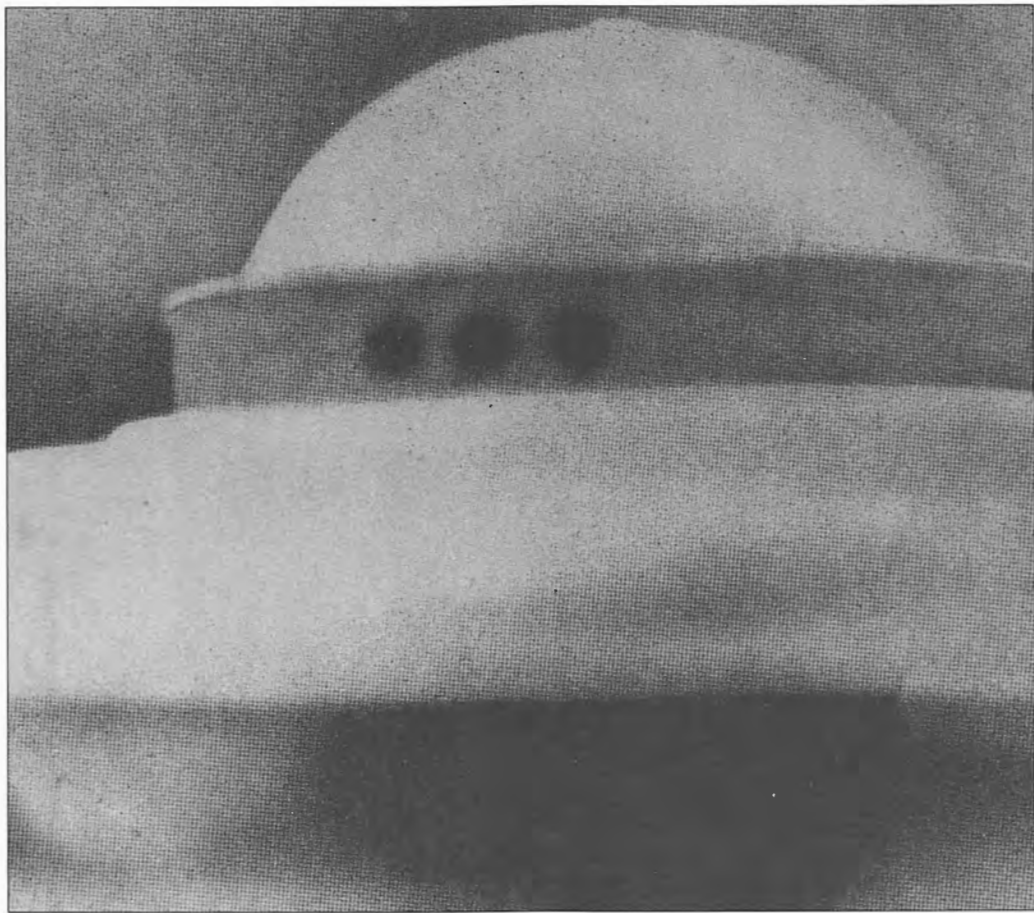
火星には運河が存在する

次にアリンガムは火星の運河につい
て質問するには今が絶好の機会だと思
い、またもノートブックに簡単な火星
の絵を描いて、地表の明暗の部分や極
の氷のキャップを描いた。そして「マ
ーズ」と発音しながらそれを相手に渡
した。相手はうなずく。

つぎにアリンガムは植物地域から別
な植物地域へかけて長い直線を引き、
まず運河を指さしてから次に相手を指
さすと、相手はうなずいた。つまり運
河は存在するというのだ！

アリンガムはもつと大きな運河を描
いた。中央に黒い筋を引いて、その両
側に緑地帯をあらわす影の部分を描い
た。彼はまず中央の筋を指さし、次に
海として描いた大きな黒い部分を指さ
して、それから運河の両側の影の部分
を指さしてから、二人の立っている場
所の付近に生えている緑色の植物を指
さした。

なんと相手はこの意味をすぐに理解
して大きくうなずくとともに、二〜三
の火星語でしゃべった。つまり火星の
運河は実在して、その両側には緑地帯



◀ 着陸した火星の円盤を真横からアリンガムが撮影。直径約15メートル、高さは約6メートルと彼はみている。下部左側の半球は着陸装置。

があるというのだ。

それはともかくとして、一八〇〇年代にイタリアの天文学者ジョバンニ・スキヤパレリは火星表面に運河があることを発見して大センセーションを巻き起こした。以来天文学界でこれをめぐる論争が展開し、アメリカのローウエルその他は存在説をと考えたが、一九六九年にアメリカが打ち上げた火星探査ロケットマリナー六号と七号によって、運河と見えたものは大小のクレーターの列だと発表されて運河説は消滅した。しかし実際にはNASA（米航空宇宙局）は運河の存在を発見していないながら、それを隠蔽していたという確かな情報もアメリカから出ているのだ。

いったいにNASAは宇宙開発の先駆をなして大気圏外の凄惨な発見をしながら、片っ端から隠蔽策をとってきたというのが我々GAP関係研究者の把握している情報である。

だが、これはある意味では賢明な策かもしれない。というのは、今の時点で太陽系の地球以外の惑星群に大文明が存在すると公表しようものなら、むしろすさまじいマイナスの結果が起こるだろう。むかしのオゾン・ウェルズによる蝸のオバケのような火星人来襲物語の二の舞よりもむしろ、世界の経済、教育、その他の面で大混乱が発生するのは目に見えている。当分はNASAも隠し通すほうがよいかもしれ

ないというのが筆者の見解である。NASAの英知を信頼したい。

火星には海がない

アリンガムは火星に海があるかどうかを知りたくなかった。それで自分が描いた火星の図の中に海の黒い部分を描きそえて、まず火星を指さしてから、次に海を指し示しながら「ウォーター（水）」と言った。相手もその英語をくりかえした。

火星人はふりかえって海を指さし、次に火星の図を指し示してから頭を振ると肩をすくめた。これは否定を意味する。これによってアリンガムが受けた印象は、「そのとおりだ。火星には海がない。だがそれは我々にとっては問題ないことだ」という回答だった。

アリンガムの推測によれば、火星人は化学的な方法で水を作る方法を学んでいるのではないかという。極冠の水から水を引くだけでは間に合わないからだろう。運河がパイプで閉じ込められていようとまいと、灌漑用に火星全体に引いていることは間違いないだろうとアリンガムは言う。

火星と金星との関係

そのときアリンガムは最も重要な問題を聞いていなかったことに気づいた。それは火星人は金星人と何かの関連が

あるのかということである。

彼は自分の描いた惑星の軌道の図を見せながら、まず地球を示し、次に火星を指さした。それから自分を指さして、次に相手を指さした。相手はうなずいた。次にアリンガムは金星の軌道を指さしてからつづいて円盤を指さした。このとき彼は「円盤 (Flying saucer) フライイング・ソーサー」と言ったが、相手もその英語をくりかえした。相手はこの英語が彼の宇宙船を意味する言葉であることは完全に理解しているようだ。

そこでアリンガムは言った。

「円盤——金星？」

そう言いながら交互に指さした。

相手はまたもうなずいた。つまり相互の惑星間に交流があるというのだ。これは一歩前進である。

次にアリンガムはまず金星を指さし、次に相手を指さして、円盤が飛んでいる光景をジェスチャーで示した。これは「あなたは金星へ行ったことがありますか」という意味である。

相手は理解して、すぐにうなずいた。そして火星語で「イエース」を意味するらしい「クル・ル」という言葉をくり返した。

次にアリンガムは火星の軌道を指さして、次に円盤を指さした。すると相手は頭を振った。これによってアリンガムは、水星は不毛地帯で生物は存在しないことが確かめられたと述べてい

るが、これはおかしい。前と同じジェスチャーだから、この場合、相手は「水星に行ったことがありますか」という意味にとつたに違いない。そこで「まだ行ったことがない」という意味で首を振ったのだらう。

水星には太陽系中で最も高度に進歩した大文明があるとアダムスキーは述べている。彼によると太陽に近いほど文明が発達しているというので、地球だけは例外だという。

異星人は月で活動している

今度は我らの衛星である月について聞いてみた。アリンガムは地球の回りに回転する軌道を描いて月を暗示させた。つづけて火星の軌道、金星の軌道それから円盤を指さしながらそれぞれの言葉をくり返して、次に月の軌道を指さした。つまり彼は「火星や金星の円盤は月に着陸したことがありますか」という意味をもたせたのだ。

これには相手も理解に難渋したらしいが、ついに完全に意味を悟って、強く「イエース」と答えた。

つづいてアリンガムは、彼らは主として月の裏側で活動しているのかと聞いてみた。これに対する相手の反応によれば、理解して肯定したように見えるけれども、確信はないとアリンガムは述べている。

今度は相手がアリンガムに質問した。

それは理解するのにかかなりの困難が生じたけれども、結局わかった。

「あなた方も月へ飛んで行く準備をしているのか」と相手は聞いていたのだ。アリンガムは「イエース」と答えた。相手は少しむつかしい表情を浮かべている。これは、地球人が精神的に未発達な状態で大気圏外に飛び出るのは、火星人や金星人にとつて好ましくない

と相手は思ったのかもしれない。そうすると、ここで読者はおかしいと思うだらう。というのは、アダムスキーがコンタクトした金星人は無限の叡知をもつ超人であつて地球の状態を知り尽くしているのに、いまだ火星人がこんな質問をするのは差がありすぎるのではないかという疑問を起こすかもしれない。

これに対してアリンガムは、異星人といつても地球に関する知識や知性には差があるのだらうと述べている。たぶんそうだらう。あらゆる異星人が超高度な知性をそなえているとは限らないのかもしれない。

乗船を拒否される

火星人は空を仰いで離陸がせまっていることを示した。アリンガムは相手の許可を得てカメラを取り出すと、二〇メートル離れた位置にいる円盤の撮影を行なった。夕暮れが迫っている。そのわりには良好な写真が撮れたとア

リンガムは言っている(七頁の写真)。このときアリンガムはアダムスキーがデザートセンターに着陸した金星の円盤に乗せてもらおうとして拒絶されたことを思い出して同じ質問をしたが、みごとに断られてしまった。相手の火星人は大変礼儀正しくて明るい顔付きで、しかも断固として乗船拒否をしたのである。

アリンガムは機体のそばへ接近した。胴体は金星の円盤のように半透明ではない。彼は手振りで触つてもよいかとたずねた。

相手はうなずいたので彼は接近したが、アダムスキーがデザートセンターで金星の円盤に触れて強いショックを受けてから数日間は腕がマヒしたことを思い出したので、少し躊躇したけれども、勇気を出して胴体を叩いてみた。しかしべつだんに何も感じなかった。これはそのとき円盤の動力のスイッチが切つてあつたためだらう。だから船体は絶縁状態にあつたのだ、とアリンガムは推測した。

飛び去った火星の円盤

いよいよ離陸の時間がせまってきた。火星人はアリンガムと一緒に丘の斜面を少し歩いてから、彼に離れるようにと身振りて指示した。親密感をあらわしているけれども断固たる態度である。突然、アリンガムは相手の写真を撮

有力な目撃証人が現われる

ろうと思いついて、急いでカメラを取り出して歩いている火星人の斜め後ろ姿を撮影した。たぶん火星人は写されることを知っていたのだろうが、正面の顔ではないから黙認したのだろう。こうした場合、異星人は絶対に正面顔を撮影させないのである。アリンガムが撮った写真は少しピンボケだが、相手の着ている縫い目なしの宇宙服はよく描写されている（五頁の写真）。

船体に乗る込む前に、火星人はアリンガムに向かってもつと離れるようにと合図した。フォースフィールドを浴びる危険から逃れさせようとしたのだろう。アリンガムが遠ざかると、相手は地球人と同じように片手を上げて挨拶をした。アリンガムも手を上げた。

彼は思いきりわるく、またも前へ踏み出した。するとまたも火星人は頭を振って引き下がれと合図をする。

船体の滑り戸が開いて相手が身軽にその中に姿を消すと戸が閉じた。

ブーンというモーターの唸り音がかすかに響いてきたが、それはハエの羽音ほどでもない。円盤はゆっくりと空中へ上昇する。スカート状のフランジの上にあるドームが無音のまま急速に回転を始める。

つづいてこの驚くべき宇宙船は緩速で約一〇メートルあまり上昇すると、物凄いスピードに加速して北の方へアツというまに消えてしまった。あとに残るのは静寂のみ。

呆然としてなすすべを知らないアリンガムは、しばらく空を見つめていた。目にはいるのは数片の白雲と飛び回る鳥たちである。

時計を見た。四時二五分。あの驚くべき会見は三〇分かそこらの間に発生したのだが、数秒間の経過にしか感じられない。この短時間にアリンガムはあらゆる科学者たちがアリストテレス以来知りたがっていた事を知ったのだ。なんとという特権！信じられないようなことだが、これは事実なのだ、とアリンガムはつぶやいた。

見たところ目撃者は一人もいない。

ロシーマウスの町から円盤を見た者がいたのではないか。しかし円盤は海の方から、かなり低い高度で飛んで来たのである。写真という証拠物件なしにこんな話をすれば天文学者連からバカにされるだけだ。

アリンガムは熟慮して、一つの結論に達した。もし円盤の写真がよく撮れていたら体験のすべてを出版して世界に広めよう。もし写真がだめならば、信じてくれそうな少数の人だけに事の真相を語ることにしよう。そうだ、そうしよう。

日が暮れかかったので、アリンガムはロシーマウスへむかって歩き始めた。するとこちらへやってくる一人の男

がいた。彼が近づくにつれて、相手は三時間ばかり前にロシーマウスへ歩いて行った漁師風の男であることがわかった。

アリンガムは話しかけて驚喜した。その男はなんとアリンガムが円盤の乗員と話し合っている最後の数分間の光景を見たというのだ！五〇〇メートルも離れていたけれども、彼は近くの見晴らしのよい丘の上から円盤が離陸するのを見たともいう。

相手の名前をたずねると、ジェームズ・ダンカンと名乗り、地方の漁師だという。彼はアリンガムの話聞いて驚いた。事件の一部を見ていたのだから証人になってくれとアリンガムが頼むと、すぐに了解した。全く異議はないという。アリンガムはノートブックの紙を引き裂いて彼に陳述書を書いてもらった。それは次のとおりである。

「一九五四年二月一八日四時三五分

私は次の事柄を正式に宣誓します。一九五四年二月一八日の午後四時から四時一五分頃のあいだに、私はセドリック・アリンガムと一人の男との会見を目撃しましたが、その男はモーレイ州ロシーマウスの近くに着陸した空飛ぶ円盤のパイロットでありました。その後には私はそのパイロットが円盤の中にもどり、円盤が離陸して北に向かったのを見ました」

この英文の証明書の写真も原書に出ているが、ここでは割愛した。

真実と虚偽とのぼんざま

以上がセドリック・アリンガムの体験の概要である。これについては最初に述べたように、アダムスキーの体験記の焼き直しだとか、金儲けのためでつちあげだとか、さまざまな批判攻撃があつた。今でもこの体験記を信ずる人は多くない。それどころか風化して、この事件を知っている人さえまれになつてしまった。

歴史とはいったい何なのか。誰の言動が筋道になつて歴史が形成されるのか。複雑な思いにかられながらこの資料を調べると一つの概念に達する。つまり、本物らしいものがニセものであつたり、ニセものらしいものが本物であつたりするという法則みたいなものにつきあたるのだ。証拠物件がない限り事実と認めるわけにはゆかないというのが現代の風潮だが、アリンガムの場合はいつときとした円盤写真を撮影して提示しているにもかかわらず、模型を使用したとか、なんとかかんとか、騒がしい議論がむかし展開したことがある。まあ、信じたい人だけが信じていればよいだろうと、結局、月並みな結論で終わるだけだ。アリンガムの身元に関しては多くの噂が流れたが、いずれもデマの域を出ていないようだ。彼の消息は全く不明で筆者の調査はむなししい結果に終わった。

コニストン円盤事件の現地を訪ねて

★高橋 徹

筆者は古くからの日本GAP会員で、某高専の教授。工学博士。以前にイギリスのロンドンへ研究留学をしたが、その間にコニストン円盤の目撃地を家族で訪れた。

コニストン円盤というのは、本誌冒頭の記事「火星人に会った男」の中に出てくるステイヴン・ダービシャー少年が撮影した円盤撮影事件を意味する。この件の詳細は本誌一三四号にゴードン・クレイトン執筆の「真実であつたアダムスキーの体験」と題する記事でも言及してあるが、ここで大要を説明すると、一九五四年二月一日、一三歳のステイヴンと従兄弟のエイドリアン・マイヤー（八歳）は、自宅近くのコニストン湖のそばにそびえるオールドマン山へ登つたのである。

二人の趣味はバードウォッチングなので、安物のカメラをステイヴンがさげていた。これは戦前から一世を風靡したアメリカ・コダック社製のベストコダックであつたと思われる。ステ

イーヴンの父親は医師であるから、村では裕福な家庭の御書子であつたらしい。

二人が山にいたとき、突然一個の奇妙な物体が雲間から出現して低空に降下してから少し停止した。二人は驚いたが、ステイヴンはすぐにカメラで物体を撮影した。かなりピンボケではあつたが、いわゆる空飛ぶ円盤といわれる物体であることが判明して、それから騒ぎが拡大した。これがコニストン円盤といわれるものである。

アダムスキーの友人であつたデスモンド・レスリーはこの少年宅を訪れて徹底的に調査した結果、まぎれもない本物のUFOであることを突き止めた。そしてアダムスキーの著書「宇宙船の内部」の序文にそのことを紹介している。

本号の記事「火星人と会った男」の主人公セドリック・アリンガムがスコットランドの海岸に着陸した円盤から出てきた火星人と会つたのは一九五

四年の二月一八日で、ステイヴンの体験の日より三日後である。当時アリンガムは旅行中で新聞を読まなかつたから、コニストン円盤の事件については知らなかつたという。しかし三日のズレでイギリスのニカ所に円盤型UFOが出現したというのは興味深い。

コニストンというのは山の名であり、またふもとの村の名でもある。アイルランドを隔てた内海のアイリッシュ海の海岸に近く、南のロンドンからは遠い。このコニストンを高橋氏が訪れて現地を詳細に調査した貴重な報告を以下に掲載しよう。時期は昨年の八月末となつてゐる。

风光絶佳のオールドマン山

「久保田先生、ご機嫌いかがですか。お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。先日はユーコン誌一三四号を送つて頂き、ありがとうございます。私達は帰国まで一カ月弱となり、あわただしい毎日を過ごしています。

さて、先月の終わり（八月末）に、コニストン円盤の目撃地に行つて参りましたので、ご報告します。目撃地の場所は、一三四号の記事がとも参考になりました。その中に『コニストン湖』『オールドマン山』が出てきますので、これを頼りに探しましたところ、カンブリア州（ランカシャー州ではなく）の湖水地方に、コニストン湖とコ

ニストン村があり、その脇にオールドマン山が寄り添つてゐるのを見つけました。地図の写真を同封します。そこで八月の終わりの一週間弱ホリデーをとつて、家族とともに出かけました。（編注||奥さんもGAP会員）

湖水地方はイングリッド地方の西北部に位置した国立公園で、とても美しい景勝地のため、多くの人々が訪れる場所です。ちなみにこの地方の名は先史時代の『カンブリア紀』に由来してゐるそうです。

コニストン村はその中心近くにあり、その東にはピーターラビットやナショナルトラストで有名なピートルリックス・ポターの住んでいたヒルトップ村や、ワーズワースの愛したグラスミア村などがあります。

（編注||ポターはイギリスの有名な童話作家で挿し絵画家。ウィリアム・ワーズワースは一九世紀の大詩人）

ステイヴン・ダービシャー少年がコニストン円盤を目撃したオールドマン山は、このコニストン村から歩いて二時間前後の所にそびえています。標高は八〇三メートルです。それほど高いように感じられないかもしれませんが、平らなイングリッド地方にあつては最高級の山の一つです。

朝早く近くの駐車場に着いて、ゆっくりと登り始めました。まわりは羊の放牧場になっています。シダであたりが覆われているのにはビックリしまし



▼カメラをかまえるスティーヴン・ダービシャーとエイドリアン・マイヤー。この写真はデズモンド・レスリーが撮影したもの。

▲1954年2月15日、コニストン村の医師の息子スティーヴン・ダービシャー（13歳）と従兄弟のエイドリアン・マイヤー（8歳）は、何かの予感をおぼえて自宅近くのコニストン湖のそばのオールドマン山に登った。そして不思議な物体を撮影した。これは後にアダムスキー型円盤と同型であることを、イギリスの科学者レナード・クランプが正射影法によって証明した。





●コニストン・オールドマン山

上の写真の後方にそびえるなだらかな山がオールドマン山。
これは登山道の途中で撮影。下の写真に見える湖はロウ・
ウォーター湖。 撮影/高橋 雅

Walk 1

Ascent about 2hr 15min

Descent about 1hr 45min

This walk up Coniston Old Man is reasonably strenuous and involves about 2500 feet of climbing on recognisable paths.

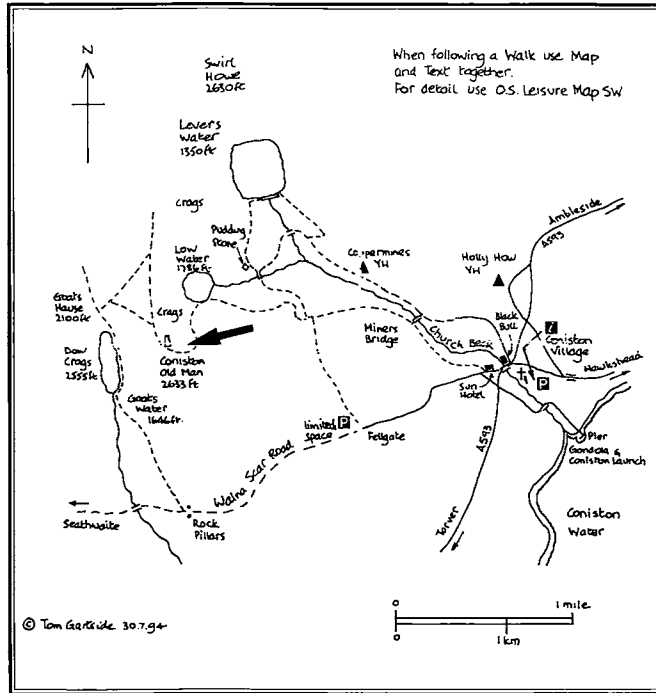
From the car park next to St Andrew's church turn left and walk to the bridge over Church Beck. Cross the bridge, turn right to the Sun Hotel and right again on the footpath signed Coniston Old Man and Levers Water. After walking through Dixon Ground Farm cross the small beck and follow the sign for Coniston Old Man and Coppermines YH to Miners' Bridge (20 mins).

At Miners' Bridge with its waterfalls in Church Beck, continue on uphill to a footpath gate with open views of Coppermines Valley and the far side of Church Beck, Irish Row and Coppermines YH. The waterfalls from Levers Water and Pod Dell are ahead and to the right.

Pass through two stone walls and continue up to the junction with the path from Felgate (50 mins). Continue climbing with good views over the valley to the right. Follow the path through a disused slate quarry with a retaining wall on the right. Turn right between waste tips and pass an old steel pylon on your left. The path zig-zags up to reach Low Water with its intense blue colour from copper deposits (1hr 30mins).

At Low Water the path turns to the left for the last pull up to the summit of Coniston Old Man (2633ft) with its superb views from the platform and cairn (2hr 15mins).

Descend either by the same route, taking care in locating the start of the descent to Low Water especially in poor visibility, or by the route described in Walk 2 (reversed).



矢印の場所がコンストーン・オールドマン山

▲高橋氏が送ってよこされた現地の案内図。

苦難の人生を歩んだ少年

約一時間半で頂上のすぐ下のロウ・ウオーターという小さな湖に着きました。同封の写真は駐車場からしばらく歩いてから写したオールドマン山の姿、およびロウ・ウオーターから撮った頂上の光景、うしろを振り返って撮ったまわりの景色です。ここから頂上までは坂が急になっており、我々はこので引き返すことになりました。したがって残念ながら頂上には立つことができませんでした。

一三四号の記事では、ステイヴン少年が登ったのは二月となっていますね。二月はこの地方にとっては雪深い季節です。たぶんその頃は他に登る人もいない反面、頂上からの眺望は素晴らしいので、円盤の目撃には最高の場所だったかもしれませんね。

このあたりはとても美しいところで、私達も最高の一日を過ごすことができました。機会があれば次回には頂上まで登って、ステイヴン少年の目撃した円盤に想いを馳せたいと思っています。適切なご教示をありがとうございます。

以上のとおりで、高橋氏は頂上まで登らずに途中から下山したというが、ステイヴン・ダービシャー少年も頂上まで登った様子が無いから、やはり登山道の途中で円盤を撮影したものだろう。掲載した高橋氏の写真中の日付が1992年となっているが、これはカメラの誤作動のためという。

ついながら、大手柄をたてたステイヴン少年は偽造写真を流したと難癖をつけられ、その後は非難攻撃を受けてひどい目にあったという。編者(久保田)は渡英の上、彼への取材を計画してイギリスの研究者仲間のパトリシア・フィンチ女史に住所を調べて知らせるように依頼したけれども、皆目不明との回答があった。いま健在ならば五五〜六歳だろう。どこで何をしているのか、大いなる好奇心にかられるが、どうしようもない。

しかし彼の「業績」は世界のUFO研究史上に不滅の名を残すだろう。彼の体験を真実なるものとして記録をつづける人たちの真摯な作業により、すでに碑銘に刻まれているからである。ステイヴン・ダービシャー氏が、少なくともこの日本GAP専門誌に何度も掲載された記事と写真を見ただけでも、彼の少年の頃の勇氣と誠実さの結果を感じて驚喜するだろう。彼がどこかで本誌を目にして感動する姿を想像しながらこの記事を終えることにしよう(編者)。

以上のとおりで、高橋氏は頂上まで登らずに途中から下山したというが、ステイヴン・ダービシャー少年も頂上まで登った様子が無いから、やはり登山道の途中で円盤を撮影したものだろう。掲載した高橋氏の写真中の日付が1992年となっているが、これはカメラの誤作動のためという。

ついながら、大手柄をたてたステイヴン少年は偽造写真を流したと難癖をつけられ、その後は非難攻撃を受けてひどい目にあったという。編者(久保田)は渡英の上、彼への取材を計画してイギリスの研究者仲間のパトリシア・フィンチ女史に住所を調べて知らせるように依頼したけれども、皆目不明との回答があった。いま健在ならば五五〜六歳だろう。どこで何をしているのか、大いなる好奇心にかられるが、どうしようもない。

● 沖縄のUFO

A UFO over Okinawa Photo by Sumi Tokunaga



1994年4月のある日、沖縄県北部の東村（ひがしそん）へ、ツツジ祭りを見に行った那覇市在住の徳永スミさんが、海岸の夕日がすごく美しいので写真を撮ったところ、夕日と思っただ象物がアダムスキー型円盤となって写っていた。

これについて異星人とのコンタクティ―として名高い秋山眞人氏は次のようにコメントしている。「これはスペースピープル（異星人）が何らかの意図をもって示した一種のメッセージでしょう。つまり沖縄は世界的に重要な土地なので、今後は宇宙的な思想と融合して平和志向でやってゆきなさいという意味をあらわしているようです。非常に興味深い写真ですね」

撮影者の徳永さんは過去に多くの不思議な体験を持つ人で、約20年前にも読谷村（よみたんそん）の海上の空中に滞空しているUFOを目撃したが、これは新聞にも出たという。また別な機会には、窓が沢山ついているカラフルな円盤型UFOも見たと語っている。©日本GAP



UFO、東京造形大学に出現！

A UFO Appears at the Tokyo University of Art and Design!

Photo by Junichi Kato

去る6月13日、日本GAP久保田八郎会長は都内八王子市の東京造形大学でアダムスキー主体のUFO問題の講演を行なった。これは毎年実施されている行事で、この日は大教室に約370名の男女学生が出席して興味深く聴講した（詳細記事は本号27頁）。その間、会長の助手である加藤純一（日本GAP本部役員幹事）は会場で多くの写真を撮り続けたが、その内の1枚に不思議な光が写り込んでいた。撮影時には気づいていない。子細に検査すると多数の円形の輪が連続しているように見える。コンタクティーで名高い秋山眞人氏によれば、これは本物の探査用超小型円盤がどこからか教室内に入り込んで急速に移動した跡だという。しかも急スピードで点滅を繰り返しながらテレポーテーション的に移動するので教室の人達は気づかないのだという。これとは別な写真には会長の背後の黒板の右上に白くて丸い形のものが写っていた。光を放って移動したこの円盤と同一の物体であると氏は説明している。秋山氏も東海地方へ出張した折の会合の席で、この写真と全く同じような弧を描いた光が写真内に出現したことがあると言って、その写真を編者に見せてくれたが、これも驚くべき写真だった。 撮影/加藤純一 ©日本GAP



異星人女性との 不思議な出会い

ミッシェル・ジルジエ／久保田八郎訳

筆者はフランス人（パリ第四大学文学部卒）。アダムスキー研究者で日本GAP会員。訳者の親友。三年前に来日して都内に在住。某外国語学校のフランス語講師。

以前に本誌「JFO contactee」で簡単に述べたことがあります。地球世界の人ではないという確実な印象を与えた不思議な女性に会った体験があります。最近の久保田会長との談話で、本誌の読者のためにもっと詳細を話せばさせて頂きます。

奇妙な女性が隣に座った

以前にこの女性との最初の出会いについてすでに話したかもしれませんが、二度目の彼女との出会いはまだ話しておりません。それは最初のときよりもっと不思議な体験でした。この二度目の出会い（またはコンタクト）は、都内の洗足池駅（東急池上線）の近くの

あるレストランで発生したものです。そこは私の住んでいる所からさほど遠くない場所です。

最初の出会いは九四年の八月に起こりました。二人の友人と私はこの小さなレストランで食事したりおしゃべりをしていました。夜の八時頃です。

そのとき一人の女性が入ってきて、私たちの隣のテーブルについてから、私たちの会話をひそかに聞いている様子でした。そして彼女はときどき私の方を見るのです。

私たちはそのレストランに一時半ほどいましたので、私は彼女を観察する余裕がありました。

彼女の振舞いがまず私の注意を引きました。その態度は非常に緩慢で、たびたび瞑想にふけるように見えました。その目は自分の眼前に置いてあるグラスを見つめているのです。

彼女は私たちの会話を聞き耳をたてているようでしたから、一人の友人がそれをとても嫌がって「こちらの話を

聞くな」と注意しようとしていました。友人（女性）は相手の態度が無作法だと思ったのです。私は何も言わないほうがよいと友人に注意しましたので、友人は黙っていました。

重要なメッセージを伝えに来た？

そのとき私は突然気づいたのです。私たちの面前にいる人は地球とは違う世界から来た女性かもしれないと。

前にも述べましたように、彼女はときどき私の方を見るのです。というよりも私を見透すようだと云うてよいでしょう。彼女の目はこれまで見たことのないほどに強烈で、その凝視は冷たく厳しくて、私をとがめるような目付きです。

そのときには、相手が私にテレパシーによるメッセージを送っているのだと確実に感じました。

このメッセージの意味は、「現在の私の生活の状態を変えるほうがよい」ということと、「ある個人的な重要な決定を行なうほうがよい」ということです。

彼女がそのレストランに来たのは、こうしたことを私に理解させるためであったと今は確信しています。それがその夜における彼女の使命であり、それを確実に遂行したのです。彼女はいわば私を正しい軌道に乗せてくれたのです。

優雅な素敵な女性

彼女の外見は日本人のようでした。首のまわりに絹のスカーフを巻いた、かなり優雅な素敵な女性でした。小柄な人です。

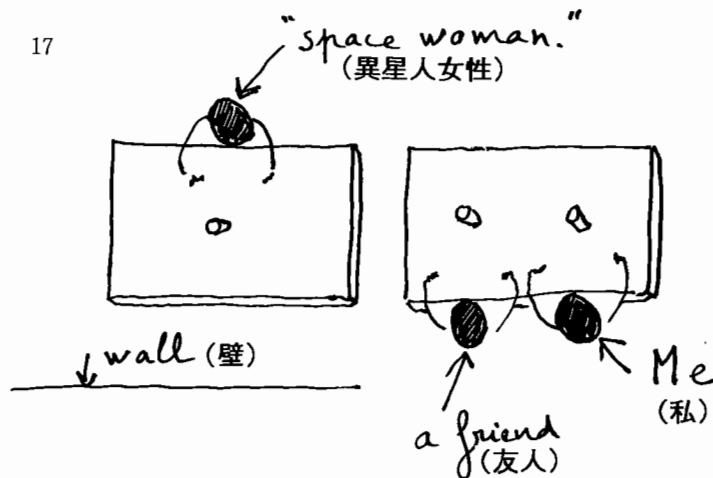
私たちは九時半頃にレストランを出たのですが、彼女はなお目の前を見つめていました。その目は自分のグラスにむかつて異様なままでに向けられています。

レストランを出る前に、私は彼女に二〜三の言葉を投げかけようと思いましたが、やめました。カメラを持っていましたので、後ろから彼女の写真を撮ろうかとも思いましたが、相手を不安な状態にしたり、ささいなトラブルを起こしたりしてはまずいと思って、写真は撮りませんでした。今は残念に思っています。

再度来た女性に驚く

この最初の忘れ難い出会いの後、再度彼女に会いたいと思うようになった私の気持ちはよくわかりでしょう。

ちょうど一カ月後、私は一人の友人と一緒にまたあの洗足池のレストランへ行ったのです。夜の八時頃、最初のとくと同じレストランへ着いたのです。店に入ってから、偶然にも同じテーブルにつくことができました。しかしあの不思議な女性はいません。私はトイレットに行つてから一〜二



分後に引き返したとき、一カ月前に出会ったその女性が、友人の隣のテーブルについているのを見たとき、私は驚きました。相手は私が部屋から出たあいだに入ってきたのです。友人は彼女が入ってくるのを見ていました。友人は狼狽し、同時に私は驚愕し驚喜して、ちよつとのあいだレストランの真ん中で呆然と立ちすくんだのです！

つづいて私は友人のそばに座りました。ここにそのときの状況を描いてみます。

テレパシーによるテストがよい

その女性の態度は最初のときと同じように異様です。記憶するかぎりでは、彼女は以前と同じ優雅な服装で、首に絹のスカーフを巻いていました。最初のときと同じように、彼女の動作のすべては極めて緩慢で、まるで眠たがっているかのような様子。そして以前と同じように、あの特異な眼つきで私をジッと見つめるのでした。

彼女がまたもそこに現われたということは、私にとつてほとんど信じ難いことでしたから、相手が実際に別な惑星から来た人なのかどうかを確かめることにしました。

それをどのようにすればよいか。相手が異星人なのかを直接たずねるべきか。いや、それはいけない！ それならどうして確かめたらよいか。そうだ、テレパシーが唯一の方法だ。それで私はテレパシーによるメッセージを送ることにきめたのです。

もし相手が私のテレパシーによるメッセージまたは依頼にはつきりと答えてくれたなら、相手が別な惑星から来た人か、またはテレパシーの驚くべき能力を持つ人であることを最も確実に証明することになります。

テレパシーに答えた彼女

私はテレパシーによる依頼を相手に送り始めました。すると驚いたことに

相手はその依頼のどれにも答えたのです。私はびつくりしましたが、最も驚いたのは、最後の依頼を発したときです。それは次のとおりです。

「あなたのハンドバッグをあげて、中から手帳を取り出して、そこに何かを書いて下さいませんか？」

この特殊な質問をテレパシーで三度ほど心中で発しました。

すると彼女はゆつくりとハンドバッグをあげて、その中から手帳を取り出して、そこに何かを書いたのです！

彼女は二、三頁の紙面に何かを書いたのですが、一頁書くたびにその頁を破り取ってから、それを私の方にはなくて、彼女の目の前の壁にむかってゆつくりと見せるのです！

彼女の動作はまったく驚くべきもので、とても興味深いものでした。

この瞬間、私は彼女が普通の女性ではなくて、別な惑星から来た人か、または少なくとも異星人の代理人のどちらかであることを的確に知ったのです。相手の最後の動作がたんなる偶然であるとは絶対に考えられません。

約二〇分後に彼女はレストランから出て行きました。それで私たちもそのあとをつけて行こうと思ってレストランを出たのですが、すでに彼女の姿は見当たりませんでした。

彼女は使命を果たした

それ以来、そのレストランには何度

も食事に行ったのですが、彼女には出会っていません。

この理由は極めて簡単です。彼女は一つの使命をおびていたので、その使命は果たされたので、もう私に会う必要はなくなつたのです。

私は近い将来にまた彼女に会うかもしれない。そのように望んでいます。が、この不思議な体験から私が確実に知ったことは、地球世界には異星人または異星人に関連のある人が住んでいること、彼らには地球人と同じ体型であること、彼らはある特殊な緊急を要する状態にある我々地球人を助けていること、などです。

私は毎日のようにあの異星人の女性について思い出しています。彼女は人生の曲がり角にいた私を助けてくれました。正しい道を私に示してくれたのです。私はここで彼女に感謝の言葉を述べたいと思います。たとえ彼女が誰であるにしても――。

(編注) ミッシェル君がフランスから来日した件では編者が原動力となつた来日してからも彼は個人的な問題で苦悩していたが、彼がその事柄で決意を固めるについて異星人女性からの援助があつたという話は一度聞いたことがあるけれども、簡単な話だったので、この際詳細に書くように依頼したのである。記事内容は彼の理性的な慎重な性格をあらわしている。この記事の原稿は英文で書かれた。

かねてからUFOといわれる別な惑星から来る宇宙船の推進原理について研究していた筆者の論文は、これまで本誌にたびたび掲載されたが、今回またも新しい視点で推進原理に重要な役割を果たすUFOの磁気モーターについてその謎を解明した。この記事の資料はすべてジョージ・アダムスキー関係の資料にもとづいて研究されている。彼の体験は新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』に述べてあり、この記事には同書から採られた資料が多い。以下は画期的な新発見である。

UFOの内部構造に迫る

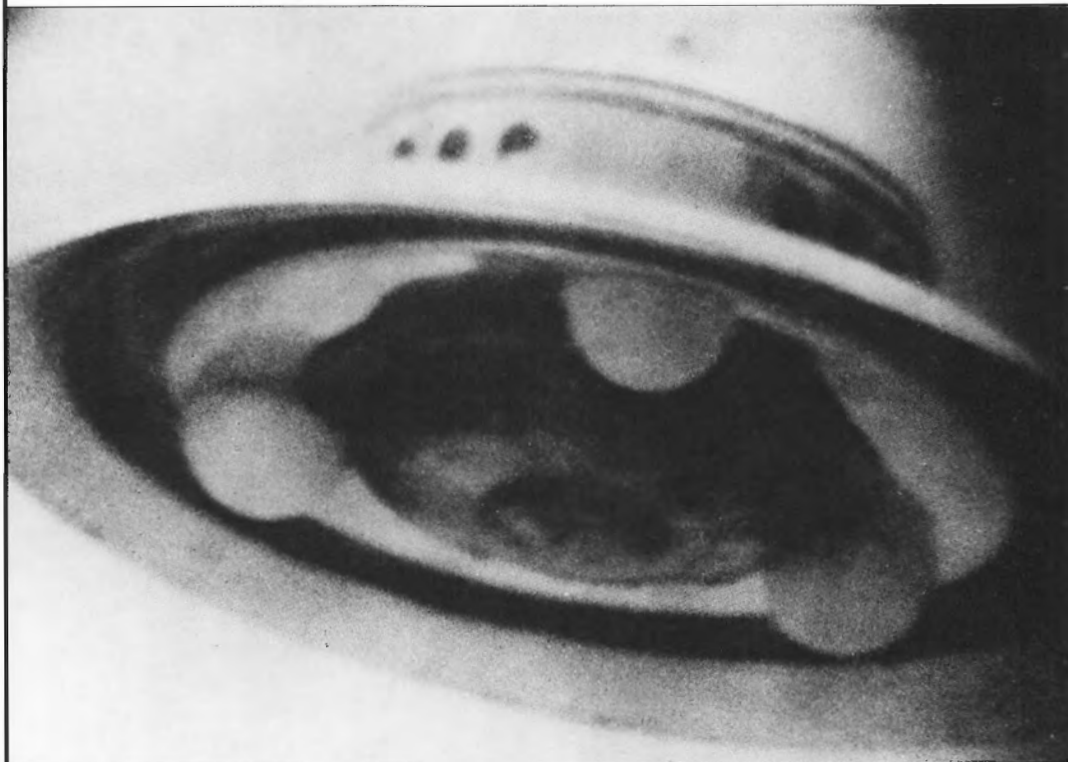
墜落したUFOというところ、あの一九四七年七月二日に米、ニューメキシコ州ロスウェルでの事件が有名ではある（これは何と、後に空飛ぶ円盤という名のついた、九機のブーメラン型UFOをレーニア山上空でケネス・アノルドが目撃してから、わずか数日しか経っていない）。

しかし、その事件について外部からの調査研究はいろいろとなされているものの、それがいったいどういうものであったのかという事の真相について

はなかなか見えてこない。

これからUFOの内部構造について考察していくのだが、それについてもこのロスウェル事件やその他、墜落したと思われるUFOについての情報をもっと漏れてくれば、より明瞭に検討できるものとなってくるのだが。

そこで、そんなわずかなところから漏れてくるほんの一握りの情報を頼りに、UFOの内部構造に接近していくことにしよう。

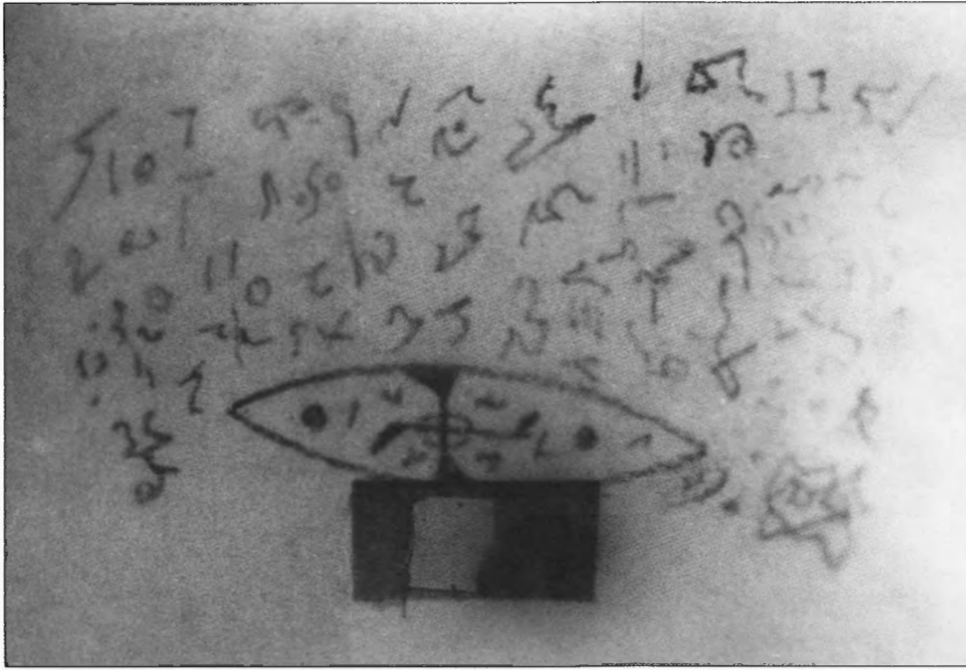


▲1952年12月13日、ジョージ・アダムスキーがバロマー山腹から6インチ反射望遠鏡を用いて撮影した金星のスカウトシップ。俗に空飛ぶ円盤といわれる小型観測機。筆者はこの写真から新事実を発見した。詳細は記事を参照。©日本GAP

★遠藤昭則 (日本GAP本部役員)

UFOの磁気モーターの謎を解明

I Have Solved the Mystery of the Magnetic Motors of UFOs
by Akinori Endo



▲前頁のスカウトシップがパロマー山に飛来したとき、円盤の窓から金星人が手を出して、アダムスキーが砂漠で貰った写真のネガの入ったホルダーを落として返却した。それを現像してみると奇妙な文字らしきものや図形が写っていた。この写真にはUFOの推進原理に関する重大な秘密が隠されているといわれていたが、筆者はこれを研究してつきとめた。この写真はアダムスキーから日本GAP会長・久保田八郎に贈られたもの。

©日本GAP

スカウトシップの断面図は正しい！

ただ、そうは言っても何の予備知識もなく考察していくことはできない。そこでまず、新アダムスキー全集第一

巻『第2惑星からの地球訪問者』にある『金星のスカウトシップの断面図』をもとにしていくことにしよう。

なぜこの断面図をもとにしていくのかというと、それは一九五二年一月二日、米、カリフォルニア州、パロ

マー山の中腹のパロマーガーデンズに超低空で飛来した金星のスカウトシップからアダムスキーに返されたネガの中に描かれていた不思議な金星文字を解読してわかった結果である。

なぜその文字をもとにできるのか、そして、なぜその解読結果をもとにすることができるとかと思われるかもしれないが、それはここでは語り尽くすことができない。

ただ一つ言えることは、そのネガにある文字群の解読が南アフリカのバシル・バンデンバーグによってなされ、なんとそこには金星のスカウトシップとまったく同じ方向から見た図、いや、重ねたら大体同じになるだろうというような図が隠されていたのである。それは私も行なってみたが（といっても解読には何年もかかったが）、まったくその通りであり、新アダムスキー全集第一巻『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）にある図の中には描かれていないものも多数描かれていたのである（この図についてはバンデンバーグが設計図を描いており、そのの写しを持っているので、いずれ発表しようと考えている）。

UFOにある不思議な装置群

話を戻して、墜落回収されたUFO群の中に発見された、これは何なんだというような装置をひろい出してみよ

う。もちろん一九四〇年代後半のものと思われるものである。

(1)円盤の内側周囲を取り巻く、銅製の大きな巨大ケーブル。

(2)推進モーター。

(3)モーターで供給される推進動力。

(4)乗船室とその周囲が隔離され、その間はギヤ、またはなめらかな構造で連結されており、周囲は回転するようにになっている。

(5)その周囲のさらに外側の円周に沿って、回転するリングがついている。
(6)三つの球が下部にあり、それぞれが自由に回転できるようにになっている。

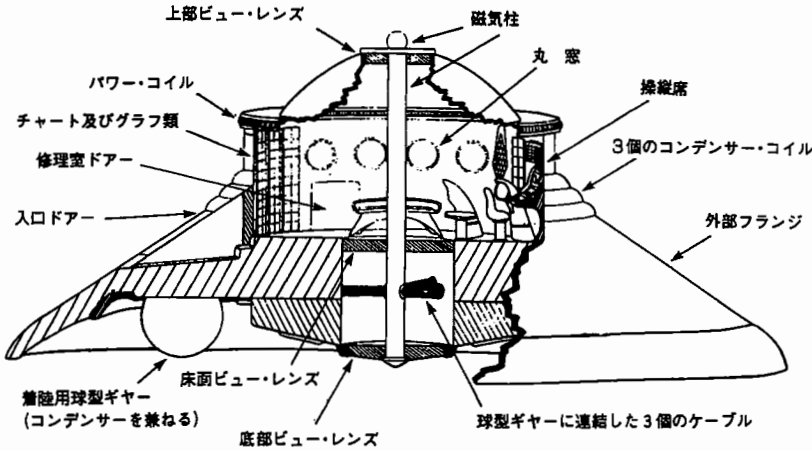
これらの装置群はその後隠された！

しかし、最近になっても、これらの装置群がどういような働きをしているのかというようなことは表面に出てきてはいない。

そして『推進装置』という研究テーマが出てくると、まずよく出てくるのがS-4という秘密基地で異星人の宇宙船を研究していたというB・Lという人物である。

彼の説明だと、円盤の動力源はバスケットボール大の容器に納まった、ほんのわずかな超ウラン元素115だということ。その元素115に陽子を衝突させることによって115は116という反物質になるのだが、それは異星人

金星のスカウト・シップ(観測機)の断面図



よって地球の基地へと運ばれて来ているというのである。また、円盤下部にある三つの球形の重力増幅装置によって円盤下部のはるか下の空間に重力の焦点を作り出すことによって飛行するのだそうだ。

つまり、一九四〇年代に見られた装置群はいつの間にか隠されてしまい、反物質を利用した装置という、わけのわからないものに置き換えられてしま

ったのである。それもアダムスキーの書物に出てくるスカウトシップと形が似ているのである。まして、最近の海外のUFO推進動力に関する書物(といっても電磁気には詳しくない著者の書いたもの)には、この人物の名前がよく登場しているのである。特にもしろいのは、この115という物質は異星人が運んでくると彼が述べているところであり、それでは我々地球人が推進装置を永久に作りだせないように思わせている意見でもある。

付け加えるなら、反物質というのは通常定義されている物質に『対する』ものであり、それは実際に存在するものではあるそうのだが、物質のように安定したものではなく、たとえ反物質ができて、そのような不安定な状態から通常の状態へと超短時間の内に戻ってしまうものだといわれている。そのような不安定なものを使うよりも、もっと安定した、安全なものを有効に活用した方がよいだろう。

真実の装置群

そこで、前述した五つの装置群と金星のスカウトシップの断面図とを比較して見るなら次のようになる。

(イ)円盤の内側周囲にある巨大なケーブル

← パワー・コイル (ここでコンデン

サー・コイルと見なさなかつたのは、コンデンサー・コイルは構造上、また金星文字の解説結果から見ても中空構造であるからである。)

(イ)乗員室に対しての周囲や最外円周部の回転可動

← 乗員室と周囲のフランジの回転可動。これは下から見るとリング状に見えるものであり、それは一番外側のフランジというスカート状のものの内側に二枚スカートををはいているようなもので、その内側の二枚が回転をしている(これも解説結果から分かるものである。この重要な回転場面をロードファー夫人が撮影したが、なぜかそのカットだけが失われてしまったという話もある)。

(ウ)動力を供給するためのモーター。これは動力を作り出すのか、それとも作りだすための装置を動かすためのものなのかは分からないが、とにかくモーターがあることだけは否めないだろう。

← 乗員室底部にある磁気モーター。これは断面図に出ていない。アダムスキーが故意に出さなかつたものと思われるが、ネガの文字には二箇所 に渡ってそれが描かれている。こうして見ると、それは決してB・Lが述べているような難しいものではない。単純な装置であることがわかる。

この点に関して、レナード・クランプの意見を上げておいた方がよいだろう。(彼はさまざまなUFO事件を研究することによって、その構造が結局はアダムスキーの同乗した金星のスカウトシップになるということを発見し、またアダムスキーの撮影した円盤とステイヴン・ダービシャーの撮影した円盤とを正射影法によって解析して、その二つの円盤が正しい形のものであるということを示した。そして内部構造図を独自に描き上げ、それをアダムスキーに見せたところ、真実にほとんど近いということで驚いたということである)

「なぜあなたはあのような構造に仕上げるのが出来たのですか」

「それは技術者として働いてきたことから来る直感ですよ」

つまり、それは心霊的なことでもなく、異星人から教えられたわけでもなく科学的、機械構造的な技術上のようなただけなんだと言っているのである。するとこういうことが言えないだろうか。先ほど見てきたように、その構造は単純なものであった。また、地球の科学でもできることを示唆している。

それはIC回路を作りましょうとか何と何をマッチングさせましょうとかという、複雑な過程を要することはない。さらに、どのようにして惑星の重力と調和するかとか、その他理論的

なことを排除して構造だけを眺めるのなら、それはバンデンバーグの言うように、小さな子供でも分かるものとなるのだろう。それだけ究極的に厳選された、シンプルな美しさが円盤の構造には表現されているのだろう。

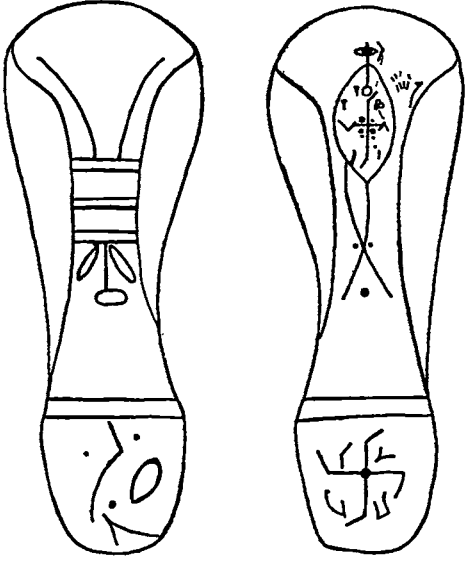
金星文字と足跡の紋様の意味

足跡の紋様についてはこれまでも述べてきたが、それだけでは何だかまだよくわからないという話も聞くので、ここで大まかに公表することにしようと思う。これはこの数年間に個人的に目撃した、上空や超低空に出現したUFOの動き、その後やそれを目撃している時に心の中にやって来る情報をもとにして、公表してもよいだろうという印象のもとに行なうものである。

始めに、不思議な文字や紋様と言えど、ネガの文字の方を思う方も多いだろうが、実は、あのデザートセンターでアダムスキーと会ったオーソンの足跡にこそ、最も重要な事柄が隠されていたのである。

それは『磁石を回転子に使った二つのモーター（つまり二つの磁気モーターと言われるもの）』と、『その二つを一組にするときのこと』についてのことが、解読するまでもなくその紋様にうかがい上がっている。

まず磁石を使った二つのモーターは、それぞれの足跡の中央に縦の長い線を引きことによって分かる。その線の右側が一つのモーターの回転子に使われる磁石群を、左側がさらにもう一つのモーターに使われるのと同じことを表わしている（図1）。



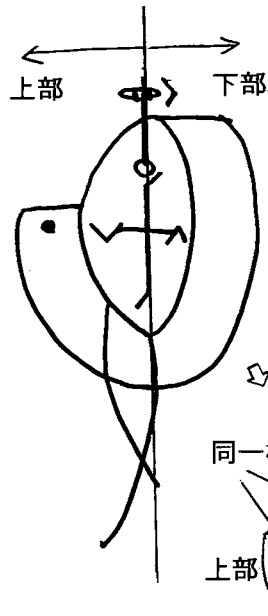
左足

右足

▲1952年11月20日、米カリフォルニア州デザートセンターの砂漠地帯に着陸した円盤から降り立ってアダムスキーと会った金星人が、砂地に靴底の奇妙な紋様をつけた。これはUFOの推進原理をあらわしているといわれていた。

図を見てもわかるように、微生物の

図1



べん毛のように出ているものは、一つの磁石から次の磁石へとつながっていく磁力線である。

この磁力線がどうして片方が極端に曲がり、また出発点も異なっているのかということについては、それが爪先を向くように二つの磁石を並べるのではないことを示している。

このような磁力線ができるのは、右側に円の中心ができるようにその円周上に磁石を配列したときだけなのである。したがって、ここから磁石群を円形に配列することが分かる（図2）。

右足のかかとはその二つの回転子を組み合わせた図がある（図3）。それを横から見ると、図4のようになる。

以上をまとめると、右足には二つの回転子を一組みとして、それが三組でできることが分かる。それらの間にも磁力線がつながっていることから考えると、これは三組の回転子を重ねること

(1)

(2)

図2

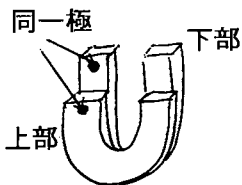
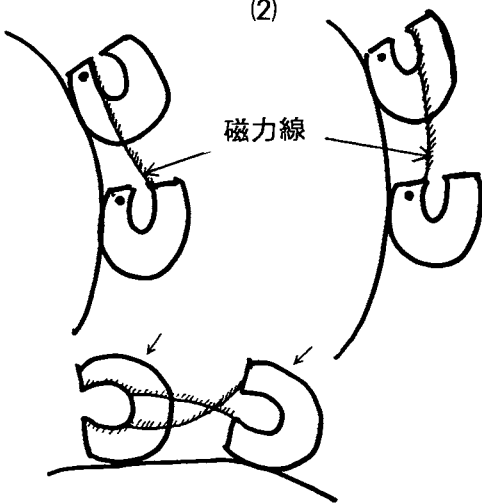


図 3



図 4

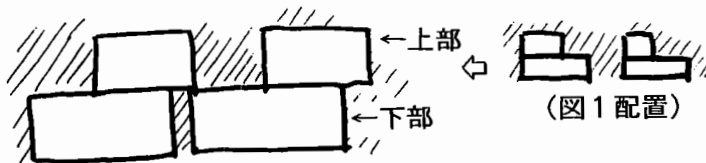
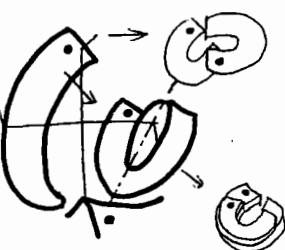


図 6



を表現している(図5)。
足跡の紋様には、母船の内部構造をも表わしていることは以前にも述べたが、そこから考えるなら、母船にその三組の回転子が使われることが考えられるとともに、その一組でも充分に活用することができるということであり、さらには、その一組それぞれでも立派に回転子としての役割を果たすことになるのである。
左足のかかとは、二つの磁石の極

図 5

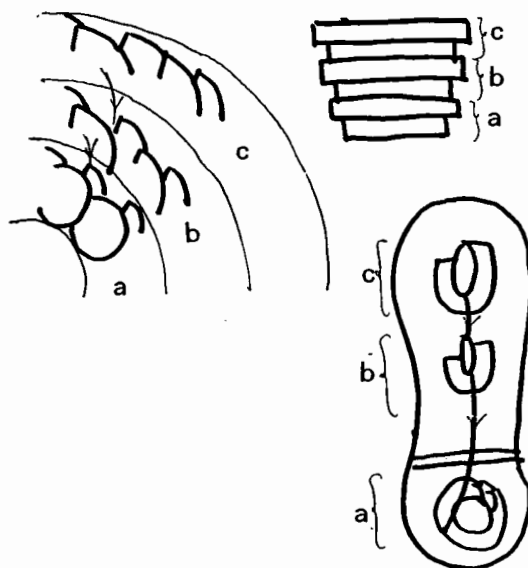
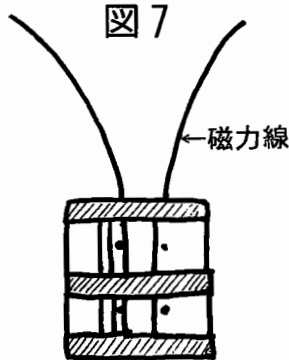
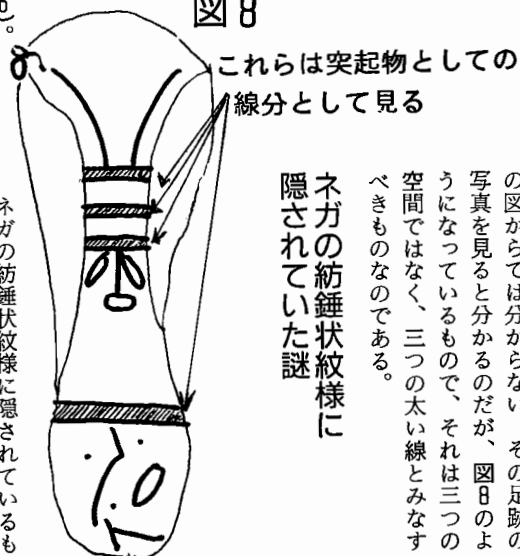


図 7



性が表わされている(図6)。
そうしてかかとは向かつては、二つが一組となった回転子の横から見た図が表わされている(図7)。上に磁力線が描かれているが、それは左足のかかとはについた極性と合っており、中央に同じ極があるので、磁力線はこうなる。
ここで注意しなくてはいけないのは、

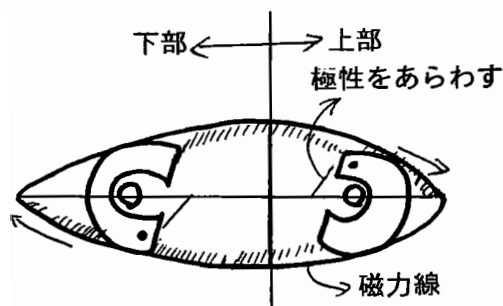
図 8



ネガの紡錘状紋様に隠されていた謎

三つの空間である。この空間は、足跡の図からでは分からない。その足跡の写真をみると分かるのだが、図8のようになっているもので、それは三つの空間ではなく、三つの太い線とみなすべきものなのである。

図 9



ネガの紡錘状紋様に隠されているものの一つは母船の構造の一部であることも以前述べた。
そしてそれとともに重要なものがこ

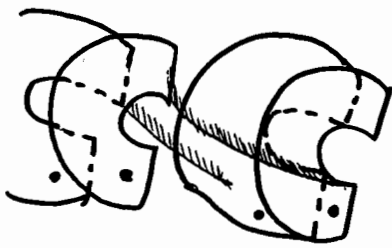


図 10

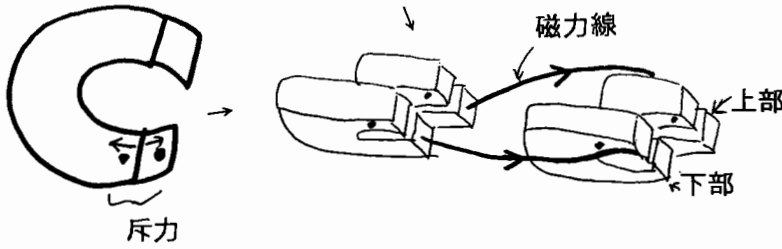


図 11

※図 1 から図 11 までは
知的所有権(著作権)によ
り保護されている。

ここには隠されている。それは、図 9 のようなもので、これは他の文字群とともに二つの磁石ができたがるのだが、それがどのように使われるのかという事については議論はあるだろう。しかし、先ほどの足跡の紋様では、両足跡それぞれに縦の線を入れれば二つの回転子を表わすことができたということを出していただきたい。それをこのネガの場合にも使うのであ

る。するとそれは二つの回転子の磁石の一つずつになることが分かる。では、磁力線はどうなるのか。二つの磁石を結んでいるではないかといわれるだろう。それは正解である。二つの回転子を重ねて一組のものにすることも足跡の紋様のところで述べたが、それと同じように重ねると、実際には磁力線どうしはそのようになるのである。

「背の高い土星人のラミューが身をかがめずに出入りできるほどの高いドアから、一同は一室だけのキャビンコンパートメントへ直接に入っていく。最後にラミューがキャビンの床に足を踏み入れると、ドアは音もなく閉じられた。きわめてかすかなブーンという音が聞こえるのに気づいたが、これは床下と、円盤の壁の上部に装置して

たモーターなのである。アダムスキーは『第 2 惑星からの地球訪問者』、第二部、第二章の中で、次のように述べている。

金星の円盤の磁気モーター

では、この磁石を回転子として使ったモーターは、スカウトシップではどのようなになっているのだろうか。それはネガの文字群からの解説で分かるのだが、二つの回転子を一組としたモーターなのである。

磁力線どうしが交差するように見えるだろうが、それは、どちらかを少しずらしたときに、そうなるということ。二つの場合を一つに描いてある。さらに、二つの磁石を重ねると反発が生ずることもわかる。それは足跡の紋様でも図 10 でわかるだろう。また、磁石から後ろに出てくるものも磁力線である。ただ、それは磁石が図 11 のように並ぶときである。結局、紡錘状の形は磁力線をモデル化したものなのである。

「私はキャビンの内径を約五・四メートルとみた。径約六〇センチの柱が一本、ドームの天井から床の中心を下方へ伸びている。後に聞いたところによれば、これは円盤の磁気柱で、これによって“自然力”を利用しながら推進することのだが、作動する方法については説明しなかった。」

磁気柱は磁石の柱か

これは乗員室の下部にあるモーターと上部のパワーコイルとが同時に動きだしたことを表わしている。しかし上部のパワーコイルはモーターではない。では、なぜ唸り音を発しはじめたのか。そしてなぜパワーコイルという名がついているのか(それは単に船体から出る磁力線の形を整えるために使われるものではない)。それは磁気柱に隠されているのだろう。

あるのが見える大コイルの両方から等しく発するらしい。そのブーンが始まった瞬間、このコイルが強烈な赤色に輝き始めたけれども、熱は出さなかった。(中略) ドアへの密閉、ミツバチの群れを思わせるような柔らかいブーンという音、上部コイルの輝き、船内のライトの増大など、あらゆるものが同時に発生するように思われた。」

「この円柱の頂上は普通はプラスにな

つており、ごらんのように床を突き抜けている下部はマイナスになっているのです。しかし必要ときにはボタンを押すだけで両極を逆にする事ができます。」

つまり、単なる磁石の柱ではないのである。また、このプラスとマイナスという言葉も、アダムスキーはどういう目的で書物に書いたのかは分からないところである。

というのは、アダムスキーは棒磁石の説明で、両極をマイナス、中心をプラスと言っているのだ。すると、円盤の磁気柱も、片方が能動的、もう片方が中立している方と受け取ることもできるのである。

ネガの文字の解読と、バンデンバーグの描き上げたスカウトシップ内部の設計図からも、その磁気柱の中は複数のコイル群である可能性が高い。すると、磁気モーターに単に円柱形の磁石をあてがっても、磁気モーターとして作動しないことが分かってくる。

スカウトシップは力を補給しなくてはならない!

アダムスキーが金星の大母船に乗船したとき、彼は火星人のファークンから次のような説明を聞いている(ちなみに、ファークンという名はメソポタミアの方では、空を飛ぶ神——宇宙船を操縦する人であったのだろうか——ファルコンという名があるのだ

が、同じ名だろうか)。

『この小型機は自力で大馬力を発生することはできません。母船から比較的短距離の飛行をするだけで、そのあと再充電するためにまた帰って来るのです。いわば母船とコンタクト地点または観察地点間の往復機として使用され、いつも母船のパワープラント(動力発生機)からの充分な再充電に頼っています。』

ここから分かることは、スカウトシップは再充電しなくてはいけないというところである。これは円盤のどこに対する再充電なのだろうか。また、そうならそれは空間からの力を常に取りつけて船内のさまざまなところに充当できるものではないのだろうか。ここだけでもあることがわかってくるのだが、それはまた後のことにしよう。

ところで、磁気モーターと内側のフランジの回転とは関係があるのだろうか。

静電気を生ずる周辺部構造

アダムスキーは内側のフランジによって静電気が作りだされるということを述べており、また、砂漠での会見の後、スカウトシップが飛び立つのを見て、

「フランジの下に二つのリングと、中心部の円盤状外形の周囲に三番目のリングがあるのに気づいた。この内部の

一つのリングと外部のリングは時計方向に回転しているようだが、この二個の中間にあるリングは反時計方向に動いていた。」

と述べている。それなら、磁気モーターによって回転しているのだろうか。このような円盤の下部構造や、外周が回転している目撃報告は数多くある。私も実際に、三つの突起物が下で回転しているのを目撃したことがある。

それらの回転は円盤の船体のバランスをとるとともに、静電気を作りだすものとなっているのであろう。

スカウトシップの写真には磁気モーターが見えている!

スカウトシップは半透明の材質によって建造されているという。それなら磁気モーター、またはその外形などは見えないのだろうか。スカウトシップの構造は、地球人にその推進原理を知らせる目的もあるということを知ることがある。それなら磁気モーターは分かりそうなものである。

そこで、スカウトシップの図を調べた。するとどうだろう。意外なところに、はつきりとその姿があらわれているのである。それも、これはなんだろうな、まあいいか、と誰でもが見過してしまいたいところに出ているのである。

一九五二年、一月二三日、午前九時一〇分頃、米カリフォルニア州パロ

マーガーデンスに飛来した円盤の写真の一枚を見ると、おかしなことに気付く。それは球形ギヤの横にある段である(図12)。何でこんなところに段があるのかと、下の方から見た写真(図13)で調べると、それが重要な位置にあることがわかる。つまり、船体の設計図の磁気モーターの位置と全く同じなのである。

では、なぜそこに段があるのか。それは二つの回転子が重なっているからに他ならない。上の回転子が外側に突き出ているからなのである。

さらに下から見た写真を見ると、うすすらと丸い何かが見える。それをなぞっていくと、なんと一〇個の円となる。

はてな、磁気モーターって一二個の磁石ではなかったかと思う人は、バグの磁気モーターの一部を撮った写真に惑わされているのである。

足跡の紋様に見られる一つ一つの回転子は一〇個の磁石から成り立っている。それがこのスカウトシップにも見えているということなのだ。

確実に存在する磁気モーター

こう見てくると、磁気モーターというものがこの太陽系内の他の惑星の人々の間では確実に使われているのだということが分かってくる。そして、それを地球に住む私たちも作りだすこ

図 13

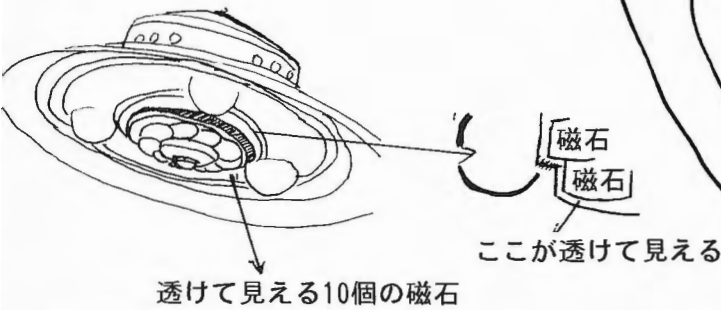
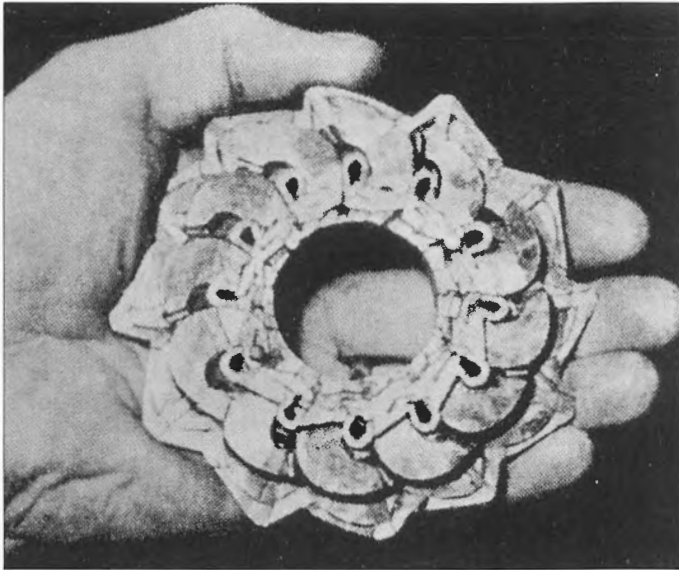
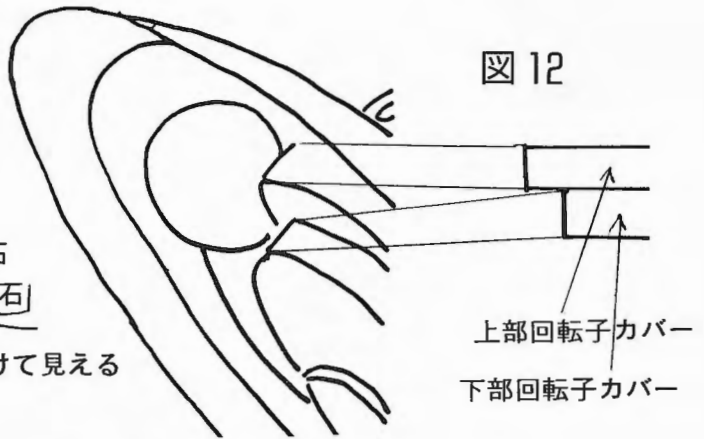


図 12



▲南アフリカの科学者バシル・バンデンバーグが、アダムスキーが金星人から与えられた不思議な文字と図形（19頁に掲載）を解読して開発したUFOの推進動力源となる磁気モーターの模型。しかし彼はアダムスキーの制止も聞かずに早まって新聞記者団に発表したため、何物かに拉致されて行方不明になった。

とができるのだということ。
それはさまざまな情報や、本人の思い込みによって攪乱されてはいけなものである。
例えば、先ほども述べたように、磁石の個数は一二個のはずだというように思い込み。
他にもある。それは、バググのモーターの一部の写真には円周に沿って星のように突起がみられるが、そこから放電することによって回転するというものである。これは知人である茅ヶ崎

の方に住んでおられる方の発明であるが、それをさも自分で発明したかのように見せに来た人もいた。しかし、この方法では回転はしない。幾分回転しても、放電による損失が生ずるのである。これらの火花を飛ばす実験は実は私もすでに行なっている。
また、各紋様の「スワステイカ」
卍」についてであるが、あれは宇宙のさまざまな回転現象を表わす象徴としての図であり、それを回転させるという意味ではない。その回転には四つの

象限が、つまり0時から3時、3時から6時、6時から9時、9時から12時というように分割されることを表わしている。

四つの線は東西南北と考えてもいいだろう。または回転の軸となる（つまり支えているようにみえる）四つの柱、さらにはX-Y座標の座標軸のように見てもよいだろう。

その回転の方向性、また回転によって生ずる磁気の極性はスワステイカの腕から折れて出ている線によって表わされている。

従って、それぞれの紋様は、それぞれが立体的な構造や部品、一つひとつを表わす青写真であり、他の惑星の人々は、その一つを思いうかべることによって、その部品なりを明瞭に思い描くことができるであろう。

したがって、テレパシーでその部品を相手に伝えるには、それを思い描けばよいのである。それは伝えたい部品の細部まで思い出しながら伝えようと集中する必要がないことを表わしている。集中はテレパシーのさまざまなたとえとアダムスキーは述べている。気楽にその紋様を思い描きさえすればよいのである。ここにも、彼らのテレパシーを使ったはるかに高度な世界の一面を窺い知ることができるだろう。それだからこそ、各紋様は回転することもなく、ただはめ絵パズルの一駒としなければならぬのである。

★第一回福山支部大会、大盛況

五月二五日に福山市の「サンピア福山」で開催された第一回の支部大会は、七〇名の出席者を得て大盛況を呈した。当日は久保田会長の「宇宙哲学で良き運命をつくる方法」と題する講演、質疑応答などで会場に宇宙的な雰囲気がいっぱい、夜は同会館で盛大な立食パーティーが開催されて全国各地から駆けつけた会員同士のあたたかい交流が行なわれ、福引きで大いに盛り上がった。終了後は別室で二次会が開催されて、深更まで話の花が咲いた。第一回としては記念すべき盛大な大会となった。

★日本GAP主催UFO写真展

日本GAPは昨年一二月末より都内関東地方各地でUFO写真展を開催して絶賛を博している。今年四月には埼玉県川越市の「県民ミニギャラリー」で一週間開催。多数の見学者があり、盛況であった。一二月の池袋パルコの会場に備えつけたアンケートの結果を見ると好意的な意見を述べた人が圧倒的に多く、むかしのような否定的または揶揄的なアンケートはほとんどなく時代の進歩を感じさせた。特に金星の大母船とオーソン氏の写真に好意を寄せた若い人が多くて、宇宙の彼方の大文明に思いを馳せる時代に突入したことを実感させる写真展であった。

今後はさらに左記の予定で写真展を開催するので、最寄り地域の方々は参観されたい。

●六月三日～一八日

●神奈川県川崎市幸区市民ギャラリー

●七月一日～一六日

●同市川崎区市民ギャラリー

●八月七日～一二日

●埼玉県熊谷市市民ギャラリー

●八月の中の一週間

●東京デパートたまプラーザ店

写真展に関する問い合わせは東京本部役員・大根田匡史まで電話されたい。

☎045162413522(番間を)

★今年度日本GAP総会

今年度の恒例の総会は今年九月一日に開催が決定した。会場は東京月例セミナーが行なわれている港区芝公園東京タワー前の機械振興会館地下二階の大ホール。今回は久保田会長が大講演を行ない、さらに質疑応答、テレビ番組練習、その他の番組が組まれている。詳細は本誌四七頁に予告が出ている。

今年九月二連休の初日(日)が開催日で、前日は土曜日であるから職場によつては三連休になるので参加しやすい。多数のご来場を期待したい。

なお地名の芝公園というのは本物の公園ではなくて昔の公園跡が地名として残ったもの。山の手線の浜松町駅で降りて東京タワーを目当てに行けば会場はすぐ判明する。

★日本GAP海外研修旅行

日本GAPは過去約二〇年間、毎年夏に海外研修旅行を実施していたが不況のために二年間中止していた。今年

は久しぶりに再開して一月にイストラ

エルを八日間訪問し、主としてイエス

関係の遺跡を徹底的に見学する。イス

ラエル行きはこれが五度目で最後になる(来年度の訪問国は未定)。詳細予告は本号四五頁に出ている。

★東京月例セミナー

東京本部は原則として毎月一日に港区の機械振興会館で月例セミナーを開催して会員の研修を行なっている。これは過去二八年間連続三三五回開催されており驚異的な記録をたてている。その間久保田会長は都合により二度欠席しただけという精勤ぶり。これも宇宙哲学を生活に応用した強健な体力作りの結果と会長は述べている。セミナーではこうした超健康維持の秘訣や能力開発その他について会長が有益な講義を行なう。詳細は巻末にあるので多数の方々のご来場が期待されている。

★日本GAP維持会員制度

日本GAPは普通会員とは別個に維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度であり、特にGAPの運営と発展に寄与するための援助活動で、絶大な役割を果たしている。これに加

入すれば久保田会長が毎月個人で発行している「意識の声」と題する小冊子のエッセイが維持会員に直送される。

これは本誌に掲載されない秘話、会長が実践している宇宙的能力開発法、会長の珍しい体験、GAPの行事速報、その他興味深い記事が掲載されている。

特徴は常に大いなる信念と勇気と希望を起こさせる内容にある。

このエッセイ「意識の声」はA4判紙面にぎっしり印刷された記事が4頁分ある(折って綴じれば八頁分になる)美麗オフセット印刷。大体に各月の下旬に翌月号が発行されるが、会長が超多忙な場合には少し遅れることもある。会長はいつもA4判4頁分の原稿を自分でワープロを使用して書き、オフセット版下を製作しているという。

維持会員に加入希望者はハガキに「維持会員案内書送れ」と書いて日本GAP宛に送れば案内書と専用振替用紙が送られる。

★原稿・写真募集

本誌はUFOと宇宙哲学を基調とする宇宙科学と精神世界探求の専門誌であり、興味本位と猟奇趣味を極力排したまじめな専門誌として絶賛を博している。とかくUFO問題では恐怖心を煽り立てるオバケ宇宙人や誘拐事件等が流布しがちであるが、本誌は内外の事件を厳選し、真実と断定できる有益な記事のみを掲載する一方、宇宙哲学的な面にも留意して、読者に明るい希望と勇気と信念を起こさせるように啓蒙主義を貫いている。

本誌はUFO目撃体験、UFO写真、宇宙哲学の実践成果、能力開発等の原稿を募集しているので、ふるって投稿されたい。原稿は手書き、ワープロ打ち等自由。掲載分には薄謝を呈する。

去る六月一三日、日本GAPの久保田会長はまたも東京造形大学でUFO問題の講演を行いました。これで五回目になるそうです。助手として私が初めて同行しましたが大階段教室にほぼ満員の約三七〇名の学生さんがつめかけた光景は壮観で女子学生が多いようでした。先生の講演を聞く学生さん方の終始真剣なごやかな態度に深い感銘を受けました。今回は約三〇分の講演後、スライドを約五〇点映写し、最後にテレパシクな感性を高めることと二〇世紀にそなえて英語をしつかり勉強して身につけることの重要性を先生は力説されました。

この大学は芸術系であるせいか大変おらかな包容性のある学園で、聞くところによりますと、デザイン界の各門・桑沢デザイン研究所の指導者であった桑沢洋子先生の設立になる学校とのことで、体育の教授である佐藤彰先生が日本GAPの熱心な会員であるところから毎年会長に講演の招待があるそうです。今回は学長の海本健先生も教室にお見えになり熱心に聴講されました。学長先生もUFO問題に深い関心をお持ちと聞いています。終了後は別な場所で夕食を頂きながら学長先生から芸術と学問に関する高度なお話をお聞きし、帰りの電車の中でお話を続けられて多大な感銘を受けました。先生は威張らない、きさくな方で、全く頭の下がる思いでした。(加藤純一)

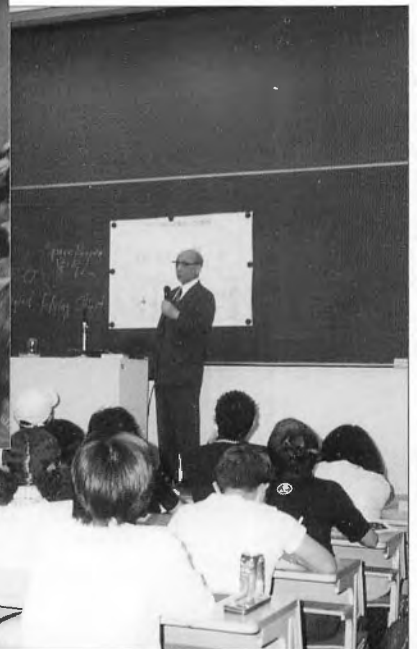
今回で五度目になる東京造形大学のUFO講演は、今までとは違う雰囲気非常に愉快な一コマであった。今春入学した三七〇名の男女学生諸君は少々体格が小ぶりに見えたが、今までに最もUFO問題に深い関心を示した学生さん達であった。私がアメリカの地名や人名等の固有名詞をアメリカ流の発音でしゃべるたびに、いっせいに歓声と拍手が起る。これは発音が正確なので学生達が感心して喜んでいたので、あとで学長先生がおっしゃった。苦笑するのみ。

スライドの映写では大変静粛になって熱心に見てくれたし、最後の質疑応答では意外に沢山の質問が出て私を驚かせた。どの質問もUFO問題を熟知していると思われる内容ばかりで時代の進歩を痛感した次第。見たところUFOが存在するのは当然だと考えている若者ばかりである。天井敷敷から女子学生がUFOに呼びかける方法について大声で質問したのでテレパシーを応用する方法を伝えておいた。

会場で助手の加藤純一が撮影した写真に不思議な光が写っていた。秋山眞人氏によれば本物の超小型UFOの光跡だという(一五頁の口絵参照)。世界に類のないこの超進歩的な大学で今後も毎年春秋の二回講演をやれと佐藤教授から厳命されている。学長先生、佐藤先生、学生諸君に衷心より感謝したい。(久保田八郎)



▼講演中の久保田会長



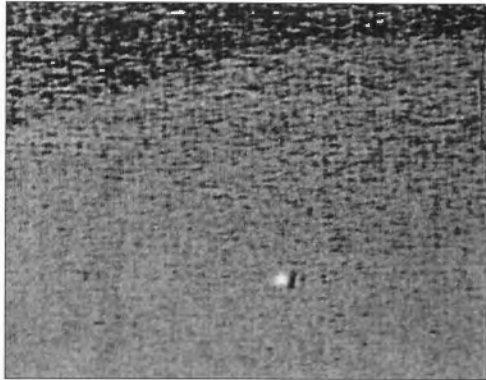
宇宙

夜の月面 一瞬の発光

電気通信大学の柳沢正久助教授（地球惑星物理学）らのグループが、月面に彗星の破片が衝突した瞬間と見られる発光現象のビデオ撮影に成功し、二〇日から東京で始まった日本天文学会で発表した。月面の発光現象は、五〇〇年間に千例もの観測例が報告されているが、今回のように記録されたのは世界で初めてという。

撮影は昨年十一月十八日、同大菅平宇宙電波観測所（長野県真田町）で行なわれ、発光は午後七時二分から約〇・六秒間見えた（写真左下の点）。月は地球から見て左半分（写真では上側）が欠けた半月で、光った位置は「湿りの海」や「ルトロンヌ・クレーター」の付近の南緯一一・六度、西経四四・六度。発光の原因ははっきりわからないが、柳沢助教授は「重さ数十キロの彗星破片が、秒速約七〇キロの高速で月に衝突したのでは」とみている。（5・21読）

▲月面の発光現象（左下）

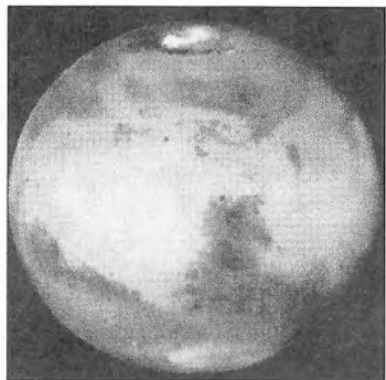


最も鮮明な火星の写真

米航空宇宙局（NASA）はこのほど、地球を周回するハッブル宇宙望遠鏡が撮影した火星の鮮明な画像Ⅱ写真Ⅱを公表した。先月改良を終えたばかりのハッブル宇宙望遠鏡の初仕事で、三月一〇日に撮影された。NASAは「地球付近から最も鮮明な火星の写真」としている。

上方に白く見えるのは、二酸化炭素の氷（ドライアイス）に覆われた火星の北極。火星の北半球も春分を迎え、氷の面積が小さくなっているのが分かるという。（5・21朝・読）

▲ハッブルがとらえた火星



二〇〇四年、土星到着の旅

大型探査機「カッシーニ」の打ち上げ

米国と欧州が協力して作り上げた大型土星探査機「カッシーニ」の打ち上げが五月後の一〇月初め（六日）にせまった。先月末には米航空宇宙局（NASA）ケネディ宇宙センター（フロリダ州）に運び込まれ、土星までの長旅に備えている。カッシーニは約三億キロ、

七年間の宇宙の旅を経て二〇〇四年には土星に到着する。その後、二〇〇八年まで、地球によく似た衛星タイタンや、土星の輪の成り立ちなどを調べる壮大な計画だ。

この計画には、米国と欧州の一六カ国が加わり、米国が探査機本体を、欧州各国でつくる欧州宇宙機関（ESA）が子探査機（ホイヘンス）を、イタリアが地球と交信する直径四メートルの主アンテナの製作を担当した。

全体では二七個の観測機器を積み、総重量は五・六トンとボイジャーの三倍近い。軌道変更のためのロケットエンジンも二基備え、高さ約七メートルという最大級の探査機になった。

七年に及ぶカッシーニの大遠征のハイライトは、二〇〇四年一月、搭載した子探査機ホイヘンスを土星最大の衛星タイタンに降ろすことだ。

八〇年代から始まった計画の総事業費は三億ドル（約三八〇億円）。十数年もカッシーニ計画に携わってきた科学者たちは、一〇月の打ち上げを祈るよう

な思いで待っている。（5・14朝）

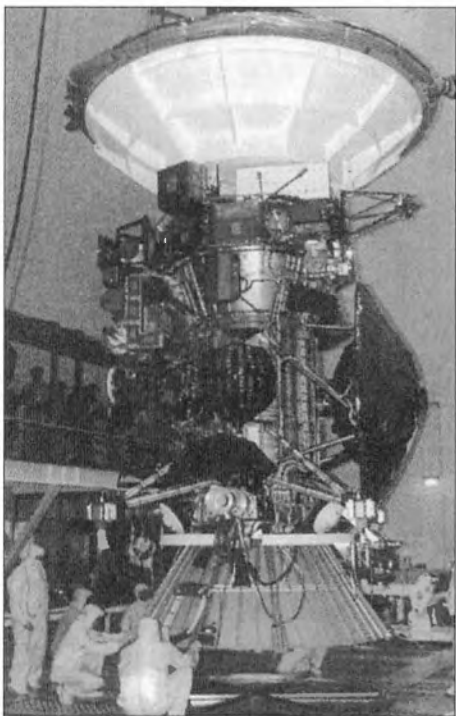
太陽系の半径3倍？

冥王星がなかに小天体

太陽系の惑星の中で軌道が一番外側の冥王星の軌道半径の約三倍という遠方に達する新しい氷の天体を米国の天文学者チームが発見し、五日付の英科学誌ネイチャーに発表した。太陽系の半径が一気に広がることになる。太陽系の広さや質量分布の考え方をくつがえし、太陽系の起源解明にもつながる新発見として注目されている。

この小天体は「1996TL66」と呼ばれ、名前はまだ付けられていない。米マサチューセッツ州のハーバード・スミソニアン天文学センターのジェーン・ルー博士らが昨年一〇月、ハワイ大学の望遠鏡を使って発見し、数カ月間、動きを追跡していた。

その結果、この小天体は太陽に最も近い点だと太陽と地球の距離の三五倍に近づくと、最も遠い点は一三〇倍の地点まで離れ、極端な楕円軌道を描いて太陽を回っていることが分かった。

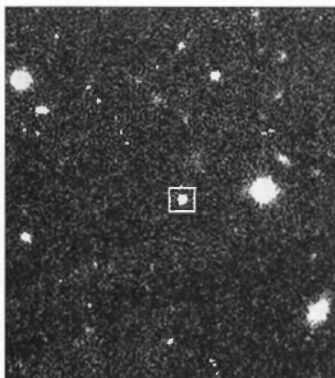


▲組み立て中の土星探査機「カッシーニ」。右側の皿型のもは「ホイヘンス」。

小天体の直径は約四九〇キロ。冥王星（直径二三〇〇キロ）より小さいが、冥王星に近い明るさで輝いている。水や二酸化炭素、メタンなどの氷でできていると想定されている。

冥王星は太陽と地球の距離の約四〇倍のところに平均軌道がある。ルー博士らによると、一九九二年以降、冥王星より外側に軌道を持つ氷の小天体が約四〇個発見され、小天体の集として「カイパーベルト」と呼ばれる帯状の供給源が太陽と冥王星の距離の一・二倍の外側にまで広がっていることが明らかになってきた。しかし、今回の小天体はさらに遠方に達する独特の軌道を描いており、新タイプの天体だと位置づけている。ルー博士らはさらに探査を進めれば、同様の小天体を多数発見できるとし、理論計算で約六四〇〇個とはじき出している。

（太陽系）太陽を中心に円盤状に広がっており、これまで直径は約一〇〇億キロで、太陽系全質量の九九・八六パーセントを太陽が、九個の惑星と約四〇個の衛星が〇・一二パーセント程度を占めると「1996TL66」（四角内）



考えられてきた。(6・5頁)

〈医学〉

■生物のエネルギーを生む細胞内「極微モーター」

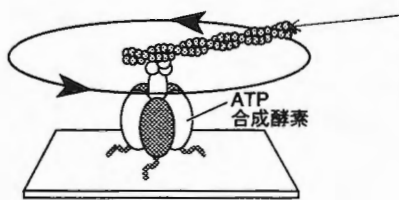
人間を始め、ほとんどの生物の細胞の中には、ごく微小な「モーター」が無数に存在し、その回転によってエネルギーが生み出されていることを、東工大資源化学研究所の吉田賢右教授（生化学）らのグループらが世界で初めて突き止めた。モーター本体の直径はわずか十万分の一ミリ。従来、地上最小とされていた細菌のべん毛回転モーターの半分ほどで、マイクロナシンのモーターとしての利用も考えられるという。三月二〇日発行の英科学誌「ネイチャー」に発表する。

生物の活動に必要なエネルギーは、ATP（アデノシン三リン酸）という分子に蓄えられている。ATPは、摂取した栄養分をもとに、細菌の中にあるミトコンドリアという袋状の微小器官で合成されている。

吉田教授、慶應大学理工学部の木下一彦教授らは、ミトコンドリアでATPを合成している酵素に着目。ほとんどの生物に存在するこの酵素は、水素イオンがミトコンドリアの膜を通過する時のエネルギーでATPを合成する。

酵素は大小二つの筒を差し通した構造。吉田教授らは、バクテリアの酵素の棒部分（直径百万分の二ミリ、長さ百万分の六ミリ）にヒモ状の分子（長さ約千分の二ミリ）を付着させ、筒部分をガラス板に固定。これを特殊な溶液に浸して、顕微鏡で観察したところ、ヒモが一秒間に数回のペースで回転し、この酵素の正体はモーターであることがわかった。

吉田教授らは今後、モーターの回転でATPが合成される仕組みを明らかにしたいとしている。



実験で確認された分子モーター

■アルカリイオン水は体によい

一万病の原因となる活性酸素を消去し水を電気分解して生成する「還元水」が、さまざまな病気の原因となる活性酸素を消去する作用があることを九州大大学院農学研究科の白畑実隆教授（遺伝子資源工学）の研究グループが立証し、六月一日に東京都内で発表した。還元水を作る装置は「アルカリイオン整水器」などの名称で市販されているが、その効果が立証されたのは初めて。

発表したのは白畑教授と、還元水研究者で医学博士の林秀光・新しい水の会主宰、メーカーの日本トリム社。還元水は通常の水を電気分解すると、

陰極側に生成される。還元水に活性酸素消去作用があるとの仮説を林主幹が提唱していたが、実証されていなかった。

白畑教授は試験管内で「スーパーオキシドラジカル」という活性酸素を発生させる実験装置を作り、還元水を加えたところ、活性酸素は完全に消去された。また、酸化物質である過酸化水素の消去作用もあることを確かめた。

活性酸素には遺伝子の本体であるDNAを損傷する作用があるが、還元水はDNA損傷を防ぐ効果があることも実験でわかった。

さらに、活性酸素の消去作用を担う物質を調べるための実験を行なった。この結果から、活性水素と呼ばれる原子状態の水素が活性酸素と結びついて水になり、活性酸素を消去していることが示された。

研究成果は生物化学の国際学術誌「BBOC」に掲載された。白畑教授は「活性酸素の消去にはビタミンなどの酸化物質が効果的だが、自らも酸化されて有害物質になるため、食品中の酸化物質を取りすぎると害がある。還元水の場合、活性酸素を消去して水になるので問題がなく、理想的な酸化剤になる可能性がある」と話している。

〈活性酸素〉

構成する電子の一つが不安定になった酸素のことで、フリーラジカルとも呼ばれる。体内に吸入した酸素の約二パーセントが活性酸素になると推定されている。体内に入った異物に対する防御機能を持つ反面、老化やガン、動脈硬化、高血圧などさまざまな病気の原因になるとみられている。(6・12頁)

宇宙の使者—日本GAP

●加藤純一 〈日本GAP本部役員幹事〉

以下は去る六月一日の東京月例セミナーで筆者が行なった講演の内容

皆さん、こんにちは。本日は私が日本GAPに入会するまでの不思議な体験と、現在までの歩み、そして大盛況であった福山支部大会の模様を最新のUFO目撃談を交えながらお話しさせていただきます。

私はよく久保田先生にUFO男だと言われるのですが、UFO男とは一体何だ、どんな人間だ、と皆さん思われるかもしれません。

というのも、とにかくUFOを度々見るんです。中には空を見て飛行機を見てはUFOだと騒ぐ人がいますが、そういった話ではなくて、昼間にも良く目撃するんですね。ですから実際に本体が良く見えるんです。このような目撃をするようになったのは実は日本GAPに入会してからなんです。

巨大なUFOを目撃

私は高校を卒業するまでの一八年間を秋田市で過ごしました。その間UFOを目撃したのは一回きりですが、それは今でも強烈に心に残る体験でした。

一九七四年頃、幼稚園に通っていた頃だったと記憶していますが近所の友達七〜八名で稲刈りの終わった田んぼでボール遊びをしていました。そのうち誰が見つけたのかははっきり覚えていませんがいつものまにか友達全員が空を見上げていました。そこには今まで見た事のないオレンジ色の巨大な楕円形の物体が滞空していました。しばらく見入っていると友達のお母さんがいつまでたっても帰ってこない我々を探しにきてくれました。そしてその物体を見るなり恐怖心を起こしたのか、すごい形相でみんなを連れて帰ろうと必死になつていてる姿を幼心にも強烈に覚えています。また、「あれは何?」とみんなですごく聞いても答えてくれずに友達の手を引っ張ってゆく様を見て「これは質問してはいけないことなのだ」とその時に思い、その事は誰にも言わずにしばらくは忘れていました。不思議なのは我々子供だけで見ていた時は恐怖心という不快な感覚や感情がまったくなく、その場にいるみんなもパニックになるということはありませんでした。この時一つ違ひの弟がいましたが彼も泣いたりすることもなく最後まで見ていたことを記憶

しています。

さて、秋田にいた間はこの目撃体験をしただけで、しかもその体験を忘れたまま高校三年生になりました。当時は部活動をするわけでもなくギターばかりやっていましたので、学校が終わると家に帰って寝て、起きたらギターというのが習慣になっていました。

ひんぱんにUFOの夢を見る

夏頃だったと思いますが家に帰ってきてもその夢うつつの中で、今までに見たことのないような美しい青空の中に何千機ものUFOが現われるという不思議な夢を見ました。形は葉巻型からドーナツ型、小さいのはただの丸型、とにかくたくさんUFO、円盤が青空の中にうめつくされていました。そして全て透けるような銀色の本体がありありと観察できるほどの臨場感あるとても不思議な、またとても爽快感のある夢でした。

それ以来、本当に頻繁にUFOの夢を見るようになりました。登場するのは円盤型ではなく、きまって葉巻型大母船で、遠くをゆつたりと飛ぶそのUFOを当時は宇宙戦艦と呼んでいました。本体はつるりとした突起物のない巨大な船体で、全体は銀色で少し金色がかった金属質でした。また、この頃はまだ日本GAPの存在もアダムスキー氏の詳細も知らない頃でした。今にして思えば、もしかしてスパー

スプラザーズ側が、私がGAPや久保田先生に出会うための下準備としてこのようなアプローチをして下さったのだろうかと考えることがあります。なぜなら当時は古神道ブームの余波で私自身はUFOに関して全くといっていいほど興味はなかったからです。ですからこのような夢を見ること自体が不思議でしたが、私にしてみれば「神の世界はどうなっているのだろうか? 転生はどのように行なわれるのだろうか?」ということの方が重要で、「今頃何故UFOなのか?」という疑問もあつたのです。

人がいない所に出るといふ

ただ、その葉巻型大母船がでてくる場面では必ず母船と私という具合で、他の人はいません。そしてはじめのうちは遠くの空から悠然とやってくるのですが、この時は恐怖心というマイナ斯的な感情は全くなく、むしろその母船と私の間で自然に会話? (今にして思えばテレパシー?)を試みていました。当時は質問に対してこのような解答を頂いております。

「人が大勢いるところではなく、人があまりいないところに出ます。(出ています)」

たったこれだけですが、自分なりに「ああ、夢の主人公は気を使っているんだなあ」と納得していました。ですから私なりにGAPを知る前から潜在

意識下で UFO の存在に慣れ親しみ、アダムスキー問題や久保田先生に出会うための準備を向こう側でプログラムして下さっていたのかもしれないほどとにかくそう思わざるを得ないほど度々母船の夢をみていました。

現在でもこうした UFO の夢は度々見ますが、日本 G A P に入会してから見る UFO の夢は「予知夢」という性格を持っている場合が大半を占めます。

さて、それから卒業前の冬頃に偶然に本誌「UFO contactee」一〇四号を見つけ、また、アダムスキー全集も図書館で見つけて卒業までの数カ月間、時間の許す限り読み続けました。ここではじめて G A P との接点を見つけ、上京して以来毎月東京本部月例セミナーに参加させていただいております。

異星人は久保田八郎を注目？

U F O の目撃談になりますが、私のエピソードとしてはやはり久保田先生とご一緒させて頂いている時の目撃と、個人的な呼びかけによる場合が大変多く、特に G A P 活動の最中に度々出現し、それを目撃できるということが言えると思います。

私は上京以来一貫して久保田先生のお側にて各地を回りましたが、早いもので今年の六月で九年目に入りました。その間多くの UFO を目撃しましたが現在では毎月のように目撃しています。そしてここ四〜五年くらいい

ちに写真やビデオにも写せるようになりました。また、一緒にいる人も目撃できるようになりました。

ここで皆さんはなぜそんなに加藤だけが見れるのか、タイミングが良すぎじゃないか、と思われるかもしれませんが、これには三つほどポイントが考えられます。

まず、様々な G A P 活動、支部大会や海外研修旅行、デザートセンター調査旅行等に参加し、実際に目撃という祝福を受けてみて最近特に感じるのは、彼らスペースブラザーズは明らかに日本 G A P、久保田先生、そして会員の皆さんの活動を注目しているらしいということです。また久保田先生のまわりにはつねに宇宙的な雰囲気漂っているような気がします。

いつも空を見上げる

そしてもう一つは私がつねに空を見上げていたからだとも言えます。例えば出勤時間の駅に向かう途中や、仕事で度々外に出る時にはきつと人が見ていて呆れるくらい空を眺めていることでしょう。要するに単純に確率の問題なのかもしれません。ただ都内にはビルや建物など、色々な障害物があり、なかなか集中できません。これが都内など街中での目撃を難しくしているのかもしれないです。ですが、デザートセンターなどに行った場合は周囲に何も無くて、空を見上げると障害物な

ど何もありません。全部空なのでそこで UFO を見つけるというのはた易いと思われるかもしれませんが、じつはなかなか難しいものです。それは何故かといいますと、U F O は目の前に大きく現われるわけではなく、空を飛んでいる時は見かけ上、本当に小さかったりするわけで、それを見つけないのがなかなか大変なんです。その見つけるためのエッセンスがアダムスキー哲学にちりばめられているのです。「超能力開発法」「生命の科学」の中に非常に詳しく書かれてあります。ただ、もちろん UFO を目撃するためには書かれていません。アダムスキー哲学を生かしていつ、その延長上で UFO を沢山見る事が出来るんだという事が私の体験から確実に言えます。

もう一つは私個人の初心としてつねに UFO とコンタクトがとれますように、という願いがあるからです。それは久保田先生のご指導にあるとおり一種のミラクルワードやイメージ法を駆使して行なうのです。そして「何故見たいのか」、「見た後一体自分はどうするのか」、「G A P 活動、私生活にどう役立てるのか」という明確なイメージを組み立てるのです。世の中には様々な願望実現があってもいいのだと思います。

U F O 目撃前には体の異常が起こる

スペースブラザーズは日本 G A P を

注目していることは間違いありませんので久保田先生と一緒にいる時は、U F O を目撃できる絶好のチャンスであると思います。あとは個々がどれだけそのエッセンス、アダムスキー哲学を自分なりに吸収しているか、という問題になってきます。

私、いつも講演をする時は原稿無しでやるのですが、いつも直前まであたふた考えています。今日もつい先程までこの会場の屋上でフツフツ言いながら思索していました。すると、今日もやっぱり出ました。U F O が！

私は UFO を目撃する時は、眉間のところにエネルギーを感じたり、後頭部が非常に熱くなったりするんですね。あるいは耳に圧迫感や軽い耳鳴り？のような感覚がしたりします。で、「あつ、来てるのかな。」と思って目をあげると、目の前に楕円形の真っ黒い円盤がいるんです。カメラを向けると瞬間的に消えてしまいました。ついさきほどのことです。一二時五分頃のことです。時々遠藤昭則氏や大阪支部代表の平塚和義氏とも話をするのですが、G A P の月例セミナーでは、U F O が近くにいる独自のフィーリングがあります。そして、我々個人個人が月例セミナーに来て久保田先生の教えを受けているというのは、ブラザーズ側もきちんと知っているのではないのでしょうか。それは私自身いままで八年間先生のお側にいまして、非常に強く感じて

います。久保田先生や緒先輩方のお話によると上野の文化会館で月例セミナーを行っていた頃は実際にUFOが度々窓の外に現われていたそうで、セミナーに参加している会員の方々に目撃されていたそうです。

とにかくGAP活動の最中には、いつも我々の上空にUFOがいるんです。ときにはスペースビープルもやっています。でも実際はそこまで見抜くのがむずかしいんです。ただし、そういう確率は多くなっています。それだけこのGAP活動というのは本物であると思います。

日本GAPは歴史に残る

以前、コンタクトテイとして有名な秋山真人先生とお話をさせていただきましたとき、「本物は絶対に歴史に残るよ。GAP活動は絶対に本物だから絶対に残ります。残さなきゃいけない」と力強く言われたことがあります。

私は最近、GAP運動・活動についてよく本部役員のみなどと話し合いますが、アダムスキー氏が残した中心思想である「宇宙哲学」の分野をこうまで一貫して忠実に広めてきたのはやはり久保田先生の手腕であり、これが今後、地球の思想界の根幹になってゆくであろうということです。そして久保田先生もおっしゃっておられますが、このアダムスキー問題を、GAP活動を二一世紀に、新世代に残さなければ

ならないという責務があるのだと力説されています。幸いにも日本GAPは会員数、全国の支部体制、一流の機関紙、様々な企画等、世界規模でも類まれな結束力を持ち合わせて、それが渾然一体となつて一つのヒューマンパワーを生み出しています。

このような人と人が生み出す力に触れてみたくて、実は今年はあるべく多くの支部を訪問しようということをお本部役員と黎明会に提案いたしました。そこで二月にはまず大阪支部の月例セミナーに単独で参加させていただきました（本誌一三七号参照）、四月には総勢五名で伊豆支部の月例セミナーに参加させていただきました。いずれのセミナーでも久保田先生の解説講義はもちろんのこと、それぞれ独自に超能力開発練習を盛り込んでおり、大変興味深い内容でした。また支部代表をはじめ参加されている皆さんの久保田先生にたいする尊敬と愛情を感じ取ることができたことが何よりの収穫です。

私はいつも事あるごとに言いますが、今やアダムスキー氏が一番伝えたかったであろう宇宙哲学、宇宙の法則についてこうまで多くの人々に、しかも正確に伝えた指導者は他にいません。この点で我々GAP会員は久保田先生に直接指導を受けた人間として未来の宇宙的な社会の基盤作りに少なからず貢献できる日がもうすぐそこまで来ているという実感が湧いてきます。

また、先般五月二五日に盛大に開催されました第一回「福山支部大会」でもいかに地方会員の方々が久保田先生との直接交流を求めているかを肌で感じ取ってきました。今この会場にいる関東圏の皆さんは毎月第一日曜日この機械振興会館にすれば定期的に確実に久保田先生の直接指導を受けられますが、全国の会員の皆さんはなかなかそうもゆきません。年に一度の総会では会えるかもしれませんが参加人数に照らし合わせると時間は限られてしまいます。そういったある種のジレンマ、逆にいえば久々にお会いする喜びを支部代表の方々は地元での活動の中でうまく消化しなければなりません。それは今まで支部大会や先の支部月例セミナーに参加してみても推察するだけですが、おそらく並々ならぬご苦労があることと思います。

素晴らしい福山支部

そんな中で福山支部大会では実に第一回目ながら七〇名もの参加者がありました。これは平塚代表をはじめとする大阪支部会員の方々が一三名、四国方面からは高松支部の関高明代表を中心として八名、その他九州方面からも参加者があり、大盛況の大会でした。

また、もちろん地元広島県の方々もそうですが、今回は東京本部役員も多く駆けつけ久保田先生と前日入りをしました。

そして何ととっても福山支部会員の皆様による久保田先生をお迎えする万全の態勢が素晴らしい、徹底した打ち合わせと役割分担、おもてなしの心を我々本部役員も十分に学び取ることが出来ました。これは支部代表である栗田雅則氏と副支部代表の片岡豊氏の手腕によるものです。また、かゆいところに手の届く福山支部幹部で構成される「婦人会」のみなさんにも大変お世話になりました。大会の大成功は支部会員皆さんの一体感により得られたものであると思います。

福山支部大会でUFOが出現

また、大会そのものを祝福するかのようには大会開催の一時間ほど前には先生との食事中に会場の近くの上空に一機の円形UFOが出現しました。この時は出現の数分前から肩間の少し上のあたりにエネルギーのような微弱振動を感じていましたので「これは円盤の出現の合図だ」と思い、窓から空をみていました。上空は一面雲に覆われていたのですが、視線を投げかけたところが不思議とちょうど真ん丸にくり抜かれたように青空が見えてきたものからジッと観察していました。すると突然その青空の空間に円形の黒い円盤が出現したのです！隣にいた本部役員の岡田茂君に「双眼鏡！」といった時にはもう消えていました。

(以下略)

去る四月二日から八日までの一週間、埼玉県川越市の「県民ミニギャラリー川越」で日本GAP主催のUFO写真展が開催されました。埼玉県での写真展は今回が最初の開催でしたが、合計一三二名の入場者があり、あらためてUFOに関する市民の関心の高さを知ることができました。会場では「UFO contactee」誌のバックナンバーや全集を展示し、興味のある方の閲覧に供するように配慮しました。

前回の池袋バルコで開催された写真展との相違は、参観者の多くがアダムスキー撮影の写真を見るだけではなく、会場系の本部役員や、お手伝い頂いた会員有志の人たちと積極的にUFOについて話されていたことです。なかには大変素晴らしい内容だと感激して二日間連続で来場された方もありました。このように「知らせる運動」の一端として、多くの方々とお話する機会やUFOについてオープンに語り合う場を提供できたことは大きな成果でした。また会場で毎行なっているアンケートではまじめな内容が多く、東京月例セミナーに参加したいという方が数名あり、これからのGAP活動に大きな希望がわき起こりました。

今後も首都圏を中心に毎月一回のペースでUFO写真展を開催する予定です。近くで開催される場合にはぜひともお誘い合わせの上、ご来場下さい。

本部役員 会田裕子



宇宙哲学で良き運命をつくる方法

久保田八郎 日本GAP会長

去る五月二五日の第一回福山支部大会は大盛況であったが、久保田会長が行なった表題どおりの講演は出席者に多大の感銘を与えた。以下はその要旨。少し加筆された部分もある。

ある書物に吸い寄せられる

皆さん、こんにちは。今日は第一回の福山支部大会が開催されました心から喜び申し上げる次第です。

私がアダムスキーと文通を始めたのは、彼の本を読んですぐのこととして、一九五四年の九月の始め頃だったと思います。

当時私は鳥根県の益田という町に住んでおりました。その駅前に大きな書店があった、そこへしょっちゅう入っております。店の左側の棚には趣味の本ばかりが並んでいて、奥の棚に学術専門書がありました。私はふだんは左の棚の前を素通りしてすぐに奥の棚へ行くんですが、九月のある夕方、その店に入ってから、なぜか左の趣味の本の棚を一冊ずつ丹念に見つめながらゆつくりと移動していたんです。すると小型の本が目について、その背中の文字は「空飛ぶ円盤実見記」という題でした。アレと思って、あまり

関心はなかったんですが、とにかく目についたものだから、引っぱり出したんです。

終戦後から、いわゆる空飛ぶ円盤という言葉がはやりだしました。世界的にそのような物が出現するという記事が新聞によく出ましたね。今考えてみますと、たしか昭和二二年頃だったと思います、今頃大問題になっているアメリカのロズウェルの小人宇宙人の墜落事件ですね、あの記事がたしか新聞に出ていました。

私は当時、そんなことに関心はなくて、空飛ぶ円盤というのはアメリカかソ連の普通の飛行機をはるかに高度にした超兵器だろうと思っておりました。したがって全く関心はなかったんです。ところが、その「空飛ぶ円盤実見記」という本をパラパラと開いて見たときに、飛び上がらんばかりに驚きました。ジョージ・アダムスキーという人が一九五二年一月二〇日、アメリカのデザートセンターという砂漠地帯で金星から来た円盤が着陸して、そこから出てきた金星人に会ったということが書いてあるんです。そのとき私は直感的に「これは本当なのだ！」と思いましたが、大変なシ

ョックを受け、その本を買って帰って、三日三晩興奮して夜は眠れなかったことを覚えていています。

一冊の書物で運命が変わる

一冊の書物によって人間の運命が根本的に変わる例があるようですが、私はその典型的な例だったわけです。

これはあとから考えますと、偶然にその本を見つけたのではなくて、その一冊だけあった本の所へ私が何かの力で引っぱり寄せられて、それを見せられたと思えません。

そのときに「この本の中身は本当のことなのだ！」と思ったショックは今でもつづいています。ますます高まっています。アダムスキーという人は凄人だったんだなと思う気持ちは今も変わりません。

これは私のカルマだったと思います。カルマというのは古代インドのサンスクリット語のカルマンの訳語でして、今は「業」「宿命」「因縁」というような意味に用いられています。私らはこれを「因果関係」という意味にも用いています。特にこの因果関係は、人間の過去の生涯から今生に至る因果関係を意味するものとしても使用しています。つまり過去世から現在の生涯までの因果関係です。

転生の法則は存在する

過去世から今生へということになれ

ば、当然のことながら人間は生まれ変わるのです。これを「転生」といいます。これはまだ一般で認められていないんですが、来世紀になって重要な問題として確実に一般で認められるようになってくるでしょう。

今は「人間の生涯は一回きりだから、命を大切にしましょう」とよくいわれますが、これはまことに不合理な解釈です。というのは、一回きりの生涯で、なぜある人は非常に高貴な家柄に生まれて何不自由なく育てられ、またある人は私みたいに貧乏な家庭に生まれて難儀な思いをする。そして一回きりで消えてゆく。これではあまりにも不合理です。神様が人間を造ったのなら、なぜ平等に造らないのかということになります。

これは当然非常に不合理な問題ですが、普通の人はそれを不合理と思わないうで一回きりの生涯だと思っていますけれども、しかし来世紀になれば「人間は永遠に転生を繰り返してゆく」という法則を知ることになると思います。

太陽系惑星群の大明はすでに知られている

来世紀には地球人の知識はものすごく進歩するでしょう。転生のことばかりか、別な惑星の文明、特にこの太陽系内ですが、これを確実に知るようになります。これは西暦の二〇二〇年頃から大体に知られるようになります、



久保田会長 撮影/齋田雅則

来世紀中頃には常識として教科書にも載るようになるでしょう。

さらに地球人は別な惑星を訪問するようになりま。そして人間の潜在能力であるテレパシー（精神感応力）の重要性が認識されるようになるでしょう。遠隔透視力も来世紀に知られるようになるでしょう。これらの能力が人間の内部に存在することは常識として知られるようになるでしょう。

私たちの太陽系内の別な惑星群に存在する大文明をアメリカ政府は知っています。アメリカにはNASAとこの機関があります。これは米航空宇宙局の略称ですが、これが世界の運命のカギを握っています。ただし悪い方向には行きません。NASAは金星とか火星とかに大文明があることを知っているんです。知っています。まあ、ネコをかぶって知らないようなふりをしてはいます。

なぜ隠すのかといいますと、この理由は非常に重要で。そんな事実をいま発表したならば、地球人がどんな反

応を示すかといいますと、大変な恐怖心を起こして收拾のつかない状態になります。世界的に一大パニックが発生するでしょう。だから隠しているんです。これはいいことなのです。隠しておくほうがですね。私はむしろ、うんと隠して下さいと言いたいですね。

今世紀末に破滅的な大変動はない

今世紀末といいますが、あと数年ですが、その今世紀末に世界的な大変動が発生して地球は全滅するという恐ろしい予言がときどき出てきます。たとえばノストラダムスとかエドガー・ケイシーとかの予言類を解釈した本がいろいろと出回って、恐怖心をあおりたてるような予言となつていますが、これらの本はすべて間違っています。

今世紀末に地球は全滅するどころか、実際には別な惑星から宇宙船が大挙して飛来するのだという説があります。それは地球人を援助するためです。これでいつか地球人は動揺するでしょうが、さほど大きな騒ぎにはならないで結局は目が覚めるようになるでしょう。

良い運命を開くための三原則

それで、私たち地球人はこれからどのような生き方をすればよいかというのが本日の題目です。

これは別に目あたらしい事ではないんですが、これを実行されますならば

絶対に良い運命をもつようになります。まず、そのために三原則があります。第一に「大宇宙の創造主を自覚して、自分が創造主の化身であることを認識する」。

万人を尊敬すること

これがまず絶対的に重要なのであるそうです。これは私が決めた原則ではありません。これは目に見えないものですが、簡単に認識できないかもしれませんが、人間やその他の生物は偶然にポカッと出てきたものではないんです。そうしますと、あらゆる生物の原動力になつた造り手がなくては出来るはずはないという事は、誰がどのように考えてもわかりません。

創造主といえは宗教的に響きますが、創造パワーといつてもよいでしょう。あるいはアダムスキーが言うように、「宇宙の意識」といつてもいいですね。宇宙全体が意識体なんです。

これを徹底的に自分で認識して、自分が創造主によつて生かされている化身であるという事を自覚して、しかもこれを常時忘れないことです。これがなんといつても重要なことなのでそうです。

新アダムスキー全集の第一巻『第二惑星からの地球訪問者』の中に、別な惑星の方々は眠っているあいだも創造主のことを忘れないんだと書いてあります。これは大変なものです。

これは大変なものです。私たちが

は眠っているあいだは何もかも忘れませんが、せめて覚醒しているあいだだけでも、たえず大宇宙の創造主のことを忘れないようにすることです。難しいことですが、これを実践するべきだということです。そして自分だけでなしに、あらゆる人が創造主の化身であることをも認識する必要があります。

万人を尊敬すること

そこで、このためにどのような感覚が必要かといいますと、二番目の法則として、「万人を尊敬すること」が出てきます。これが重要なことなんです。どんな人でもまったく差別なしに尊敬するんです。これも大変難しいことですが、しかしこれを実行されますと、素晴らしい運命が展開してきます。

なぜなら、自分があらゆる人を尊敬すれば、自分もあらゆる人から逆に尊敬されるからです。これは動・反動の法則です。そうして人から助けられたり、いろいろと良いことになりました。あらゆる人を尊敬する、またはあらゆる人を礼拝するのです。礼拝といえはちよつと宗教的に聞こえますが、これは宗教ではありません。哲学なんです。宇宙哲学です。

礼拝するといいますが、いろんな人にむかつて、手を合わせて拝むというようなことではありません。心の中で手を合わせるような気持ちで、人を

拜むような態度をとるわけです。

その想念波動は必ず相手に伝わります。人間は想念波動を放射しているの
でして、これが空間を流れているので
す。これは心霊的なものではなくて物
理的なものです。まだ発見されていな
い荷電微粒子が空間を流れて行くので
すが、これは邪魔物がない限り、どこ
までも宇宙空間を進行するのだそう
です。だから金星人などは地球から金星
までテレパシーで個人的に連絡したり
しているわけです。

いつも楽しいというフリーリング

次に三原則の三番目です。これは、「自分はいつも楽しい気分につつまれている」と思い込んで、いつも「楽しい、楽しい」と思って、その楽しいフリーリングを体中に溢れさせているのです。このことは東京月例セミナーでもよく話しますが、あまりピンとこないかもしれません。しかし、楽しいフリーリングをいつも保つようにしておれば、その想念波動に同調した楽しい物事がいつも自分の方にやってきます。

事例をあげますと、これは都内のある場所で商売をやっている人ですが、実はGAP会員です。この人から聞いた話ですが、この種の商売では、よく笑う人ほどお客さんが沢山寄ってくる。笑わないセールスマンは成功しないということでした。まさに「笑う門には

福きたる」は不滅の法則です。これを実行するとよいのです。

地獄を天国に変えた事例

以上の三つを完全に実行されますならば、明日から素晴らしい運命が展開します。何か良いことが具体的に起こってくるはずですよ。

以上の三原則の中で一つの実例をお話ししましょう。本日もここに見えていらつしやいますが、GAP会員で岐阜県にお住まいのOさんという女性がいらつしやいます。このOさんの行きつけの美容院の経営者である奥さんが、旦那さんと非常に夫婦仲が悪くなって、最悪の状態になった。ときには殴られたりしていたんでしょね。自分は離婚するんだと言っておられたそうです。そこでOさんが、それならある人に解決法を聞いてみるといって、私の所へ相談の手紙をよこされたのです。

そこで私は返事を出しました。「とにかく奥さんが旦那さんを拜むような気持ちを起こして、心の中で手を合わせて、心の中で拜みなさい。いちいち頭を下げて拜むのではなくて、そういうフリーリングを起こして、旦那さんを一種のホトケさまのように思っ
て拜みなさい。これで必ず運命が変わってくるから」という返事を書いたのです。それぎり私はそのことを忘れてしましました。毎日多数の郵便物がくるので忘れるんです。

それから半年ぐらいたつてから、Oさんから手紙がきました。なんと驚いたことには、私の返事を美容院の奥さんに伝えて、これを実行しなさいとすすめたら、奥さんは実行したそうです。

そうしたら、夫婦の仲がまったく予想もしなかった方向に変わってきて、旦那さんが奥さんを心から可愛がるようになったというのです！素晴らしい家庭がまた復活したというわけです。これは事実です。現実の実話です。これは二番目の法則の「他人を尊敬する」つまり礼拝するという法則の応用です。

これは無条件で実行しないとだめなんです。相手は尊敬にあたいする人だから尊敬してやろう。この人間はダメだから尊敬してやらないぞ、ということでは全然ダメなんです。

無条件の尊敬！ 相手がどんなに悪党であろうが何であろうが、とにかく尊敬するんです。

しかしこれは難しいことです。私はここで偉そうにペラペラしゃべりますが、実際に私がそれを実行するとなれば、やはり難しいですね。でもこれは人間の運命を根本的に良い方向に変えるための重大な法則の一つです。

以上の三つの原則を皆さん方が思いきって実践されますならば、運命が明るくなる日からも大転換するでしょう。そのような事例はたくさんあるんです。

すが、いちいちお話しすれば時間がかりますから省略しましょう。

なぜ他人を無条件で尊敬しなくてはならないのか。それは万人が宇宙の創造主に生かされている宇宙の子であるからです。これは絶対に否定できません。

でも世の中にはずいぶん人に迷惑をかける悪人がいるではないか、そんな人間をなぜ尊敬しなくてはならないのか、と言われるかもしれません。

しかしこの大宇宙に真の意味の悪人は存在しないのです。ゾロアスターが言っているように、悪人に見える人は熟さない善人にすぎません。本当はみな善人なのです。大宇宙にあるのは絶対的な「善」だけです。ニーチェが言っているような「宇宙は盲目的な意思に支配されている」のではないのです。アダムスキーが言うように、万物を完成させようとする「意識」によって支配されているのです。この「宇宙の意識」すなわち創造主の存在を常に自覚することが大切だと、アダムスキーを指導した異星人たちが言っているのです。これに関する詳細は新アダムスキー全集を読まれば十分に理解できます。

(以下、講演と質疑応答が延々と続きます。紙面の都合により省略。本年九月一四日の東京総会でもさらに有益な講演を行なう予定。詳細については四七頁の予告を参照されたい)

大盛況 福山支部大会!

新緑の季節の五月二十五日(日)、場所は広島県福山市の「サンピア福山」で第一回の福山支部大会が開催されました。当日は場所と天気にも恵まれて総勢七〇名の盛大な大会となりました。予告どおり日本GAP会長久保田八郎先生にご来福をお願いし、「宇宙哲学で良き運命を作る方法とアダムスキー問題その他」と題して、来世紀に向けての重要な指針をお話し頂きました。

先生のご講演が始まるとGAPならではの良きフィリングが会場に満ちて、出席者全員の真剣な眼が先生に集中し、絶対に何かを学んで帰るんだという熱気で満ちあふれていました。

ご講演では特に、良き運命を作るために、①絶えず宇宙の創造パワーを自覚し、自分はその化身であることを忘れない。②万人を尊敬する。③いつも楽しいフィリングを起こしている、の三原則について力説され、これらを実践してゆくことで良き運命が作られ未来への勇気がわきおこるということが、出席者の皆様に印象づけられたものと確信しております。ご講演の最後に大宇宙思念法を直接ご指導頂きましたが、これは地方会員にとつて貴重な体験になりました。先生のフィリングを感じながら行なう実習でさらに理解が増したものと思います。

今回の支部大会で我々が宇宙的進歩をするための多くの指導をして下さいました久保田先生に衷心より御礼を申

上げます。また全国より多数の電報を頂戴して、皆様のご声援に心から感謝申し上げます。また本部役員の方々をはじめ、大阪支部の平塚代表、高松支部の関代表、黎明会の方々、その他の方々に厚く御礼を申し上げます。

福山支部代表 桑田雅則

第一回の福山支部大会にご招待を頂いて衷心より感謝致すと共に大成功裡の終了に満腔の祝意を表したい。初めて訪れる福山は人口三六万、堂々たる大都市なのに一驚を喫した。支部の皆さんから心暖まる接待にあずかって御礼の申しようもない。

大会は実に真剣な雰囲気満ちて講演にも力が充満した。二時間近く演壇に立っていたが不思議にも足が全く疲れなかつた。講演中に拡声器のアンプに奇妙な音が入り始めたので係員が来て点検したけれども直らず、いささか耳ざわりだったが、あとで聞くと桑田君が上空におかたつて思念をつづけたら急速に消えたという。上空からの信号だったのだろうか。そういえば加藤純一君は当日一度にわたつて UFO を見たという。広島市から来た横尾知代さんは新幹線の窓から黒い大きな UFO を目撃したと聞いた。ここには善意、誠実、謙虚さ、明るさ等の美しい波動が溢れて、人間に内在する宇宙の意識を心底から実感した次第であった。

日本GAP会長 久保田八郎

▼前列左より田村恒雄(北九州市のGAP活動家)、関高明(高松支部代表)、斉藤康美(大阪支部副代表)、平塚和義(大阪支部代表)、加藤純一(東京本部役員幹事)、久保田八郎(日本GAP会長)、桑田雅則(福山支部代表)、片岡豊(同副代表)、高橋美貴子(福山支部役員)、桑原公子(同)、広中正子(同)の諸氏。

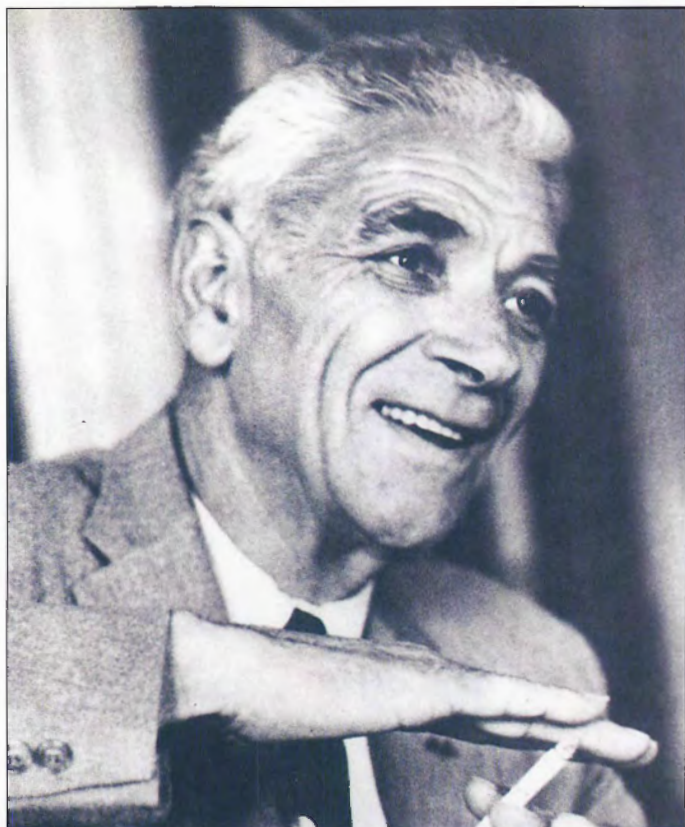


Space People Live by Universal Laws
by George Adamski/Translated by Hachiro Kubota

宇宙の法則のもとに生きるスペースブライザーズ (1)

ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳 〈アダムスキー講演集連載18〉

今回よりアダムスキーの講演集はボストンの集会における質疑応答から始まる。宇宙の法則で生きるスペースブライプルの超絶した惑星の描写と、惰眠から覚めぬ地球人に鳴らし続けるアダムスキーの警鐘は、三十数年後の今も読者に覚醒の音となって響くだろう。



▲ジョージ・アダムスキー ©日本GAP

スペースブライプルと地球人の相違

我々の兄や姉であるスペースブライプル（別な惑星の高度に進化した人々）は、「宇宙の法則」すなわち「創造主と母なる自然の法則」を研究し、自分たちのことを知り、自分たちがどう生きるべきかを学んでいます。でも、我々地球人は、彼らのそんな生き方を受け入れていません。我々はこれまで、彼らに対する憧れのようなものは抱いてきたかもしれませんが、彼らの哲学を受け入れようとは全くしませんでした。

そしてその結果、今や我々は、自分たちのテクノロジーによって自己破壊を引き起こす瀬戸際に立っています。レムリア（訳注：ムー大陸の最後に残った部分の呼び名）とアトランティスの人々も、同じようにして彼ら自身を吹き飛ばし、滅び去りました。

また古代エジプトやローマ帝国などは別の道をたどって、つまり愚かにも

複数の神を崇拝して人々の分離を促進してしまつたために、やはり崩壊を余儀なくされています。

今の我々も同じような状態にあります。しかも今の我々は、今話した二つの問題の双方を抱えてさえているのです。我々は今、宗教的偏見を持っていますと同時に我々はまた、我々自身を破壊し滅亡させるに足るテクノロジーも持っているのです。そうでしょうか？

ですから、我々は今、過去に滅亡した文明よりも悪い状態にあるとさえ言えるのです。

自分自身のことを知らず、そのために自己管理能力を充分に発達させていないことがその最大の原因です。我々は、すぐカットとします。そしてその弾みで例の「ボタン」をつい押ししてしまふ危険が常に存在しています。もつとも、我々は今、宇宙に出て行きたがっていますので、その望みを叶えるという意味では、それも悪い方法ではないかもしれません。それによって、我々は一気に宇宙に吹き飛ばされることに

なるわけですからね(笑い)。

人体内の別の部分

さて、ここで重要なことは、「みなさん自身の別の部分」です！我々は、「自分自身の別の部分」を理解する必要があります。そうですね、こう話せばわかりやすいでしょう。

我々は今、食事をし終えたばかりです。人間はこの問題に関する勉強を、いつでも、どこでもすることができません。ですから人間は、そのための時間がない、機会がない、といった言い訳をすることは絶対にできません。

さて、我々は先ほど食事をしましたが、我々の体の中では今どんなことが起こっているのでしょうか？考えてみましょう。我々は体の中に食物を取り入れました。我々は、おそらく、習慣的にそうしました。でも我々は、おそらく、今我々の体の中に入っている食物の栄養素を今後の活動のために必要としています。

ちなみに、みなさんの中で、胃の中に入った食物がその後でどのようになるのかを本当に知っている人が、どれほどいるでしょう？みなさんの心はそこで何が起こっているかを知っているでしょう？その食物は、そこでいったい、どのような働きをするのでしょうか？

みなさんは、もし自分自身のことを

良く知っていたならば、そのことも良く知っているはずですよ。そのときみなさんは、そこでどんなことが起こるのかを正確に知っているはずですよ。みなさんの心は化学者ではありません。でも食物を受け入れたみなさんの胃の中では化学反応が発生します。そしてみなさんの心が幸せな状態にあるとき、みなさんがその反応から手にする結果はとても良いものです。

でも、何かを食べるときに、みなさんが大きな怒りや強い緊張感を起こしていたならば、そのときにはおそらく、ものの二十分もしないうちに、(胃が痛みだして)重曹その他の胃薬を探し始めることになるでしょう。それは、みなさんが食べたものの面倒を見る知性と心の間の調和が損なわれているために起こることです。心はその知性と協調して活動しなくてはならないのです。

あなたの心が歪んでいるとき、内部の知性は抗議行動に出ます。それは食物から栄養素を抽出する役割の化学者たちを扇動します。するとそれらの化学者は、おなかの中で食物を発酵させ、大量のガスを発生させます。みなさんがキャベツを桶の中に起きっぱなしにしたり、ウィスキーを作ったりするときに発生するのと同じ現象が起こるわけですよ。そのときみなさんは、主として食物の栄養素ではなく、それが発酵してできた大量のガスを受け取ることに

になります。

それらの化学者はまた、心が気づく気がないにかかわらず、お腹の中に入ってきた食べ物から栄養素を抽出した上に、それを体内の各組織に分配することもしています。そしてもちろん、食べ物混ぜ合わされれば多少のガスは常に発生します。では、それはどうなるのでしょうか？その面倒もまた同じ化学者たちが見てくれます。彼らは不要なガスを体外に排出する作業にも従事しているのです。そのようにして、ふだんはすべてがうまくいっているわけです。

立腹したらどうなるか

でも、もしみなさんがひどく腹を立てた状態で食べたとしたら、その連中はストライキを起こします。彼らは、みなさんのゆがんだ心とは協調しません。食物が発酵し始めます。彼らは、栄養素を抽出しがりません。ガスが発生しつづけます。それを取り除こうとする者も一人もいません。そしてその結果、みなさんは、いわゆる消化不良を体験することになります。そのガスは、誰も取り除こうとしないために、みなさんの心臓のまわりにまで達したりします。

さらには、体内の化学者たちが必要な栄養素を抽出した後で食物の残りカスを処分する役割の清掃人たちもまた

一緒にストライキを起こします。すると、どうなるでしょう？残りカスが固まって動かなくなり、つまり便秘になるわけです。大変なことですよ！(笑い)

こうしたすべての事が、みなさんが食べたものの面倒を見る「英知」が、みなさんのゆがんだ心との協調を拒否するために起こることです。その「英知」は、みなさんの心が穏やかなパランスの取れたものであるときには、みなさんの消化をととても良く面倒見てくれます。そのときみなさんは、何を食べても、たとえ腐った肉を食べたとしても、またカーベットの鉾を食べたとさきでさえ、まったく平気でいられるでしょう。でも、その逆の場合には、みなさんを傷つけることなど絶対にありえないペイビーフードを食べても、胃腸薬が必要になつたりすることになります。

この事実は、我々が一般に言う知性とは異なった英知が存在することの明確な証明です。その英知は食物を消化するための方法を熟知しているのです。どうでしょうか？みなさんは、みなさん自身のその部分のこと(英知)を、まったく知らないのです！

人体を作る宇宙の英知

また、ここにはたたくさんのお婦人がおられますが、あなたがたもおそらく

問もなく妊娠して母親になることでしよう。でも妊娠後にみなさんの体の中でどんなことが起こるのかを正確に知っている医師あるいは科学者をみなさんはどのくらい知っていますか？

いったい何が起るのでしょうか？
みなさんのお腹の中で赤ちゃんはどのようにして成長するのでしょうか？
いったい何がどうなつて人間の肉体ができあがるのでしょうか？
それを知っている人間はこの地球上には一人もいません。でもみなさんは、みなさんの体の中で新しい肉体が作られることは知っています。そしてみなさんはその作り方を知っている知性が存在することを認めざるをえません。母親の中にも父親の中にもその知性は存在しています。それは新しい肉体を彼らに似せて作り出す知性です。そしてその知性こそが「宇宙の英知」そのものなのです。

異星人の生き方

問 あなたの知識のほとんどはブラザーズ（異星人）から与えられたものなのではないか？

ア この種の知識の多くを私は以前から知っていました。でも彼らと会ったことで今私はそれをもっと明瞭に理解することができます。それとともに、私は今、この種の知識に従って生きている社会が実際に（別な惑星に）存在していることを知っています。そ

れは、我々にとっては、とてもうらやましい社会です。我々は今、自分たちを破壊しかねない状況にあるのですからね。もし我々が、スペースビープルが作り上げているような社会を作れたならば、どんなに素晴らしいことでしょうか。彼らは宇宙の法則に従って毎日を生きているのです。彼らは一週間に一日だけ教会に行つて宇宙的な気分を味わつたりするのはなく、宇宙哲学を実践することを毎日の人生の一部にしているのです。ですから彼らの社会はまさに天国のようであるのです。それは我々の誰もが住みたいと願う社会です。

我々は彼らの哲学を受け入れて、それに従つて生きることができるようにならないかぎり、彼らの社会と同じような社会を実現させることはできません。そもそも彼らの哲学は彼らだけに与えられているものなどではないのです。彼らはそれを受け入れて実践してきました。でも我々（地球人）はそれを受け入れてきませんでした。違うのはそれだけです。

政府は異星人の来訪を恐れていない

問 我々の政府が異星人の存在を認めようとしなないのは、そこに原因があるのではないですか？

ア いや、これと政府とはなんの関係もありません。

問 でも、もし政府が異星人問題の真相を認めたらば――。

ア いや、それもやはり間違いです。私は政府がほんの小さな書類に莫大なお金を投じていることを示す資料を家に持っています。その小さな書類は古代に書かれたもので、宇宙からの訪問者たちの現在のプログラムに関するものです。

問 つまり、政府はその知識が一般化するのを恐れているわけですね？

ア 違います。彼らは恐れてなどいません。恐れているのは大衆です。恐れているのはみなさんの教会です。みなさんの宗教です。たとえば現在の宗教は極めて教条主義的、独断的になつてしまつています。それで人々は、「私はイエス・キリストが生きたのと同じように生きるつもりだ」と言うことを恐れています。なぜなのでしょう？

自分が属している教会に非難されることを恐れているからです。教会から「彼は狂信主義者になりつつある」あるいは「彼は自分をイエスよりも高いところに持ち上げようとしている。イエス以上の人間になろうとしている」などと言われることを恐れているのです。かつてイエスが、「あなた方は、私が行なつたことよりも偉大なことを行なうだろう」と語つているというのです。この種の例は他にもたくさんあります。

ですから恐れているのは政府ではなく、

いのです。みなさんが政府と言うとき、それが政府を作り上げているあらゆる国民を意味するのだとしたら、そのときは、恐れているのは政府だということも言えますがね。

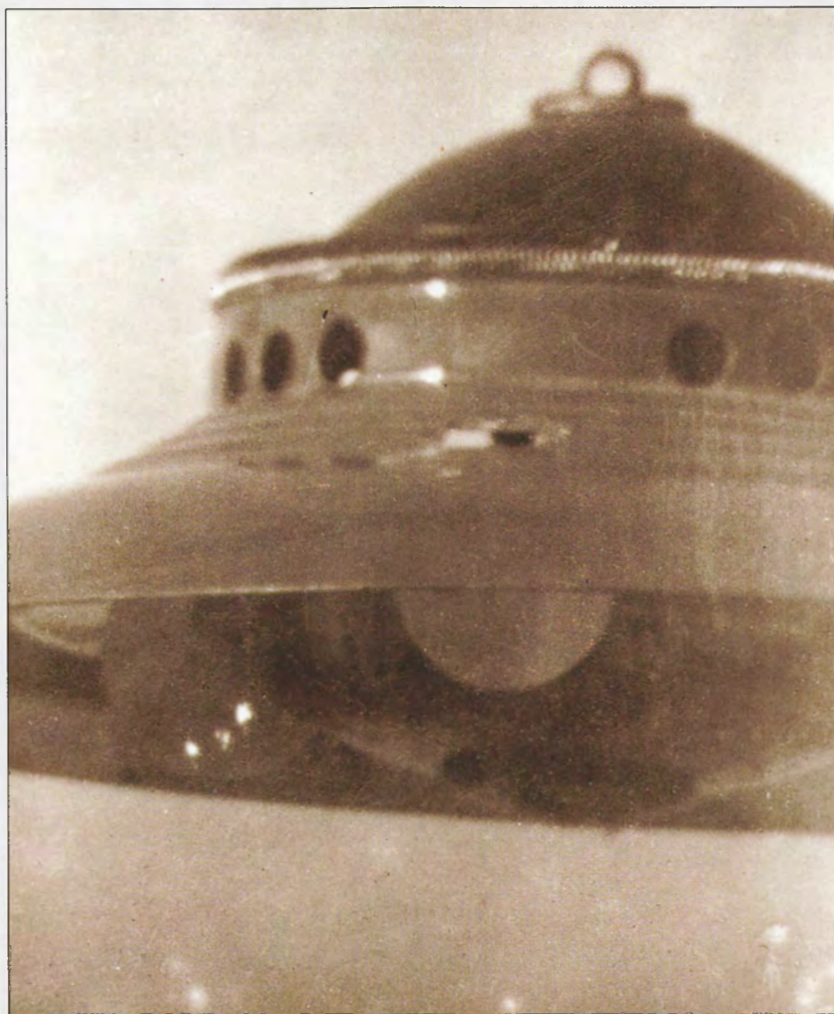
政府はなぜ真相を隠すのか

問 政府はなぜ大衆に（異星人に関する）真相を隠しているのですか？

ア あなたは政府に、多くのスペースビープルが地球の路上を歩き回っているなどというのを認めさせたいのですか？
本当にそんなことをさせたいのですか？
そんなことをすれば人々はパニックに陥つてしまつてしまう。それだけではありません。一部の過激な人々はスペースビープルを探し回り、見つけたいだけ殺してしまふことさえするかもしれません。それは以前に、実際に起こつたことです。我々の友人であるブラザーズがそんな目にあつてもいいのでしょうか？
そんなことをあなたは望んでいるのでしょうか？
もちろん望んではいけないはずですか？
他にも我々が知らないものも含めて、この件に関しては多くの問題があります。

地球での生き方が最重要

別のポイントに戻りましょう。我々は、現実的な、しっかりとした基盤に



●金星の空飛ぶ円盤(小型観測機)

©日本GAP

1952年12月13日午前9時10分頃、米カリフォルニア州パロマー山腹の台地で、ジョージ・アダムスキーが6インチ反射望遠鏡に手札判カメラを取りつけて撮影した。直径約10メートル。このときの詳細は新アダムスキー全集第1巻「第2惑星からの地球訪問者」(中央アート出版社刊)に述べてある。

立たねばなりません。宗教的、超物理的（形而上的）、あるいはその他のあらゆる基盤ではなく、この地球上の科学的に極めて実的な土台の上にあります。みなさんは今この地球に住んでいます。ここでみなさんは食べたり飲んだり眠ったりしてはなりません。みなさんは、みなさんが今関わるべき場所、つまり、この地球での生き方を目を向けなくてはならないのです。やがてときがくれば、別の場所です。そこにあるものを利用する準備が整うことでしょう。でも、今はまだ、みなさんは地球で生き、地球で学ばねばならないのです。みなさんは、地球で学んだことを、もしそれが宇宙的なものであるならば、次の場所を持つていくことができます。でも、もしそれが宇宙的なものでなかったとしたら、ここに残して行かねばなりません。

ポイントはどうです。もし我々が、これまでに異星人が築いているような社会、彼らが教えてくれたような社会を得たいと願ひ、我々自身について充分に調べて学んできていたとしたら、我々もそれを得ることができていたはずで、みなさんは自分の肉体がやがてその故郷である土に帰ることを知っています。肉体は肉と骨に姿を変えた土にほかなりません。それは、いづれ衰えて土に戻ります。ですから肉体はあなたではないのです。みなさんが霊と呼んでいるものでもないのです！

真実の霊とは何か

ところで「霊」とはいったい何なのでしょう？ それはどこにいますのしょうか？ 向こうの方でしょうか？ それともこつちの方でしょうか？ 違います。それは常に肉体というフォーム（形あるもの）を通じて活動しているのです。

こう説明したらいいかもしれません。ここにあるテレビはそれ自体はまったく無知な物体です。これは知性を持ちません。そうですね？ そして、今我々がいるこの部屋の中には、我々の目に見えない（放映されている）多くの人々がいます。ただし彼らは決して死んでいません！

このことは、心靈主義の全分野と、みなさんが先ほど触れた他のあらゆることの意味を含んでいます。彼らは死んではいないのです！ 彼らはニューヨークあるいは他のどこかの放送局から放出された特定の振動数を持つ波動の状態で存在しています。そのようにして（放映されている）彼らのすべてが、ここに我々と一緒に存在しているのです。みなさんの好きな女優、男優、あるいは音楽家といった人々がです。みなさんが行なうべきことは、テレビのスイッチを入れて局を選択することだけです。その瞬間に、彼らの姿がここに現われることとなります。その瞬

間に彼らはこの画面上で、みなさんのために演技を始めます。彼らは生きている人々です。

では、彼らはこのテレビの中にどうやって入ってくるのでしょうか？ このテレビ受像機は、彼らとともに活動を開始したときから知性を持つことになりました。みなさんはこのことから、ある事を学ぶことができます。スイッチが入り、パワーが入ってくるのと同時に、テレビは何を行ない始めるのでしょうか？ それは、「呼吸」をし始めます。放送局から放出され、多くの人々を乗せてあらゆる空間を旅している電波を吸い込み、吐き出すという作業を開始するわけです。そしてテレビセットの内部には、その高周波を、みなさんの視覚でとらえられるレベルの、ずっと低い周波数の波動に変えるためのある装置が存在しています。

わかりますね？ ここに、我々のいるこの部屋の中に、彼らは（出演者たちは）今、いるんです。でも彼らが乗っているその高周波に、みなさんの波長が合っていないというだけなのです。もしみなさんの波長がそれに合っていないとしたら、テレビなどなくても、みなさんは彼らの姿がはつきりと見えるはずで、スペースビートルは、すでに画像がスクリーンから飛び出してくる装置を開発さえしています。それを用いると、遠く離れたところにいるガンサーに、みなさんの目の前の床の上

で、ダンスを披露させることができます。さて、ここまでの話を聞いて、どう思いますか？ 彼らは幽霊なのでしょうか？ とんでもありません！ 彼らは生きています。そして、ニューヨークのステージ上で踊っています。同時に、みなさんの部屋の中でも踊っています。我々はこの法則を学ばねばなりません。我々は今、これを学ぶべき段階にきているのです。

さて、テレビというものは、スイッチが入っているときに、電波を吸い、吐き出しています。それが電波を吸うと画面に絵が現われます。そしてその絵は消えねばなりません。それは動きつづけねばなりません。そこで、テレビはその絵を吐き出して、新しい絵を吸い込みます。そしてその行程がくり返されることで、みなさんはショー全体を見ることができるようになります。わかりますか？

でも、画面に現われた最初の絵が吐き出されずにとどまりつづけたとしたら、テレビはショットを起こしてしまふことになります。装置の一部が焼けこげてしまふかもしれません。そのときみなさんは修理を頼まなくてはならなくなります。もしそれが電波を吸い込まなかったならば、それはみなさんに何も見せてはくれません。でも、吸い込むばかりで吐き出すことをしなかつたならば、それはあつという間に故障してしまうことになるわけです。

人間もテレビ受像機と同じ

次に、このテレビをみなさん自身に置き換えてみましょう。みなさんは人間です。息を吸い、吐いています。みなさんが息を吸っている限り、それを吸うたびに想念が進入してきます。みなさんは、そのようにして生きています。そしてみなさんは、想念を選択します。あるいは想念が乗っている波長を選択すると言ったらいいかもしれません。テレビ局の波長を選択するのと同じようにしてです。みなさんは音楽を聴きたければ音楽をやっている局を選択します。クイズ番組を見たければそれをやっている局を選択するでしょう。みなさんの心も同じようにして想念の波長を選択しているのです。みなさんが合せている波長と同じ波長を持つ思考を、みなさんは受け取ることになるのです。

人間の肉体は肉体を通過するだけ

ということは、肝心なものほどにるのでしようか？ それはどこに存在しているのでしょうか？ またしても、ここ、この空間の中にあるのです。そしてそれは死んではいません。それは生きています。テレビに映し出される俳優たちのようにです。その意味でみなさんは、テレビの受像機と何ら変わるものではありません。呼吸をつづけているかぎり、息を吸い、吐きつづけているかぎり、みなさんは生きており、活動的であり、アイデアあるいは想念が、みなさんを通してつづけているのです。テレビ画面上に形あるものとして表現される想念のようになっています。

ということ、真実のみなさんは、肉体の中で生きたことは、これまで一度もないということになります。みなさんは、単に肉体を通過しつづけているにすぎないのです。もしその動きが停止したとしたら、みなさんの肉体は、同じ状況におちいったテレビと同様にショートして焼けこげてしまうことになり得ます。最初の想念が、最初の絵が、そこで止まってしまい、次の絵のための場所を空けようとしなかったとしたら、それは急速にショートを起こします。あなたを通じて流れるそのパワーは、これまで人類が測定したいかなるパワーよりも強力です。もしそれが

肉体の中で止まってしまったとしたら、その面倒はもはや誰も見る事ができません。それは、常に動きつづければならないのです。

意識の真の意味

では、そのパワーとは、いったい何なのでしょう？ それが「意識」なのです！ 人間は心と心が得るアイデアを崇めつづけてきました。でも、自分の「意識的自己」には目もくれようとしませんでした。エーテル波は意識的です。それは、生きているものを運んでいます。「生命の息」は意識的です。それは生きているものを運んでいます。それがストップすると、みなさんは急速に、世に言う死人になります。つづいてみなさんは、ただの形骸として埋葬されます。そのようにして、形骸としてのみなさんの故郷、つまり土へと戻ることになるわけです。これは極めて自然の成り行きです。ただし、「意識」は決して死にません。人々はそれを霊と呼んだり魂と呼んだりしています。それはみなさんの見えない部分です。

テレパシーとは何か

たとえば私は今自分が考えていることを話しているわけですが、それらの想念は、最初は「印象」として私にや

つてきます。つづいて私はそれらに音を与えます。そのようにしてそれらを表現するわけです。その結果、みなさんは私の考えを知ることができるわけです。私がそうしなければ、みなさんはそれを知ることができません。なぜならば、みなさんが聞くことのできるのは音のみだからです。みなさんが音に波長を合わせているからです。ですから私は自分の想念に音を与えねばならないのです。

でも、もしみなさんが、より高い振動数を持つ「印象」に波長を合わせていたとしたら、私は自分の想念を音なしで、そしておそらく音を用いたときよりもずっと明瞭にみなさんに伝えることができるはずなのです。そのときみなさんは私が考えていることを静かに受け取ります。印象、あるいはフィリングとしてです。みなさんはそれを、直感、ひらめき、あるいはその他、どんな名前でも呼んでもかまいません。ただし最近は一一般にそれを「テレパシー」と呼ぶことが多くなってきました。そして自然界の万物がそれを活用しています。ですから、みなさんが、それを応用したならば自然界のいかなる物とも、花や鳥その他のいかなるものとも、会話することができるようになります。みなさんは、木の年齢を知るために、それを切つて年輪を調べたりする必要は、本当はないんです。みなさんを通じて流れているのと同じ英知が、木を

通じて、その植物の生命を通じて、異なったレベルではありますが活動しているのです。

みなさんはそのように作られているのです。ですからみなさんの英知あるいは、みなさんを通じて英知が表現できるものには限界というものがありません。

みなさんはちょうど、ヴァイオリンのようなものです。あるヴァイオリンは、ひどい音しか出せないかもしれませんが、みなさんはどんなに質の高い感覚を持っていても、そのできの悪いヴァイオリンでは、自分のその感覚を表現できません。でも、もしみなさんがそのヴァイオリンを改良するための努力を粘り強くつづけたならば、それはやがて言葉では表現できないほどの深い感覚を表現できるようになるでしょう。そしてその表現された感覚が、おそらく他の多くの人々を感動させることになるでしょう。

みなさんは、いわば楽器のようなものなのです。そしてみなさんは今、自分の楽器である肉体を進歩させようと努めています。それをハイレベルの印象の数々が通過できる状態に、つまり、それらの印象がみなさんを通じて、それら自身を表現することができる状態に高めようとしているのです。

その質の高い印象、すなわちフィードバックをどれだけ受け取り、表現できるかで、みなさんの進歩レベルが決ま

ります。ただしそのフィードバックは、やはりみなさんの「自分自身」であり、あの「意識」にほかなりません。

フィードバックとは、何かに気づいている心の状態です。みなさんは、ハイレベルのフィードバック、つまり「意識」を通じてもたらされるフィードバックが得られるようになることで、以前には気づけなかった何かに気づくことになります。それは常に静かにやっています。それは、いかなる音も伴っていません。音楽も鳴らなければ、ラッパの音も聞こえません。生命の本質は常に静かなのです！ しかしそれは、心の中に、みなさんがこれまでに聞いたどんな雷鳴をもはるかにしのぐ振動を引き起こします。しかもそれは決して停止しません。決して動きを止めません。生命は決して死ぬことがないのです。それは死ぬことはできません。もし死んだりしたら、生きることができないからです。スペーススピーブルは、これらのことをしっかりと学んでいます。

我々が霊、あるいは魂と呼ぶものは、神そのものです。あるいは、みなさんを通じて、私を通じて、そして他のあらゆる人間を通じてそれ自身を表現している、「創造主自身の生命の一部」です。そして、それぞれが、ほんの少しづつ異なっています。そうでなくてはならないからです。我々は、全員がまったく同じではいけないのです。そ

してその上で全員が一つの同じ目的の達成に貢献する責任を負っています。この点に関しては、いかなる例外もありません。

万物はすべて重要な存在

それと、この世界においてはミニズでさえも、みなさんと同様に重要な存在です。いや、我々以上に重要な存在だとさえ言えるかもしれません。ミニズは、地面に穴を開けたり土を掘り返したりすることで植物の生育を助けています。彼らがいなければ人間は生きられないかもしれないのです。

この世に存在するすべてのものに役割があり、すべてのものが重要なのです。すべてのものの内部に神の知性が宿り、すべてのものが、一つの理由あるいは目的に従って創造されました。そして、それらのそれぞれが、その目的の達成に、毎日、少しずつ寄与しているのです。ですから、すべてのものが重要なのです。

ミニズは、新しいミニズをどうやって創造したらいいのかをまったく知りません。でもミニズの内部には子孫を作るために必要な知性が十分に備わっています。ミニズは自分自身について我々よりも良く知っているとさえいえるでしょう。そのために彼らは、我々よりもはるかに能率的に全体の目的に奉仕しています。

一方、地球人類のエゴはあまりにも尊大になってしまいい、そのために、それ自身以外のいかなるもの話にも耳を傾けなくなってしまう。そしてその結果、今のような混沌とした世界を作り上げてしまったのです。ミニズたちの方が我々よりもずっと能率的です。自然界に存在する他のあらゆるものが、我々よりもはるかに能率的に活動しているのです。

我々に与えられてきた自由意思が、我々の心を他のあらゆるものの上に配置してきました。そしてそれが我々を今、自らを滅ぼしかねない状況に追いやっていっているのです。我々は今、我々の「真の自己」について何も知らないのです！

スペーススピーブルは、どんな人間を見ても、あるいは何を見るときにも、その形あるものを根本で支えるとともに、それを通じて自らを表現している、我々が神と呼ぶ生命、あるいは英知を見えています。それなくして、形あるものは、自分自身を表現することも生きることができません。スペーススピーブルは常にそれを見、それに大きな敬意を払っているのです。(以下次号)

日本GAP第17回海外研修旅行

イスラエル聖地遺跡の旅



企画/日本GAP 旅行手配/株式会社ツリスト

▲エルサレム全景 撮影/久保田八郎

★期間=1997年11月22日(土)→29日(土)(8日間) 費用=¥378,000

日本GAPは1979年夏に第1回海外研修旅行として「アメリカ・中米の旅」を実施して以来、94年まで16回の海外研修旅行を主催し、主として世界各地の古代の謎の遺跡や大都市を視察して多大の成果をあげてまいりましたが、不況のためにこの2年間は休止しておりました。しかし多数の会員の要望により、今年も第17回目の団体旅行の再開に踏み切りました。今回はイスラエルのイエス関係の遺跡を主体に旧新約聖書の世界の探訪を立案しました。ご存じのようにイエスは宇宙的な意味においてアダムスキーと密接な関連があります。私達は宗教とは全く無関係な立場で2千年前の偉人の足跡を訪ねて宇宙的な波動を感じ、遙かなる惑星に思い馳せて心身の浄化を図ろうとする意図のもとに企画しました。日本GAPの海外研修旅行でイスラエル訪問はこれが最後ですから、この絶好の機会をお見逃しなく多数ご参加下されば幸いです。

この旅行には株式会社ツリストの大ベテラン小林俊雄社長が添乗員として同行され、親身のお世話をされますし、日本GAP久保田八郎会長が旅行団長として道中で説明指導をしますのに加えて現地では優秀な日本人ガイドさんが丁寧な案内を致します。したがって最高に素晴らしく楽しい旅行が展開しますのでご期待下さい。日本GAP会員、会員の家族や知人、本誌の読者ならばどなたでも参加可能です。歓喜に満ちた旅をお楽しみ下さい。(来年度のGAP旅行の目的地は未定です)

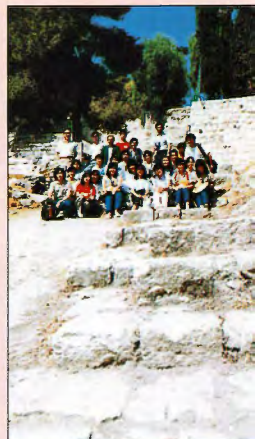
★日程

- 11月22日(土) 11:05に成田空港より英国航空機で出発。ロンドン経由で(市内には出ない)夜間イスラエルのテルアビブ郊外のベンガリオン空港着。専用バスでエルサレム着。同夜宿泊(ホテルは一流)。
- 23日(日) 終日エルサレム市内見学。オリブ山から全市を展望。ふもとのゲッセマネ庭園見学。嘆きの壁。イエスが十字架をかついで歩いたピアドロローサ(嘆きの道)、磔刑地の聖墳墓教会と内部の十字架の跡、鶏鳴教会とその横に残るイエスが歩いた石段、その他を視察。エルサレム泊。
- 24日(月) エルサレム市内の他の遺跡やイスラエル博物館を見学後、専用バスでベツレヘムのイエス誕生地を見学。エルサレム泊。
- 25日(火) 死海方面へ出発。沿岸南側の標高400mの要塞マサダへケーブルカーで登り、2千年前の遺跡を見学。ここは西暦70年に約1000名のユダヤ人がローマ軍と2年間死闘の末、最後は全員自決した名高い場所。そのあと有名な死海写本が発見されたクムラン洞窟とクムラン教団の遺跡を視察。死海で海水浴。ここは高濃度な塩分のためどんなカナヅチでも絶対に沈まない面白い湖。夜は付近のエンボケクで宿泊。
- 26日(水) 1万年以上昔の世界最古の都市エリコへ。超古代の都市跡があり、イエスもここで奇跡を行なった。ここから北上してガリラヤ湖へ行き、イエスゆかりのカペナウム、タベハの町を見る。湖畔の山上の垂訓教会を訪問。続いてガリラヤ湖畔のティベリアアへ。ここでピーターズ・フィッシュというガリラヤ湖でとれる名高い魚の料理を賞味。ティベリア泊。
- 27日(木) ティベリアアからイエスが少年時代をすごしたナザレの町へ。聖母マリアの受胎告知の場所を見学。続いてハルマゲドンという地名で名高いメギドの遺跡見学。さらにローマ時代やビザンチン時代の遺跡カイザリアを視察。地中海沿岸を南下してテルアビブ着。宿泊。
- 28日(金) 朝8時にベンガリオン空港へ。英国航空機でロンドン経由で帰国の途に。
- 29日(土) 午前11:20成田空港着。お疲れさまでした。

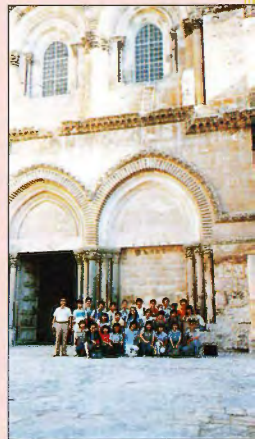
案内書 詳細案内書を差し上げます。下記へハガキでお申込み下さい。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 日本GAP

説明会 第1回旅行説明会を8月24日(日)に都内新宿区で開催。会場等の詳細は案内書に記載。第2回目の説明会は10月26日に同会場で開催。



▲イエスが最後の晩餐を終えてゲッセマネの庭園へ祈りに行くときに歩いた石段。オリジナルの遺跡と書かれている。この写真は1984年8月に実施した第6回海外研修旅行の第2次エルサレム訪問時のもの。 撮影/久保田八郎 (下の写真も)



▲イエス磔刑の地、ゴルゴタの丘に建てられた聖墳墓教会の入口。これも第2次エルサレム訪問時撮影。

HOLY LAND TOUR OF ISRAEL —GAP-JAPAN—

UFO contacteeバックナンバー主要記事

★従来102、103、104号は品切れでしたが、某所より新品在庫品が各10部ずつ出てきましたので、101号より最近号までそろっています。バックナンバーのみ1冊¥700。送料不要。代金後払い可。ハガキに号数、住所、氏名、電話番号を明記して日本GAP宛ご注文下さい。101号から129号までの主要記事目録入用の方はハガキでお申込み下さい。

No.137	1997年(平成9年)4月25日発行	¥700
UFO頻出のデザートセンタ	久保田八郎	
私は至近距離でアダムスキー型円盤を見た	中里信彦	
空中に不思議なサインが出現	加藤純一	
宇宙の真実を語るアダムスキー	肥後哲也	
ケネディー大統領はドイツに転生?!	久保田八郎	
大宇宙の無限の力による長寿健康法	塩谷信男	
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(完)	G・アダムスキー	

No.136	1997年(平成9年)1月25日発行	¥700
愛と救いの異星人交信<2>	久保田八郎	
大宇宙の無限の力による長寿健康法	塩谷信男	
反復思念とイメージ法で奇跡を起こす!	会田晋一郎	
誤った宇宙論とアダムスキーの正当性	小山洋一	
江戸川区のUFO	大根田匡史・岡田茂	
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(完)	G・アダムスキー	

No.135	1996年(平成8年)10月25日発行	¥700
愛と救いの異星人交信<1>	久保田八郎	
イエス出生の謎を探る	遠藤昭則	
アダムスキー哲学を実践して奇跡的に病気が全快	西坂安信	
オレンジ色の光体を目撃	堀下一郎	
東京上空の細長い物体	藤原敏子	
素晴らしい宇宙哲学講義	佐藤 彰	
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(3)	G・アダムスキー	

No.134	1996年(平成8年)7月25日発行	¥700
米政府が隠すUFO問題の驚異的真相	久保田八郎	
真実であったアダムスキーの体験	G・クレイトン	
秋田で巨大円盤を目撃!	加藤純一	
東京タワー上空の巨大母船	遠藤昭則	
ロスウェル事件の真相はこれだ		
コンピューターによるUFO写真鑑定への疑問	遠藤昭則	
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法	G・アダムスキー	

No.133	1996年(平成8年)4月25日発行	¥700
月は異星人の基地だった	久保田八郎	
私の宇宙哲学実践とUFO目撃	加藤純一	
懐疑論者から支持者に転向	J・ローリーノ	
アダムスキー哲学と波動感知法	林 国宜	
創造のための宇宙哲学	佐藤 彰	
宇宙の夢とUFO目撃	吉川美香	
カルナの意味	林寺正俊	
東京大地震は近未来に発生しない	秋山真人	
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法	G・アダムスキー	

No.132	1996年(平成8年)1月25日発行	¥700
別な惑星の文明と創造性	秋山真人	
イエスの時代を透視する	遠藤昭則	
奇跡を起こすイメージ療法	原 永倉	
宇宙船の形態に関する一考察	遠藤昭則	
アダムスキーの思い出と彼の宇宙哲学	アリス・ポマロイ	
好評、名古屋市の講演		
東京造形大学で講演		

No.131	1995年(平成7年)10月25日発行	¥700
アダムスキー問題と日本GAP	久保田八郎	
ワシントン、ニューヨーク両市でUFOがひんぱんに出現!	加藤純一	
私もワシントン市でUFOを見た!	清水 正	
カイパーベルトはアダムスキーの主張を立証するか	植木淳一	
アダムスキー大会を思う	岡田茂/西川太/大根田匡史/加藤路徳	
熱烈な呼びかけに応えたUFO	石井一江	
私のUFO目撃と宇宙的な生き方	悉田裕昭	
宇宙時代の夜明け	村上博一	
人間の实体・意識・テレパシー原理	G・アダムスキー	

No.130	1995年(平成7年)7月25日発行	¥700
M氏の「UFOと異星人」体験	久保田八郎	
アダムスキー型UFOの飛行原理を解明	遠藤昭則	
超能力者ティナの驚異的パワ	久保田八郎	
異星人女性との出会い	佐々木八郎	
スペースビートルを見かける私	原埴内良子	
透視・臨死体験・不思議な女性	千葉福造	
白山のUFO	沼倉孝彦	
父と従兄が「UFO」目撃	高橋克彦	
人間の实体・意識・テレパシー原理	G・アダムスキー	

No.129	1995年(平成7年)4月25日発行	¥700
地獄の大地震からの奇跡の脱出	平塚和義	
大地震を前夜予感した私	西村悠子	
偉大な教訓となった大地震	田辺健司	
ロスで見かけた異星人女性	加藤純一	
アダムスキーの大地を訪れて	黎明会有志	
巨大母船、安比高原に出現!	秋山和広	
サイコメトリーによる書物の質の感知法	林 国宜	
UFOの速度・肉体と魂・		
真の科学・長寿法	G・アダムスキー	

No.128	1995年(平成7年)1月25日発行	¥700
アダムスキー・永遠の真実と栄光	ダニエル・ロス	
わが母の驚異のUFO目撃	ミシェル・ジルガー	
総会の日UFO出現		
那須高原で巨大母船出現!	堀江健一	
ダニエル・ロス氏宅訪問記	久保田八郎	
あなたもオーラが見える	遠藤昭則	
予知能力を持つ土星人女性の援助	G・アダムスキー	

No.127	平成6年10月25日発行	¥700
UFO出現の国メキシコ	久保田八郎	
ロスウェル事件とMJ12文書	坂本貢一	
UFO目撃と不思議体験の旅	4名執筆	
私もアダムスキー型円盤を見た!	山口邦雄	
UFOとオーラと想念	山崎和子	
奇跡的に難病を治す方法	久保田八郎	
異星人とUFOの真相(2)	G・アダムスキー	

No.126	平成6年7月25日発行	¥700
驚異の瞬間移動とUFOの超低空降下	久保田八郎	
UFOを頻繁に見る私のカルマ(2)	溜池みゆき	
私も母船を見た!	津田篤孝	
ムー大陸から見た原日本人	澤入達男	
昔のUFO目撃の思い出	橋本恵一	
異星人とUFOの真相(1)	G・アダムスキー	

1997 GAP-JAPAN GENERAL ASSEMBLY

日本GAP総会

全国の日本GAP会員の皆様にはご健勝のことと存じます。今年も総会の季節が近づいてまいりました。今回は久保田先生が下記の演題で大講演を行ないます。36年に及び日本GAPの運営において絶大な困難を乗り越えながら宇宙のメッセンジャーとして大活動を展開してこられた先生の興味深いお話が聴ける絶好の機会です。特に宇宙哲学をみずから実践して若者をしのぐ強健な体力を維持される秘訣その他の秘話が展開するでしょう。多数の方々のご参加をお待ち致しております。本部役員一同心から歓迎致します。

日本GAP本部役員幹事 加藤純一

▶機械振興会館



講演

総会 (予約不要)

大夕食会 (要予約)

日本GAP
会長
久保田八郎

- 日 時=9月14日(2連休の初日) 12:00 受付開始/1:00開会
- 会 場=機械振興会館 地下2階大ホール
東京都港区芝公園 東京タワー前(芝公園は本物の公園ではなくて単なる地名です)
- 交 通=都内JR山の手線電車で浜松町駅下車(東京駅より三つ目)。降りたホームを東京駅方向の端まで歩き、階段を降りると同駅の北口へ出ます(注意=この駅から羽田空港へ行く大勢の人が同じホームから階段を昇りますが、これにつられて一緒に昇らないように)。北口改札を出て大通りに出ると北方にタワーが見えます。駅の隣の「貿易センタービル」の正面に東京タワー行きバス停留所があります。タワーまで約8分、料金¥200。貿易センタービルの手前にはタクシー乗り場もあり、タワーまで約5分、料金¥660。徒歩約20分。タワー前の道路をへだてた斜め向かいに機械振興会館があります。休日は正面玄関が閉鎖されていますので、右へ回って右側面の小さい入口から入り、エレベーターで地下2階で降りてすぐです。
- 会 費=一般¥5000/中高生¥2000/小学生以下は無料。受付で納入。

プログラム

1:00	司 会	篠 芳史
	挨拶	加藤 純一
1:10	講演「GAP活動・UFO・宇宙哲学」	久保田八郎
2:30	質疑応答	〃
3:10	休 憩	
3:25	超能力コンテスト(優勝者1名様に賞品贈呈)	遠藤 昭則
3:55	ビデオ映写(デザートセンター関係実写ビデオ)	解説 久保田八郎

※ご注意=総会中のストロボ付カメラ、ビデオカメラ等による撮影、テープレコーダーによる録音は自由ですが、講演その他の発言内容の著作権は日本GAPに帰属しますので個人または日本GAP以外の団体が印刷使用することは出来ません。また主催者に無断で印刷物を会場で配布することを厳禁します。

- 日 時=総会終了後 6:00→8:00(時間厳守)
- 会 場=機械振興会館 6階66号室
- 受 付=5:30より開始
- 会 費=¥7,500(昨年と同様)。会場入口の受付で納入(中学生割引なし。小学生以下は保護者同伴で無料)。飲物は飲み放題。
- プログラム=6:00開会。会長挨拶。乾杯(音頭は大阪支部の平塚和義代表)。食事。歓談。
- ※ご注意=大夕食会は立食形式のため自由に移動可能。愉快に歓談して楽しんで下さい。椅子は多数あります。出席者はある程度きちんとした服装でお願いします。
- 2次会=8:30→10:30 新橋駅そばの「銀座9(ナイン)1号ビル」地下の「天狗」奥座敷。会費=男性¥3000 女性¥2500。参加者は東京タワー前からタクシーで「新橋の土橋(どばし)交番前」と告げて直行すれば早しい、数人で相乗りしてワリカンで払えば安くつきます。タクシー料金は約¥800。土橋交番前で下車。大通りの真向かいです。

ホテル (要予約)

- ホテル=銀座キャピタルホテル(昨年と同じ)
〒104 東京都中央区築地(つきじ) 3-1-5
☎03-3543-8211
- 料 金=シングル ¥7,500(朝食・サービス込み・税別)
ツイン ¥15,000(〃)
(現在シングル55室、ツイン5 室を確保)

観 光 (要予約)

- 日 時=9月15日(連休2日目)雨天実施
- コース=今回は江戸川区の「葛西(かさい)臨海公園」に行きます。ここは東京湾に面した広大な敷地に世界屈指の大水族園、鳥類園、5種類のレストラン多数のトイレ等の施設がありますが、日玉は久保田会長とUFO男の加藤純一幹事が同行するUFO観測にありますが。多数ご参加下さい。9:00に東京駅集合。京葉線で公園へ直行。見学・観測後、2:00に船で日の出桟橋まで東京湾を約1時間周遊電車「ゆりかもめ」で新橋駅着後、東京駅で解散します。費用は総額(昼食代共)約¥3000。現地で全員記念撮影。芝生に腰を下ろすためのレジャーシート等は本部役員が準備します。観光参加希望者には、朝東京駅に集合の際、詳細資料を差し上げて係の役員が説明を致します。お子様づれ歓迎。現地ではいつとき自由行動にし、時間と場所を指定してUFO観測会を行ないます。雨天の場合観測は中止。

予約申込み

- 大夕食会=ハガキに「総会後の大夕食会出席予約」と書いて住所・氏名・電話番号を明記の上、9月10日までに必着、日本GAP宛お申込み下さい。
- ホ テ ル=ハガキに「日本GAP総会ホテル予約」と書いて氏名、住所・電話番号・宿泊日・シングル/ツインの別を明記し、9月1日までに(必着)下記へお申込み下さい。(締切日厳守)。
※ご注意=申込みは日本GAP宛ではありません。
〒150 東京都渋谷区神宮前3-22-9
満月ビル3F
ス/リッツアーリスト 小林様(宛)
※宿泊費はチェックアウト時に各自でホテルに支払って下さい。
- 観 光=ハガキに「観光参加希望」と書いて、住所・氏名・電話番号を明記の上、9月10日までに必着、日本GAP宛お申込み下さい。観光内容については右の欄を参照して下さい。

GAP活動・UFO・宇宙哲学

Letters

ユーコン広場



氏 禮儀正しい立派な黎明会の諸
静岡県 高梨十光

春陽麗和の候、久保田先生にはい
つも有難うございます。さて先頃日
本GAP内の支持組織「黎明会」の
方々が三島市民文化会館で開催の日
本GAP伊豆支部月例セミナーに出
席されました。総数五名で、加藤純
一氏、大根田匡史氏、岡田茂氏、会
田裕子嬢、城真美子嬢です。

事前の加藤氏による丁寧なご挨拶、
岡田氏の立派な書簡、大根田氏の丁
寧な電話等、いずれの方々も全くの
大人の態度でありました。伊豆支部
としては初めてお迎えする方々ばか
りですが、あれほどまでに礼儀正し
く丁寧で、謙虚で、勇敢で、明るく、
真摯であるとは想像以上でした。こ
の方々が立派な紳士淑女であったこ
とを久保田先生に謹んで報告致しま
す。日本GAPのますますのご発展
をお祈り致します。

(編注)以上の諸君は黎明会員であ
るとともに本部役員を兼任してい
る)

地球最高の専門誌ユーコン

兵庫県 宇野秀樹

先般はユーコン誌(UFO
Contact)誌の略称)一三七号を有
難く受領致しました。いつもながら
先生が渾身の力を込めて製作された
地球上で最高の専門誌である本誌を
有難く拝読させて頂きました。

投稿歓迎字数を問わず。匿名発
表可なるも住所氏名明記のこと。

今回の大きな特色として巻頭言の
直感力が源泉となっている件、人間
のカルマや転生が何かの認識の差異
と関連があること、アダムスキー氏
とオーソン氏の二千年間を経たつな
がり等、非常に全身に浸透する内容
で、とても高貴な感じを受けました。
「UFO頻出のデザートセンター」
も大変具体的で理解しやすく、先生
の解説でデザートセンターやコンタ
クト地点の説明内容は魅力的で素晴
らしかつたと思います。参加なさつ
たメンバーの方々レポートも、共
通した一つの高貴な方向性が明確に
表われていて、単に知識のみでなく、
全身で感じるフィリリング、印象の
感じ方、従い方、その他に深い感銘
を受けました。今回の一三七号は全
体的に高貴なフィリリングと喜びが
溢れており、真摯な内容でとても感
銘を受けました。今後も先生の素晴
らしいユーコン誌を心から待ってい
ますので、よろしくお願ひ申し上げ
ます。

アダムスキーの本で救われた

栃木県 脇田 優

アダムスキー氏の本は何度も読ま
せて頂いております。そしてそのた
びに新しい気づきとともに高揚感に
包まれて理解が深まってゆくように
思われます。書籍に触れてから四年

になりますが、その間にエゴ、プ
ライドとの戦いが何度もあり、死にた
くなったりして苦しめられました。
しかしそのたびに痛い思いをしては
はスタート地点へ私を立たせたのは
無力無知な自己を知ったことと、現
実の世界でした。再度決意が生まれ
てくるのは、受容と自制を通じて平
安が心を支配するときでした。現在
は祝福と感謝の反復思念を毎日くり
返しています。

UFOのことにつきましては、昨
年の二月に天空にUFOの大群が
静かに飛来して来る様子をありあり
と夢で見ました。とても現実的で非
常に高揚して目覚めたのを覚えてい
ます。これは近い未来の光景を見た
ようです。やつと人類がターニン
グポイントにさしかかり、明るい未
来へと進んで行くのかと思うと、と
ても安心してスペーススピールの
方々に感謝しております。肉眼では
UFOらしい光を三度見ました(以
下略)

赤ちゃんとテレパシー

長野県 宮澤弘美

ずいぶんご無沙汰しています。
娘も一歳になり、今年GAP総会
にも家族で出かけられそうです。ユ
ーコン誌が届くと、いつも真っ先に
封を切るの主人です。会社にも持ち
歩いてるようです。私は言葉で赤
ちゃんとの時間を過ごす中、テレパ
シーがどんなに言葉よりも重要であ
るかを知りました。

赤ちゃんは母親である私が忙し
さにかまけてると病気になるてしま
うほです。赤ちゃんにとっても、
自分が母親に想念を送ってもそれを

キャッチしてもらえないということ
は、よほど悲しいことのようにす
ね。目と目で話す、心でわかりあえ
るということも、私にとっても赤ち
やんとともに、最高に楽しいこと
です。毎日いろいろと重ねていくこ
ちに、私達夫婦にとっても最高のテ
レパシー能力開発が楽しく出来たよ
うに思っています。

友あり、遠方より来たる

和歌山県 片野純而

大変良い気候になりました。U
FOコンタクトテイ誌のご送付をいた
だき、有難く存じました。毎号御労
作を拝読し、感銘致しております。
この頃は若干根気も衰えているのが
現状です。暇をみては御労作を精読
させていただきます。

山の畑が作っている水仙も今年
見事に咲きました。この場所は下の
道路からは全く見えない場所にあ
り、私の独占地の趣があります。
(編注)片野氏は編者の大学の同期
生で昔からの友人。昭和三十六年(一
九六一年)日本GAP創立時からの
会員で、以来交流が続いている)

万物が宇宙の異なった一部

名古屋 宮崎雅子

いつもユーコン誌をお送り頂き
有難うございます。一三六号は連載
中のZ氏のコンタクト実話、塩谷博
士のパワー溢れるGAP総会での講
演録、そして毎号おなじみのアダム
スキー講演集連載など、大変興味深
い内容の記事を楽しく読ませて頂き
ました。特に異星人たちが名前を持
たない説明として、アダムスキーの
次の言葉はとても印象的でした。

「それぞれが自分自身をユニークに
表現していて、その表現法がいわば
名前の役割を果たしているんです。
同じ表現は二つとありません。万人
が宇宙の異なった一部を表現してい
るんです」

これは人間のみならず、石ころも
草花も動物も、すべてのものがそ
うであり、そしてすべてが一つのもの
につながって一体であるという
ことですね。現在の地球人が一番学
ばなければならない時期にきている
と思うのです。

英国より帰国の挨拶

大分県 高橋 徹

先生にはお元気でですか。立冬の過
ぎて、まわりの木々も冬支度を始め
たようです。私達家族はおかげさ
まで英国での外地研修を無事終了し
まして、先月の始めに日本にもどつ
てまいりました。文化の違いを感じ
ることが出来、とても良い勉強
になりました。在英中にはお忙しい
なかをユーコン誌をお送り下さり、
有難うございました。先生の暖かい
ご好意に家族一同とても感謝してい
ます。また、コニストンのオールド
マン山についての情報も頂き、とて
も楽しい滞在となりました。先生の
ご健勝とますますのご活躍を心より
お祈り申し上げます。

(編注)筆者は本号に「コニストン
円盤事件の現地を訪ねて」を寄稿し
た人。イギリスに研修で滞在してい
た)

素晴らしい福山支部大会

大阪府 福井貴子

福山支部大会では先生の大変素晴

らしいご講演を有難うございました。久しぶりに近くで拜聴できましたことがとても嬉しかったです。

宇宙哲学で良い運命を作る方法の三つのポイント。

1、大宇宙の創造主を自覚して、自分が創造主の化身であることを認識する。
2、万人を尊敬する（礼拝する）。

差別なしに尊敬する。

3、自分はいつも楽しい気分には包まれている。

攻撃されたり非難されたりした時、相手をやっつけようと思わず、その人の内部の宇宙の意識を尊敬するということにあらためてその重要性を感じました。思うことは易しいが実行は難しいですね。でも出来るように心がけたいと思います。また多くの楽しくて素敵な実例をあげてのお話は勇気を与えて下さいました。

また福山支部の葉田代表をはじめとする支部の皆さんの心あたたまる出迎えを受けて、本当に嬉しい時間を過ごさせて頂きました。有難うございました。

宇宙の波動を感じるドームハウスへようこそ！

私は日本GAP会員の成澤満男と申します。久保田先生をはじめGAP会員の方々の素晴らしい活動に接して感動しています。万物の父は私に希望の光を投げかけ続けてくれました。それに導かれて昨年の夏より群馬県の北軽井沢で「太陽の子供たち」という名の宿泊施設であるペンションを始めました。建物にはこの広大な宇宙の広がりを感じさせるバックミンスター・フラー博士考案のフラードームハウスを採用しました。お客様にUFOやスペースプラザーズ問題を伝えるために、アダムスキー関係の書籍や田船とスカウトシップ等の写真を展示

しています。妻も私も日本GAP会員の皆様と交流できればと思っておりますので、日本のパロマーガーデンズというべき北軽井沢へぜひ一度お泊まり下さい。UFO観測にも最適です。ハガキでお問合せ下さいればパンフレットをお送り致します。この素晴らしい宇宙時代にユニーク誌を通じて皆様と出会えたことに心から感謝致します。

★一泊一食付（自然食）一万円（日本GAP会員の方は5%引き）
〒377-115 群馬県吾妻郡嫺恋村鎌原一六二六一五〇
ドームパラダイス「太陽の子供たち」 ☎0279-8615400

究極のヒーリングができるドーム宿泊

紅葉の林をくぐり抜けてドームと輝く瓦色の屋根が現れる。ドーム・パラダイス「太陽の子供たち」は車椅子の利用もできる簡易なペンションだ。オーナーの成澤満男・由紀子夫妻は30代だが、はきまりがたコンセプトを持つこのドーム空間を運営している。宿泊はできれば一日グループ（宿泊のみ定員10名まで）だけ。誰に気が合せず、ゆつたりとくつろいでほしいから、食事は自然食が主体。リラクゼーションのための書物と音楽を用意し、徹底した安らぎ空間の演出が、今

ドームハウスに泊まってみる

こうやって説明したり、写真を並べても、あのドームの中の不思議な感覚は伝わりにくい。興味を持った人にはぜひとも宿泊体験をお勧めする。今年8月できたばかりのペンションを紹介しよう

年8月の開業以来、口コミだけでお客様を集めている。成澤さんとドームハウスの出会いには筑波の科学万博にまでさかのぼる。まだ学生だったが、いつか自分で作るという夢を抱き、送ってもらった材料も、そして、数年の間に読んで面識をくわしたことをきっかけに、相隣りした土地にドームハウスを作ることを決意したという。

メーカー最大級のドームは驚きの巨大空間。1階は、共有スペースの吹抜けホールと車椅子でも使える客室。2階は畳を入れた和風の客室。地下には浴室を設置。船かなごころまで神経が行き届いた親切設計だ。また、屋根は紫外線したポランテア種樹

だからこそ、この設備内容で一泊一万円。新しいタイプの宿泊施設としてぜひ一度泊まってみてほしい。☎0279-8615400



①1階から地下へは車椅子の昇降機が設置してある ②長岡式玄米酢飯箱の和食が中心だ ③客室はドームには珍しい畳の部屋。ミニフロアも付いている ④ホールの一部には読書スペースもある ⑤ジェット水筒で全身マッサージできるバス。天井のスピーカーからは好きな音楽を流してもらえる ⑥トイレも身障者仕様にも広々として使いやすい

ジョージ・アダムスキー 著
久保田八郎 訳

George Adamski

全面改訂・改訳
全10巻／各四六判

新アダムスキー全集



超絶した文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！ UFOや惑星群の驚異の実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙の覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

1 第2惑星からの地球訪問者

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1922円十税）／四六判並製

●世界的に著名なUFO研究者、ジョージ・アダムスキーが金星人と会見、自ら円盤や母船に乗り他の惑星の文明の実態を明らかにした本全集の中心たる書。

2 超能力開発法

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1262円十税）／四六判並製

●人間に内在する宇宙的能力の開発法を説く。四官をコントロールして肉体内部の宇宙意識からのメッセージを感じ、テレパシー、遠隔透視などを学ぶ。

3 21世紀／生命の科学

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1262円十税）／四六判並製

●地球外生命体との接触によって開発されたアダムスキーの超能力開発プログラムの全貌。進化した異星人から地球人に伝えられた12のレクチャーを公開！

4 UFO問答100

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1262円十税）／四六判並製

●1985年アダムスキーは世界中から送られてくる質問を分類し質疑応答集をまとめた。UFO問題の疑問を解き、混乱したUFO研究界に解答と示唆を与える書

5 金星・土星探訪記

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体2330円十税）／四六判並製

●アダムスキーが大母船に乗せられ、高度な進化をとげた金星・土星を訪れる驚異の体験記録。金星人として生まれ変わった亡き妻との再開。

6 UFOの謎

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1922円十税）／四六判並製

●円盤の推進理論や聖書とUFOとの関連など、UFOと異星人問題の真相を解明する書。後半は著者の世界講演旅行記で各国GAP網の活動状況を克明に描写。

7 21世紀の宇宙哲学

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1000円十税）／四六判並製

●地球人が宇宙的な成長をとげるために、心体内部に宿る宇宙意識との一体化を説いた書。既存の宗教・哲学では理解しえなかった意識と万物との関係を解く！

8 UFO・人間・宇宙

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体2330円十税）／四六判並製

●日本GAP機関誌に掲載されたアダムスキーのUFOと宇宙哲学に関する論文や講演録を編纂。特に他界する直前の最後の講演が圧巻！

9 UFOの真相

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体1922円十税）／四六判並製

●アダムスキーの薫陶を受けた人々の論説、講演録などを収録。アダムスキーの宇宙の実態と、人間味豊かな庶民性を持つ素顔を多角的にとらえる。

10 超人ジョージ・アダムスキー

久保田八郎著

定価（本体1262円十税）／四六判並製

●アダムスキーの理論と哲学を要約、国際的アダムスキー研究者・久保田八郎が初めて書き下ろした意欲作！アダムスキー入門書。

11 肉体を超えて大宇宙と一体化する方法

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳

定価（本体2800円十税）／四六判並製

●アダムスキー高弟のアリス・ボマロイ女史が、アダムスキーの膨大な講演録音を収集。久保田八郎氏が翻訳した大著。宇宙哲学の真髄を究めた最高の名著。

別巻・UFO宇宙からの完全な証拠

ダニエル・ロス著 久保田八郎訳

定価（本体2718円十税）／四六判並製

●アメリカ気鋭のUFO研究者、ダニエル・ロスが全力で展開したUFO問題の真相！アダムスキーの体験の真实性を科学的に実証した書。

* 新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと

定価の10%引き+送料がサービスとなります。

* 定価は、全て税込みです。



中央アート出版社

〒104東京都中央区京橋3-7-13

TEL 03-3561-7017 郵便振替：00180-5-66324

UFO事件と 愛の異星人 交信

久保田八郎著

定価(本体2500円+税)送料310円
四六判並製・352頁

世界のUFO事件を研究調査してきた著者が、ルールドの奇蹟やファティマの名高い聖母空艇事件やメキシコのマヤの遺跡その他の謎の事件等に現地調査のメスを入れて、別な惑星から来た宇宙船に起因することを検証し、さらに異星人と交信して愛と救いのメッセージを与えられている日本人青年の感動の実話を加えた心あたたまる希有のノンフィクション。



UFOと 異星人の 真相

久保田八郎著

定価(本体1650円+税)送料310円
四六判並製・288頁

UFO研究者の第一人者・久保田八郎が書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとにUFOの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を明らかにしていきます。加えて超能力等の問題や、氾濫するUFO関連情報の真偽にも迫るUFOを研究する人の必携の書です。



UFOと 宇宙哲学の 行方

(ゆくえ) 久保田八郎著

定価(本体1650円+税)送料310円
四六判並製・288頁

本書はわが国UFO研究者の第一人者・久保田八郎が「UFOcontactee」に長年にわたって掲載してきた記事や講演から選りすぐって編集したもので、UFO問題とアダムスキー哲学に関する著者の研究の集大成ともいえる内容になっています。2部構成になっている本書は、まず第1部ではアダムスキー哲学を人生に生かしたり、難病の治療に応用する実践法を明らかにしていきます。UFOを研究する人のガイドブックとしても最適な書です。

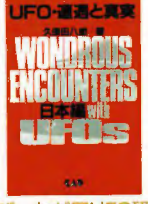


UFO・ 遭遇と 真実

日本編—久保田八郎著

定価(本体1500円+税)送料310円
四六判並製・264頁

日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編集した本書は、実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。



※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。



CHUO ART PUBLISHING, CO., LTD.

中央アート出版社

〒104東京都中央区京橋3-7-13

TEL 03-3561-7017郵便振替 00180-5-66324

英文版「UFO contactee」No. 12 日本GAP

日5版/12頁/コート紙使用/¥500 送料¥190 (No.1~3は品切れ)

日本GAPは日本語版「UFO contactee」誌を年4回発行するかわり、国際版として英文版「UFO contactee」誌を年1回刊行して世界のUFO研究団体や個人研究家と交流を保っています。本誌にはアダムスキー問題を主体としたUFOと宇宙哲学関係記事を主体に掲載し、アダムスキー執筆の質疑応答も連載しています。No.12には日本語版No.137に掲載された「UFO類出のテザートセンター1」の英文記事が写真入りで載せてあります。流麗な英文による本誌は英語学習にも最適です。日本GAPへハガキでご注文下されば代金あと払いでお送り致します。着後同封の振替用紙でご送金下さい。



編集後記★★★

●本誌の記事をご覧になれば日本GAP関係者の背後にはなにかとUFOの影が見え隠れしていることにお気づきでしょう。スペースビーブルの援助があることを実感させる団体が日本GAPです。それは単なる興味本位のUFO現象の追跡だけではなく、宇宙哲学による宇宙的な生き方を旨とする高次元な精神波動を持たないとスペースビーブルは同調し接近してくれないようです。UFO研究は人間研究だとの編者の持論に誤りはないと自負しています。

●火星に関してはかねてから人工的な巨大な建造物、ピラミッド、人面岩等の存在が喧伝されてきましたが、今回の探査機パーセヴァンダーによる探査結果が次第に明らかになるでしょうし、または例によってアメリカの関係機関は隠蔽策をとるかもしれません。しかし「隠されているもので洩れられないものはない」という法則によって、いずれは火星の全貌が表面化するでしょう。それまで根気よく待つことしましょう。

●UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。掲載分には薄謝を呈します。

●本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に直販で卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP専門誌・季刊 秋季号
UFO contactee 138号

編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒133東京都江戸川区日本一色1-12-151
TEL 03-3665-1099 FAX 03-3665-1095
振替 00140-2-35912
一九九七年七月二五日発行

定価九四五円(本体九〇〇円)+送料240円
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京 本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※本年9月は総会のため月例セミナーは中止。 ※本年12月のみは地下3階の第2研修室に臨時変更。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」6階67号室。 ☎03-3434-8211。JR 浜松町駅下車。東京タワーの直前。 浜松町駅北口から東京タワー行きバスで約8分。 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側の入口から入る。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958	会場費 ¥1000 セミナー 受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:40 会員の講演。 1:45→3:15 久保田会長の能力開発 講義「宇宙哲学」 3:25→5:00 超能力開発練習/近況 報告/ビデオ映写/質疑。 ※日本GAP会員でなくても入場可。 ※会場に臨時売店開設。新アダムス キー全集、GAPグッズ等を販売。
大阪 支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JR または阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-411-2367	¥500	東京月例セミナーにおける久保田会 長の講義のビデオまたは録音テー プを公開。テキストは上記と同じ。
新潟 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR 新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同上
名古屋 支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 ※9月の第2日曜は東京総会のため第3日曜 の21日に変更。	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議 室。☎052-331-2141(代) JR 東海・名鉄・地下鉄の金山駅より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥500	同上
山形 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時に変更があるため、毎月事前に柴田宛 電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市 役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥500	同上
札幌 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時と会場は不定につき、事前に高野宛問 い合わせることに。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同上
旭川 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎166-61-0044	¥500	同上
沖縄 支部	毎月第4火曜日 午後7:30→10:00	宜野湾市嘉数1-6-5 早川宅 ☎098-890-1324 連絡先=里 孝人 ☎098-835-3991	¥500	同上
秋田 支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同上
横浜 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※7月は移動月例会実施のため休会。 10月は第4日曜から第3日曜の19日に変更。	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」 ☎045-681-6551 JR 関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩 3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5995-6038	¥500	同上
茨城 支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2 みと好文カレッジ小集会室。 ☎029-224-6602。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎029-273-1903	¥300	同上
長野 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番地「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253 連絡先=博田文喜 ☎0264-24-3012	¥500	同上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時については事前に松口に問い合わせる こと。	和歌山県新宮市春日1番35号 「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー ☎0735-23-0005 JR 新宮駅下車、徒歩5分、新宮市役所隣。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0384	¥300	同上
南九州 支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2-3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先=曾我部勇人 ☎0992-53-2315	¥500	同上
高松 支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:30 ※日時に変更があるため事前に電話。	香川県坂出市寿町1-3-5「坂出勤労福祉センター」 ☎0877-46-2463 JR 坂出駅より徒歩10分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥500	同上
伊豆 支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※月例セミナーに関する事前の問合せは必要 なし。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同上
福山 支部	毎月第2日曜日に変更 午後1:00→4:00 ※日時に変更があるため事前に電話。	広島県福山市丸の内1-3「びんご荘」 ☎0849-25-3977 福山駅から徒歩3分。 連絡先=兼田(なつめだ) 雅則 ☎0847-52-6306	¥500	同上



オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーが米カリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウェルス女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130

金星のシンボルマーク



中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。

¥500 送料¥80

ESPカード〈超能力開発用〉

テレビシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥1,500 送料¥130 (2~5個)¥190

テレフォンカード



日本GAP特製テレフォンカードの第8弾。1954年2月15日、イギリスのランカシャー州のコニントンで、当時13歳のスティーヴン・ダービシャー少年が撮影したアダムスキー型円盤。詳細は新アダムスキー全集第1巻「第2惑星からの地球訪問者」40頁に出ています。

¥1,500 送料10枚まで¥80

GAPキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の英文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出ています。

¥1,900 送料130

会員バッジ



金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000 送料4個まで130

ブックカバー

主として新アダムスキー全集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優れたデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270

GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80



新アダムスキー全集

訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

申込先 上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替が現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、商品到着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP 振替 00140-2-35912

☎03-3651-0958



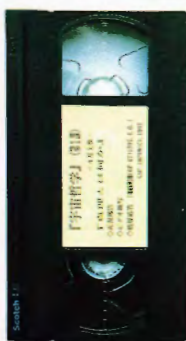
日本GAP能力開発カセットテープ

●「宇宙哲学」能力開発テープ ¥1500
送料1本¥190 計¥1690

日本GAP東京本部開催の月例セミナーで久保田会長が97年4月から毎月行なう「宇宙哲学」解説講義と質疑応答を録音したテープ。みずから宇宙哲学の実践により青年のような体力と気力を保つ70歳代会長の大いなる信念と勇気を起こさせる話をぜひお聴き下さい。宇宙的な覚醒感により人間が変わり運命も好転します。

●テープのご注文も代金後払いで結構です。○年○月○日○個数・氏名・住所・電話番号を明記の上、ハガキで注文下さい。ただし東京月例セミナーのテープはセミナー終了後、製作に約70日間を要します。

申込先 日本GAP



日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

●東京本部分月例セミナー 全1巻 ¥3000

(内容) 久保田会長の解説講義、他、約120分。

●日本GAP総会 全2巻各¥3000

(内容) 毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分現在は在庫あり)

●日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000

(内容) 旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分現在は在庫あり)

●米ワシントン市のアダムスキー大会における久保田会長の講演(英語)。

全1巻 ¥3000

(内容) 1995年9月8日、久保田会長が英語で長時間講演したためずらしいビデオ。英文テキスト付き。日本語翻訳文は本誌131号に掲載。送料はビデオ1本¥390、2本以上3本まで¥700。

申込先 ご注文の際は品名、○年○月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金後払いは不可) 〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103 伊東芳和 振替 00140-8-13811 ☎03-3351-9526

波動は転写できる!

この素晴らしい事実をあなたに!

●個別波動転写機

APOLLO
BIO WAVE CONVERTER

アポロ



■光のサイクロンインジケータ付き
超軽量520gエルゴデザイン
4段階ワンタッチフルオート転写

波動転写前



波動転写後



■波動転写計測データ

市販ミネラルウォーター(フランス産)に免疫波動+21の日本産ミネラルウォーターの波動を転写した実験。

	免疫	アレルギー	胃	皮膚	自立神経
転写前	+4	0	+10	+8	+2
転写後	+21	+21	+21	+21	+21

■波動の世界のパスポート。これで、あなたは変わる。

物質の個別波動をあらゆる物に転写できます。UFOの写真から出る波動、クリスタルの波動、能力者の写真の波動、星の写真の波動、ミネラルウォーターの波動、これらを左側に置いてあなたのキーホルダーや、手のひら、化粧品、ハンカチ、ブレスレット等に転写してみてください。アダムスキー氏の写真(人物、UFO)をあなたのお気に入りのペンダントに転写しても楽しいでしょう。今まで高価であった波動転写機の高級最新バージョンをリーズナブルな価格でお届け致します。誌上最強のこのチャンスをお見逃しなく!!



●自分自身の波動を整える。



朝日の写真の波動を時計に転写する。(太陽→時計)



水晶の波動を自分に転写する。(水晶→左手)

GAP読者だけの
プレゼント

今、アポロをご購入頂いた方に、
あなたの生活用具を波動のお守りにする
バイオメディア・シールドをプレゼント!

アポロ体験談

アポロを始めて感じたことは、まず、体調が良くなり、気分の壮快感が出て来ました。自己波動調整が気に入って毎朝やっていますが、代謝が活性化し冷え症がなくなりました。また、波動水を作り飲んでいますが、肌がピチピチしてきて化粧品ののりがよくなるなど、アトピー体質が改善されてきて、とてもうれしく思います。

【長野県 S.Tさん 26歳】

- ◎月々4,300円×36回 初回のみ2,806円加算)
- ◎一括払い価格124,000円(税別) 代引き又は銀行振り込み。

●お支払い方法は便利な代金引換払いか、下記口座にお振り込みください。クレジットは自動引き落とし可。

三和銀行高田馬場 支店普通3733990
(株)アイカ

◎商品到着後7日以内は返品可能。送料はお客様ご負担で
お願いします。◎ご使用後の返品はご容赦下さい。

- 名前 (印)
 - 生年月日
 - 住所
 - 電話
 - お支払い方法
- アポロを
注文します。

切手 171
日本
GAP
係
株式会社
アイカ
豊島区池袋2-43-3
田村ビル5F

■お申し込みは今すぐおはがきか、お電話で!



株式会社アイカ

〒171東京都豊島区池袋2-43-3田村ビル5F

TEL03-5992-4661

FAX03-5992-6461 24時間受付